

琵琶湖博物館業績目録

11 号

2006 年度



LAKE BIWA MUSEUM
琵琶湖博物館

Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 11

From April 2006 to March 2007

Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: SATOGUCHI, Yasufumi)

Published by the Lake Biwa Museum

Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

© Lake Biwa Museum, October 2007

All rights reserved

琵琶湖博物館業績目録

第 11 号

2006 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2007 年 10 月

目 次

収録内容	3
館長	
川那部浩哉	KAWANABE, Hiroya 5
環境史研究担当	
中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo 8
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi 11
牧野 久実	MAKINO, Kumi 15
山川千代美	YAMAKAWA, Chiyomi 17
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori 20
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi 23
宮本 真二	MIYAMOTO, Shinji 26
榊永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro 29
生態系研究担当	
前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi 32
小川 雅広	OGAWA, Masahiro 37
松田 征也	MATSUDA, Masanari 39
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki 44
亀田佳代子	KAMEDA, Kayoko 47
西村 知記	NISHIMURA, Tomoki 52
孝橋 賢一	KOUHASHI, Kenichi 54
草加 伸吾	KUSAKA, Shingo 57
楠岡 泰	KUSUOKA, Yasushi 60
中井 克樹	NAKAI, Katsuki 65
牧野 厚史	MAKINO, Atsushi 72
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki 75
矢野 晋吾	YANO, Shingo 79
大塚 泰介	OTSUKA, Taisuke 81
スミス, R. ジェームス	SMITH, Robin James 85
博物館学研究担当	
布谷 知夫	NUNOTANI, Tomoo 87
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark J. 95
用田 政晴	YODA, Masaharu 100
秋山 廣光	AKIYAMA, Hiromitsu 104
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro 107
戸田 孝	TODA, Takashi 112
中村 公一	NAKAMURA, Koichi 115
中野 正俊	NAKANO, Masatoshi 120
中藤 容子	NAKATO, Yoko 125

嘱託職員等

青木 伸子	AOKI, Nobuko	128
新井 文子	ARAI, Tomoko	130
太田 佳恵	OOTA, Yoshie	132
中園 健治	NAKAZONO, Kenji	134
堀田 桃子	HOTTA, Momoko	135

特別研究員

北村 美香	KITAMURA, Mika	137
野嶋 宏二	NOJIMA, Koji	139
堀田 桃子	HOTTA, Momoko	140
水野 敏明	MIZUNO, Toshiaki	141

総合研究・共同研究成果による印刷物	145
-------------------	-----

2006 年度の研究活動をふりかえって	146
---------------------	-----

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および嘱託員、特別研究員等の2006年4月から2007年3月までの内容が収録されています。
2. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

- 【学術論文】
- 【専門分野の著作】
- 【一般向けの著作】
- 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

- 【学会・研究会での発表】
- 【インターネットページでの公表】
- 【研究プロジェクト等への参加】
- 【学会等の役職・運営、論文の査読など】
- 【大学の講義・実習、学生の指導など】
- 【受賞など】

博物館事業に関する業績

- 【交流・サービス事業】
 - 琵琶湖博物館の主催行事
 - 他の博物館・機関等主催行事
 - 視察対応
 - メディアへの協力
- 【情報整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動
- 【資料整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【企画調整活動】

【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

【海外渡航】

【館外の活動】

館長

印刷物

【一般向けの著作】

- 養老孟司・川那部浩哉（2006）虫を通して世界を見る．うみんど，（38），琵琶湖博物館：4-5.
- 川那部浩哉（2006）生物多様性科学国際計画・世界湖沼会議・地球圏生物圏国際協同研究計画・なわばり．日本陸水学会（編），*陸水の事典*，講談社サイエンティフィク，東京：272・274・321・369.
- 川那部浩哉（・萬谷彰三）（2006）ともに生きるやすらぎトーク；勝ち負けより長い目で見よう発想を変え、自然から学びたい．*京都新聞*：2006年4月2日.
- 川那部浩哉（・北川あゆ・植村真由佳・三谷英里・天野康平・馬越法子・萬川 和）（2006）川の生態系．子どもと川とまちのフォーラム ブックレット，1，子どもと川とまちのフォーラム，京都：4-45.
- 川那部浩哉（2006）本の紹介；ハンター&ハンテッド．*野生生物保全論研究会会報*，1，野生生物保全論研究会：21.
- 川那部浩哉（2006）まえがき．中島経夫（編），*琵琶湖博物館第14回企画展示解説書「湖辺一水、魚、そして人―東アジアの中の琵琶湖」*，琵琶湖博物館：1-4.
- 川那部浩哉（2006）野生動物の真の姿を伝え、守る；閉会のご挨拶．*野生生物保全論研究会会報*，2，野生生物保全論研究会：19.
- 川那部浩哉（2006）「たいへんだ」ということは、みんなわかっている．*Yes Kyoto It!*，1，京都放送，京都：20.
- 川那部浩哉（2006）ファールブル『昆虫記』発刊100年に寄せて．*国立科学博物館ニュース*，449：3.
- 小菅正夫・川那部浩哉（2006）動物が「幸せ」な展示．うみんど，（40），琵琶湖博物館：4-5.
- 川那部浩哉（2006）開館10周年にあたって―多くの人が参画、さらなる前進を．*京都新聞*：2006年10月18日.
- 川那部浩哉（2006）ごあいさつ．用田政晴（編），企画展でふりかえる*琵琶湖博物館の10年*，琵琶湖博物館：ii-iii.
- 川那部浩哉（2006）ごあいさつ．高橋啓一・里口保文（編），*琵琶湖博物館研究10年の歩み*，琵琶湖博物館：1.
- 川那部浩哉・北村眞一（2006）対談 湖国の伝統食を語る．奥村文代（編），*あかね*，44，京一中洛北高校同窓会，京都：56-61.
- 川那部浩哉（2006）ごあいさつ．*琵琶湖博物館年報*，10，琵琶湖博物館：1.
- 川那部浩哉（2006）「エコツーリズム」に思う．*野生生物保全論研究会会報*，3，野生生物保全論研究会：3.
- 川那部浩哉（・田村隆昭）（2006）川那部館長に聞く；来館増へ「ずるさ」改良．*朝日新聞*：2006年12月9日.
- 川那部浩哉（2006）いのちは「あいだ」にあり．藤原書店編集部（編），*いのちの叫び*，藤原書店，東京：118-119.
- 川那部浩哉（2006）川合禎次さんの思い出．*陸水生物学報*，21，陸水生物学会：67-70.
- 川那部浩哉（2006）生物多様性ってなに？第1回「生物多様性」という言葉の意味を考える．*自然保護*，495：18.
- 川那部浩哉・宮本博司・村上興正・嘉田由紀子・片野幸雄・綾 史郎・大槻 均・平山孝信（2006）今後の生物多様性の保全の方向性（第24回水環境とくらしの調和部会「座談会」より）．*地球環境関西フォーラム企画委員会（編），二十一世紀の環境創造―関西からの発信―*，地球環境関西フォーラム，大阪：69-73.
- 川那部浩哉（2006）新潟水俣病のこと．*水俣学通信*，6：2-3.
- 川那部浩哉（2007）2006年読書アンケート．*みすず*，546：14-15.
- 野村正育・川那部浩哉（2007）ふるさと・琵琶湖への想い．うみんど，（42），琵琶湖博物館：4-5.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006 年度後期，滋賀県立大学，非常勤講師「生物多様性理論」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアートーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，9 件。

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 5 月 20 日，『曖昧の生態学』-自然とは、科学とは、学問とは、人間とは何か-，農と自然の研究会，農と自然の研究会 福岡総会，伊都文化会館（福岡県前原市），講演。

2006 年 7 月 2 日，「もの」と「こと」の生態学，日本質量学会（BMS），第 33 回 BMS コンファレンス，大津プリンスホテル（滋賀県大津市），講演。

2006 年 9 月 19 日，琵琶湖と私，大津市民教養大学，大津市民会館（滋賀県大津市），講演。

2006 年 10 月 1 日，応用生態工学会，応用生態工学会 10 周年記念大会，東京大学農学部弥生講堂（東京都文京区），基調講演。

2006 年 10 月 10 日，琵琶湖の抱える問題（kyoto It より），環境問題研究会，環境問題研究会 10 月例会，現代医学研究所（川合診療所）（京都府京都市），講演。

2006 年 10 月 11 日，人と自然のかかわり-その文化と環境思想，第 5 回琵琶湖環境セミナー，滋賀県琵琶湖環境部水政課，厚生会館（滋賀県大津市），講演。

2007 年 1 月 25 日，人と野生の共生・共存を考える-とくに「食う-食われるの関係」をめぐって，石川県立大学環境科学科セミナー講演，石川県立大学，石川県立大学環境科学科（石川県野々市），講演。

2007 年 2 月 1 日，科学の多様性，静岡大学理学部講演会，静岡大学（静岡県静岡市），講演。

2007 年 3 月 3 日，「淀川水系の魚たち」-環境の変化から見る-，第 11 回「自然と環境」講演会，NPO 法人やましろ里山の会，京田辺市立社会福祉センター（京都府京田辺市），講演。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3 回。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2006 年 7 月 31 日～8 月 9 日，アイスランド，The 5th International Charr Symposium-University.

2006 年 9 月 3 日～9 月 14 日，フランス・ドイツ，SIAL 4/フアーブル展打ち合わせ。

【館外の活動】

日仏合同企画「フアーブル昆虫記 100 年記念展」実行委員会，日本側代表。

滋賀県琵琶湖総合保全学術委員会，副委員長。

世界自然保護基金ジャパン（WWF J），常任理事。

自然保護助成基金，理事。

野生生物保全論研究会，理事.

日本魚類学会，評議員.

生き物文化誌学会，評議員.

日本自然保護協会，評議員.

河川環境財団，評議員.

International Journal of Ecology and Environmental Biology，編集委員.

Environmental Biology of Fishes，編集委員.

日本学術振興会 21 世紀 COE プログラム委員会，同総合審査評価部会 革新的領域評価部会，各委員，同学際複合新領域審査部会，部会長.

地球環境関西フォーラム 100 人委員会，委員.

地球環境関西フォーラム企画委員会，委員.

地球環境関西フォーラム水環境とくらしの部会，部会長.

京都府文化財保護審議会，委員.

京都市文化財保護審議会，委員.

生態学琵琶湖賞運営委員会，委員.

国際生物学賞委員会，委員.

島根大学汽水域研究センター研究推進協議会，委員.

京都創世百人委員会，委員.

科学技術振興機構理解増進部会，委員.

日本水フォーラム運営委員会，委員.

地球環境大賞顕彰制度委員会，委員.

生物多様性科学国際共同研究計画（DIVERSITAS）科学委員会，顧問.

京都市青少年科学センター，学術顧問.

国土交通省，琵琶湖とその周辺の河川環境に関する専門家会議，アドバイザー.

Brasilian Journal of Biology，編集顧問.

Hydrobiologia，編集顧問.

山階鳥類研究所外部評価委員会，委員長.

応用生態工学会，名誉会員.

コイ科魚類の咽頭歯の研究を通じて、湖と人間のかかわりがどのように築かれてきたかを考えている。2006 年度の研究活動は、琵琶湖博物館の研究プロジェクトとして、総合研究「東アジアの中の琵琶湖-コイ科魚類の展開を軸とした-環境史に関する研究」を中心に行ってきた。この研究は、2006 年度が最終年度にあたり、2006 年度、2007 年度の企画展示、単行本の出版に向けて最後のまとめにはいつている。

また、2006 年度からは、総合地球環境学研究所:プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」（代表者：内山純蔵の琵琶湖ワーキンググループ、中国ワーキンググループで主に新石器化の景観形成史について研究を進めている。また、文科省科研費「河姆渡文化研究の再構築-余姚田螺山遺跡の学際的総合調査-」（代表者：中村慎一）に加わり田螺山遺跡のコイ科魚類咽頭歯遺体の分析を行っている。

咽頭歯研究のまとめとして、咽頭歯モノグラフ “Comparative studies on the pharyngeal teeth of cyprinids and their allies” の執筆に取りかかった。2009 年度をめどに出版にこぎつけたいと考えている。

印刷物

【学術論文】

宮本真二・中島経夫 (2006) 縄文時代以降における日本列島の主要淡水魚の分布変化と人間活動. *動物考古学*, (23) : 39-53.

Takahashi, T., Kameda, K., Kawamura, M. and Nakajima, T. (2006) Food habits of great cormorant *Phalacrocorax carbo hanedae* at Lake Biwa, Japan, with special reference to ayu *Plecoglossus altivelis altivelis*. *Fisheries Science*, 72 : 477-484.

【専門分野の著作】

中島経夫 (2006) 琵琶湖博物館での子どもの居場所事業について. 青木伸子・肥山陽子・北村美香(編)「地域子ども教室推進事業近畿近隣ブロックシンポジウム報告書」, 琵琶湖博物館, 草津 : 3.

中島経夫 (2006) 河崎の柵擬定地から出土したコイ科魚類咽頭歯遺体の分析. 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第474集「河崎の柵擬定地発掘調査報告書 床上浸水対策特別対策事業関連発掘調査」, 第3分冊 縄文時代編, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 盛岡 : 312-318.

【一般向け著作】

中島経夫 (2006) 田んぼとさかな. 「豊かな田園の生き物との共生をめざして」報告書, 滋賀県農林土木コンクリート製品協会, 滋賀県愛荘町 : 9-31.

中島経夫 (2006) 水, 魚, そして人のかかわりの歴史. 中島経夫(編), 滋賀県立琵琶湖博物館第14回企画展示「湖辺～水, 魚, そして人～ 東アジアの中の琵琶湖」解説書, 琵琶湖博物館, 草津 : 8-10.

中島経夫 (2006) コイののっこみ. 中島経夫(編) 滋賀県立琵琶湖博物館第14回企画展示 「湖辺～水, 魚, そして人～ 東アジアの中の琵琶湖」解説書, 琵琶湖博物館, 草津 : 12-13.

中島経夫 (2006) 湖辺～水, 魚, そして人～ 東アジアの中の琵琶湖. うみんど, (39), 琵琶湖博物館 : 2-4.

中島経夫 (2007) みんなでお魚を調査することの意義. 琵琶湖お魚ネットワーク報告書, WWF ジャパン・琵琶湖博物館うおの会, 草津 : 10-11.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表など】

中島経夫（2006年11月12日）人にとって、琵琶湖がいつからフナ・コイの湖になったのか，企画展示関連シンポジウム2「琵琶湖をめぐる景観の歴史」，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖-コイ科魚類の展開を軸とした環境史に関する研究」（研究代表者：中島経夫），研究代表者．

琵琶湖博物館共同研究『魚が確認できない』データに基づく魚類が脅威にさらされている地域の特定と要因の解明」（研究代表者：水野敏明），共同研究者．

琵琶湖博物館専門研究「コイ科魚類咽頭歯の研究」，研究代表者．

国立歴史民俗博物館総合研究「日本歴史における水田環境の存在意義に関する総合的研究」（研究代表者：安室 知），共同研究者．

総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：文化的景観の形成史」（研究代表者：内山純蔵），コアメンバー．

国立歴史民俗博物館「日本歴史における水田環境の存在意義に関する総合研究」，研究分担者．

文部科学省科学研究費補助金基盤研究（A）海外「河姆渡文化研究の再構築-余姚田螺山遺跡の学際的総合調査-」（研究代表者：中村慎一），研究協力者．

（財）世界自然保護基金ジャパン「琵琶湖流域の魚類情報のGIS化」，研究代表者．

社団法人近畿建設協会「琵琶湖魚類調査研究」，研究代表者．

全国科学系博物館等における地域子ども教室推進事業運営協議会「地域子ども教室推進事業」，研究代表者．

西日本自然史系博物館ネットワーク「琵琶湖博物館魚類標本の整備と公開」，研究代表者．

【大学での講義・実習、学生の指導など】

2006年1月9日・15日，滋賀県立大学大学院講義「生物多様性論」，講義．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館主催行事

はしかけ活動，うおの会，随時．

はしかけ活動，咽頭歯倶楽部，随時．

2006年8月23・27日，企画展関連イベント「化石のレプリカを作ろう」，体験学習実施，2件．

研修会・視察対応

琵琶湖博物館概要説明・展示案内，5件．

【情報整備活動】

魚類標本データベースの整備，整備責任者，随時．

研究・事業活動紹介のための個人インターネットページ，開設・更新．

【資料整備活動】

魚類標本 891 件登録（累計 47, 155 件登録）.

魚類標本 47, 155 件の維持・管理（貸出，液交換等を含む作業）.

館内人事・館外活動に関すること

【館外の活動】

滋賀県立大学大学院，非常勤講師.

西日本自然史博物館，ネットワーク理事.

【海外渡航】

2006 年 8 月 31 日～9 月 6 日，中華人民共和国浙江省余姚市，文部科学省科学研究費補助金基盤研究（A）海外「河姆渡文化研究の再構築—余姚田螺山遺跡の学際的総合調査—」にかかる調査研究.

総括学芸員

研究部長

研究部環境史研究担当グループリーダー

本年度も昨年度同様、研究部長および環境史研究担当のグループリーダーとしての活動を中心に行った。本年度は博物館の10周年にあたるため研究部でも開館10周年記念誌「研究部10年の歩み」を作成することとなり、その編集に時間を費やした。この冊子には研究部の人材、設備、研究費、これまでの成果や今後の見通し、規約などをまとめることができ、琵琶湖博物館の中長期基本計画第2段階を進めるために活用されることを望む。

研究事業においては、古琵琶湖層の時代でもある約500万年以降の脊椎動物化石の変遷を東アジア全体の環境史の中で捉えようとしている。この研究のために、総合研究、共同研究、専門研究を組み合わせで行っている。今年度は、海外の国際誌1件を含む3件の原著論文を公表することができた。

また、外部研究費に関しては、昨年度から科学研究費補助金基盤（C）に採択され、「後期更新世における動植物相の変遷と旧石器文化の関係解明のための学際的研究」という研究課題で外部の研究者と共同研究を行い成果を蓄積している。その他、今年度からは総合地球環境学研究所のプロジェクトに参加し、多くの外部の研究者と研究面で交流する機会を持った。

展示事業では、お正月開館を告知することを関連するイノシシ展示にイノシシ化石の展示を行った。また、ギャラリー展示「鉱物化石展」の開催準備の補助を行った。鉱物化石展は外部の方々を中心になって展示する展示であり、琵琶湖博物館の中長期基本計画の方針に沿った活動であるといえる。今後もこのような活動と国際的な研究を平行して行っていきたい。

印刷物

【学術論文】

- Takahashi, K., Soeda, Y., Izuho, M., Yamada, G., Akamatsu, M. and Chang, C. (2006) The chronological record of the woolly mammoth (*Mammuthus primigenius*) in Japan, and its temporary replacement by *Palaeoloxodon naumanni* during MIS 3 in Hokkaido (northern Japan). *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 233, Elsevier : 1-10.
- 平山 廉・藤井 明・高橋啓一（2006）香川県高松市塩江町の上部白亜系泉層群より産出したオサガメ科化石．化石, 80, 日本古生物学会 : 17-20.
- 高橋啓一・島口 天・神谷英利（2006）青森県下北郡東通村尻産のナウマンゾウ化石とその AMS14C 年代．化石研究会会誌, 39, 化石研究会 : 21-27.
- 北川博道・瀬戸浩二・高橋啓一・沖村雄二（2006）瀬戸内海西部諸島周辺海域から産出したナウマンゾウ化石．島根大学地球資源環境学研究報告, 25 : 31-47.

【一般向けの著作】

- 高橋啓一（2006）コウガゾウとはどんなゾウだったのかー戸隠で発見された化石ゾウの来た道をさぐるー．長野市立博物館第51回特別展図録「骨の動物園」, 長野市立博物館 : 72-79.
- 高橋啓一・里口保文（編）（2006）琵琶湖博物館研究部10年の歩み．琵琶湖博物館 : 175p.
- 高橋啓一（2006）安心院地域から発見された動物化石の重要性について．山・里・海 彩りに満ちた宇佐の環境歴史と地域づくりフォーラム報告書.
- 高橋啓一（2007）琵琶湖博物館の研究をふりかえる．うみんど, (41), 琵琶湖博物館 : 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 高橋啓一（2006）後期更新世の日本の中・大型動物相について．日本旧石器学会シンポジウム，日本旧石器学会，埼玉県立歴史と民俗の博物館（埼玉県さいたま市），[口頭発表]．
- 北川博道・瀬戸浩二・高橋啓一（2006）瀬戸内海西部諸島水道海底から産出したナウマンゾウ化石とその14C年代について，日本古生物学会2006年年会・総会（島根大学），化石研究会，京都教育大学（京都府京都市），[口頭発表]．
- 高橋啓一・Wei Guangbiao・鶴野 光・米田 穰・Jin Changzhu, Sun Chengkai, Zhang Sheng, Zhong Bei（2007）世界で最も南に分布するマンモスゾウ (*Mammuthus primigenius*) のAMS¹⁴C年代．日本古生物学会156回例会，日本古生物学会，徳島県立博物館（徳島県徳島市），[口頭発表]．
- 安井謙介・高橋啓一・野嶋宏二・中嶋雅子（2007）中部更新統浜松累層産ナウマンゾウ化石について．日本古生物学会156回例会（徳島県立博物館），日本古生物学会，徳島県立博物館（徳島県徳島市），[ポスター発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中での琵琶湖-コイ科魚類の展開を軸とした-その環境史に関する研究」（研究代表者：中島経夫），研究副代表者（1996～2006年度）．
- 琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖誕生記の古地理・古生物復元」（研究代表者：高橋啓一），研究代表者（2004～2006年度）．
- 琵琶湖博物館専門研究「大分県安心院町から発見されたミエゾウ頭骨の形態復元」，（2006年度）．
- 科学研究費補助金基盤研究(C)「後期更新世における動植物相の変遷と旧石器文化の関係解明のための学際的研究」，研究代表者（2005～2006年度）．
- 総合地球環境学研究所プロジェクト「日本列島における人間-自然相互関係の歴史的・文化的検討」，プロジェクトメンバー（2006～2010年度）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本第四紀学会，評議員，2005年8月～2007年7月．
- 日本第四紀学会，博物館連絡委員，2005年8月～2007年7月．
- 化石研究会，事務局長，2003年6月～．
- 化石研究会，化石研究会誌，査読，1件．
- 亀井節夫叙勲記念誌発行会，亀井節夫叙勲記念誌，査読，1件．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，12件．
- はしかけ運営，ほねほねくらぶ，担当．
- 2006年7月23日，夏休み自由研究講座，琵琶湖博物館，講師．
- 2006年10月5日，体験学習，琵琶湖博物館ではたらく人たちと出会しましょう，琵琶湖博物館，講師．
- 2006年10月15日，観察会，化石の観察会，三重県伊賀市，案内．

他の博物館・機関等主催行事

- 2006 年 6 月 10 日，安心院地域から発見された動物化石の重要性について，宇佐市教育委員会，平成 18 年度「新市発足一周年記念」環境歴史フォーラム，宇佐市文化会館（大分県宇佐市），講師。
- 2006 年 8 月 6 日，コウガゾウとはどんなゾウだったのかー戸隠で発見された化石ゾウの来た道をさぐるー，長野市立博物館第 51 回特別展記念講演，長野市立博物館（長野県長野市），講師。
- 2006 年 8 月 9 日，研修，平成 18 年度環境教育研究協議会，琵琶湖博物館，講師。
- 2006 年 11 月 7～10 日，職場体験，新堂中学校 2 年生，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

- 2006 年 5 月 19 日，博物館活動の説明・展示概要の説明，近畿ブロック北方領土返還要求運動連絡協議会。
- 2006 年 8 月 25 日，展示概要の説明，根室北方領土協議会。
- 2006 年 8 月 30 日，博物館活動の説明，東北学院大学。
- 2006 年 9 月 30 日，展示案内・博物館活動の説明，鳥取県立博物館館長。
- 2007 年 3 月 14 日，展示案内・博物館活動の説明，北海道別海町教育委員会。

メディアへの協力

- 2006 年 6 月 11 日，大分合同新聞，2004 年安心院で出土のミエゾウ頭骨の縮小判明，インタビュー，（2006 年 6 月 10 日取材）。
- 2006 年 6 月 11 日，読売新聞（大分版），ゾウ頭骨化石顔半分年度内復元へ，インタビュー，（2006 年 6 月 10 日取材）。
- 2006 年 6 月 21 日，京都新聞，松江で 2 千年万年前、国内最古級のワニ足跡化石発見コメント，インタビュー，（2006 年 6 月 20 日取材）。
- 2006 年 6 月 21 日，読売新聞，2000 万年前のワニ足跡発見コメント，インタビュー，（2006 年 6 月 20 日取材）。
- 2006 年 6 月 21 日，朝日新聞（島根版），2000 万年前にワニ存在か？コメント，インタビュー，（2006 年 6 月 20 日取材）。
- 2006 年 6 月 21 日，山陰中央新報，国内最古級のワニ足跡化石コメント，インタビュー，（2006 年 6 月 20 日取材）。
- 2006 年 11 月 14 日，読売新聞（夕刊），師あり弟あり，インタビュー。
- 2007 年 2 月 24 日，朝日新聞，市民の研究に公表の場を、活動 38 団体成果発表，インタビュー，（2006 年 2 月 20 日取材）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 岩石鉱物資料，受入。
- 化石資料，受入。
- 脊椎動物資料，受入。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- モーニングレクチャー，講演，3 回。
- 2007 年 1 月 3 日～2 月 4 日，トピック展示「イノシシ」，展示製作。
- 2007 年 3 月 20 日～5 月 6 日，ギャラリー展示「続 鉱物・化石展」，展示補助。

【企画調整活動】

- 新任職員研修，博物館について・A 展示室紹介，2006 年 4 月 12 日・13 日。

【研究部関連事業】

研究計画の策定と調整・研究予算の編成と執行管理，環境史研究担当の研究推進，2006 年度.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2006 年 6 月 28 日～7 月 3 日，台湾台中市および台南県，日本の動物相の変遷を考えるための台湾化石調査.

専門学芸員

研究部環境史研究担当
(兼) 展示担当グループリーダー

琵琶湖の歴史環境を総合的に理解するために必要な各種情報を収集、分析することによって、世界史の中で琵琶湖を評価し、広い視野の中で「人と湖」の共存関係を考えるために調査研究を行った。展示項目としては世界の水中考古学や世界の治水、利水の技術、漁具と漁法が関連している。

2006 年度は、これまでに収集した基礎資料をもとに丸子船の航行性に関する共同研究を進め、実験結果に基づいて論文の作成・投稿を行った。また、琵琶湖における水運の研究の成果を参加にしながら、西アジアのキンネレット湖東岸のエン・ゲヴ遺跡の水運の特徴、特に、治水と舟運という観点から研究を行ない、論文や研究会での発表を行った。

印刷物

【学術論文】

- 牧野久実(2007) 琵琶湖集水域、特にエコトーンにおける艀船の利用について. 史学, 2・3(75), 三田史学会:117-139 .
- 牧野久実 (2007) 湿地における田舟の利用. 国際湿地再生シンポジウム 2006 報告書, 国際湿地再生シンポジウム 2007 実行委員会, 滋賀県琵琶湖環境部 : 305-312.
- 牧野久実 (2007) 鉄器時代のエン・ゲヴのケースメート式城壁(二重城壁)に関する一考察ーその機能に関する置田氏の仮説をめぐってー. 西アジア考古学, 8, 西アジア考古学会, 東京 : (印刷中).

【専門分野の著作】

- 牧野久実 (2007) 人、暮らし、そして民具. 近江文化財論叢, 第二輯, 近江文化財論叢刊行会, 滋賀 : (印刷中).

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 牧野久実 (2006 年 5 月 20 日) 丸子船の航行実験計画について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 牧野久実 (2006 年 10 月 22 日) 古代キンネレット湖の船と水運ー琵琶湖研究の成果を参考にー. The Japanese-German Joint Symposium on Classification, ヘレニズム・イスラムー考古学研究会, 金沢大学 (石川県金沢市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖の伝統的木造船「丸子船」の構造の研究ー操船性とも関連してー」(研究代表者: 牧野久実), 研究代表者 (2006 年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアートーク・質問コーナー，琵琶湖博物館 B 展示室等，10 件.

はしかけ運営，丸子船探検隊，3 件.

2006 年 8 月 2 日，展示活動説明，博物館実習，琵琶湖博物館，講師.

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 6 月 20 日～7 月 20 日，和船をめぐる地域住人の活動紹介，堅田高校，琵琶湖博物館「集う、使う、創る 新空間」，コーディネーター.

視察対応

2007 年 1 月 21 日，展示室案内，フィンランド学校.

メディアへの協力

2006 年 9 月 29 日，京都新聞，丸子船の航行実験，インタビュー，(2006 年 9 月 28 日取材).

2006 年 10 月 31 日，びわこ放送，丸子船の航行実験，インタビュー，(2006 年 10 月 31 日取材).

2007 年 1 月 30 日，NHK，丸子船の航行実験，インタビュー，(2007 年 1 月 29 日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館個人管理ページ（牧野久実），運営・管理，更新多数.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

木馬の模型，受け入れ，2 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006 年度，展示活動全体，管理運営.

モーニングレクチャー，講義，3 回.

【企画調整活動】

新任職員研修，展示活動説明，2006 年 4 月 13 日.

学校への説明訪問，県内小・中学校，7 件.

【研究部関連事業】

インターネットページ，研究部紹介更新.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006 年度，高島市文化財保存活用委員会，委員.

主任学芸員

研究部環境史研究担当
(兼) 事業部資料活用担当

研究テーマは、「新生代の大型植物化石の研究」とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による古植生の復元、古植物相の変遷、古環境などを明らかにすることを目的としている。

今年度は、申請専門研究「古琵琶湖層群における植物相の変化と常緑広葉樹の衰退」を軸に、共同研究「古琵琶湖出現期の古環境解析」に繋がる研究活動を行った。それ以外にも、滋賀県の地質に関連した新生代の植物化石を対象に、下記の課題に取り組み、次のような結果が得られた。

1. 伊吹山南麓の堆積物からみた古環境復元

2004年度に終了した総合研究の成果の一部を論文にまとめた（山川ほか，2007）。失われゆく地層情報の保存の観点から、現在露頭が消滅している伊吹山麓の更新統寺林層について、地質、大型植物化石、花粉化石、昆虫化石の調査を行い、寺林層の堆積期の古環境復元を行った。

2. 古琵琶湖層群・更新統畑層の植物化石群集の解析

高島市畑に分布する古琵琶湖層群堅田累層に相当する地層（畑層）から、大型植物化石29科32属39種を採取し、畑層が堆積した当時の古植物相と古環境を解析した。その結果、畑層の塊状泥層の植物化石群は原地性が高く、湿地やその周囲の森林の植生を色濃く反映している。堆積場ではヒシやヒルムシロなどの浮葉植物やミクリ、コウホネなど水生植物が繁茂する池沼が存在した。周囲の湿地にはスゲ属やタデ属などの湿地性草本類が生育し、さらにその周りにはハンノキ、コナラ属、エゴノキなどの落葉広葉樹林が広がっており、針葉樹は分布していなかった可能性が高い。また、キクロカリア属の種子化石が確認され、古琵琶湖層群では最も新しい層準からの産出となった。なお、この研究は、千葉大学理学部地球科学科の学部生の卒論研究であり、学会発表を共同で行った（南澤ほか，2006）。

3. 愛知川化石林の古環境復元の再検討

第三紀植物群の構成要素である落葉針葉樹のメタセコイアとスイショウからなる化石林の復元を再検討した。樹幹・樹根化石の木材組織の再同定により、これまでスギ科と鑑定されていたものがメタセコイアとスイショウに識別でき、またバラ科のナナカマド属が認識することができた。その結果、現在ではそれぞれ中国やベトナムに隔離分布しているメタセコイアとスイショウは、鮮新世後期では共生していたことが検証された。

4. 中新統の与謝植物化石群の予察的野外調査

丹後半島の南東部に分布している中新統世屋累層から産出する与謝植物化石群（松本，1937；尾上，1978 など）は、日本の中新世植物化石群の中で、*Fagus antipofi* を特徴種とする阿仁合型あるいは台島型との中間型を示すのか議論されている植物群である。フローラタイプを論じるには明確な年代が不可欠であるが、これまでの与謝植物化石群は層準が明らかなものが少ない。植物化石の産出層準を明らかにすることにより、西日本の回転以前に台島型との中間型を示すフローラが存在したことが検証でき、中新世フローラの変遷を解明できる重要な手掛かりとなる。今年度は植物化石包含層の地質について予察的野外調査を行った。

印刷物

【学術論文】

山川千代美・此松昌彦・八尋克郎・里口保文・石田志朗（2007）伊吹山南麓に分布する中部更新統寺林層の植物化石および昆虫化石に基づく古環境復元. 第四紀研究, 46（1），日本第四紀学会：1-18.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

山川千代美（2006 年 11 月 18 日）後期鮮新世のメタセコイアとスイショウの化石林，琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
南澤 修・松本みどり・百原 新・山川千代美（2006 年 12 月 11 日）古琵琶湖層群・更新統畑層の植物化石群集の解析，第 21 回日本植生史学会，日本植生史学会，東京大学本郷キャンパス（東京都），[ポスター発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖出現期の古環境解析」（研究代表者：里口保文），研究副代表者（2005～2006 年度）。
琵琶湖博物館申請専門研究「古琵琶湖層群の植物相の変化と常緑広葉樹の衰退」，（2005～2006 年度）。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006 年 4 月～2007 年 2 月，千葉大学（西宮光一）卒論，滋賀県南東部に分布する中部中新統鮎河層群の植物化石。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館 A 展示室，10 件。
2006 年 7 月 23 日，夏休み相談室，琵琶湖博物館，実習補助，（岡村喜明氏共同）。
2006 年 10 月 15 日，化石観察会，観察会，三重県伊賀市大山田，担当，（岡村喜明氏共同）。
2007 年 2 月 10 日，地学研究発表会，研究交流，琵琶湖博物館，担当。

視察対応

2007 年 2 月 24 日，館内概要説明，天王寺区民生委員協議会。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

寄贈資料受入（膳所高校・滋賀大学），受入担当，2 件。
図書資料整備，担当。
IPM 関連整備，担当。
化石標本整備，購入担当，3 件。
植物化石標本整備，同定。
化石標本同定依頼，担当。
地学標本特別観覧，受入担当。

他博物館・機関の活動

益富地学標本館・京都市青少年科学センター，山城丘陵の大坂層群産大型植物化石，植物化石標本同定。

【展示活動】**琵琶湖博物館の活動**

2007 年 3 月，ギャラリー展示「続・鉱物化石展」，副担当.
展示交流員と話そう（イチョウ・メタセコイアについて），指導.
モーニングレクチャー，講演，2 回.

【企画調整活動】

学校への訪問説明，県内小・中学校，6 件.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館研究発表会，司会，2006 年 12 月 16 日，琵琶湖博物館.

主任学芸員

研究部環境史研究担当
(兼) 事業部資料活用担当

研究では、琵琶湖博物館申請専門研究「中世内水面漁撈の変容とその歴史的意義-琵琶湖東部奥嶋の漁撈を中心に-」（研究代表者：橋本道範）、同総合研究「東アジアの中の琵琶湖：コイ科魚類の展開を軸とした環境史に関する研究」（研究代表者：中島経夫、以下「東アジア」と略す）、科学研究費補助金基盤研究（B）「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」（研究代表者：水野章二）に関して、奥嶋（近江八幡市）をフィールドとして、網野善彦氏の中世琵琶湖漁業史研究の批判的検討を行うことによって中世琵琶湖漁撈の実態と展開を包括的に解明することを目指した。しかし、実際に作業を進めていくなかで、中世堅田漁業研究が十分な史料の紹介と批判がなされないまま行われてきたことが明らかとなり、中世堅田漁業に関する基礎史料の収集と翻刻を行っている。これらの作業により、堅田の「自由漁撈の特権」を中心に構築されてきた中世琵琶湖漁撈研究を根底から再構築したいと考えている。

次に、総合研究「東アジア」歴史班が取り組んできた、15世紀の山科家の日記を基にした「中世魚介類データベース」が完成した。これを受けて、琵琶湖博物館研究調査報告書の原稿作成、編集作業を行っている。なお、歴史班では、漁撈班と共同で、琵琶湖博物館特別研究セミナー「なぜ！魚はエリに入るのか？II」を開催した。

次に、上記と関わって環境史研究の研究史整理に取り組んでいるが、これについては、「100年単位の環境史」に関する小論を『研究部10年の歩み』に掲載し、研究発表会でも環境史研究について紹介した。

次に、総合地球環境学研究所の研究プロジェクト4-4「東アジア内海の新石器化と現代化-景観の形成史-」（研究代表者内山純蔵）に関しては、本格的な調査に向けた若干の文献収集と景観の現代化データベース構築のための助言を行った。

次に、すでに終了した総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」に関して、小論「資料情報のネットワーク化について-歴史資料を素材として-」を投稿した。

最後に、琵琶湖の湖辺エコトーンとの比較研究の一環として行っている備前国豊原庄の研究に関しては、関係史料を収集した『邑久町史 史料編（上）古代・中世・近世』第2章 中世 二、豊原庄関係史料の編集を担当し、解説を執筆した。

なお、事業については、資料活用担当グループの一員として分掌する任務を行ったほか、歴史資料担当として通年の業務を実施している。また、トピック展示「近江の奇祭 鍋冠祭と中世筑摩の人々」（4月11日～5月7日）を実施したほか、総合研究「東アジア」の成果展である企画展「湖辺～水、魚、そして人～東アジアの中の琵琶湖」（7月15日～11月26日）に協力し、次年度企画展「琵琶湖のコイ・フナ物語-東アジアの中の湖と人-」の準備作業を行った。

印刷物

【専門分野の著作】

橋本道範（2006）「湖辺」の暮らしとその歴史。中島経夫（編），琵琶湖博物館第14回企画展示解説書「湖辺～水、魚、そして人～東アジアの中の琵琶湖」，琵琶湖博物館：28-30。

【一般向けの著作】

橋本道範（2006）100年単位の環境史。琵琶湖博物館研究部10年の歩み，琵琶湖博物館：45-46・52-54。

橋本道範（2006）中世のむら探検-近江の暮らしのルーツを求めて-。企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年，琵琶湖博物館：1-10。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

橋本道範（2006 年 10 月 29 日）中世史部会共同研究報告．日本史研究会大会，日本史研究会，京都大学法経本館（京都府京都市），[司会]．

橋本道範（2006 年 11 月 18 日）琵琶湖博物館の「環境史」研究．第 10 回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

橋本道範（2007 年 1 月 19 日）中世琵琶湖漁撈史研究総括－「網野史学」の功と罪－．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

橋本道範（2007 年 1 月 27 日）なぜ！魚はエリに入るのか？II．琵琶湖博物館特別研究セミナー，琵琶湖博物館，[企画・運営]．

橋本道範（2007 年 3 月 11 日）中世琵琶湖漁撈の基礎的考察－堅田漁業の再検討－．科学研究費補助金基盤研究（B）「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」研究会，滋賀県立大学水野章二，民宿湖上荘（滋賀県近江八幡市），[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖：コイ科魚類を展開の軸とした環境史に関する研究」（研究代表者：中島経夫），共同研究者（1996 年度～2006 年度）．

琵琶湖博物館申請専門研究「日本中世における人工水系の展開とその歴史的意義－堀を中心に－」，（2006 年度）．

科学研究費補助金基盤研究（B）「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」（研究代表者：水野章二），共同研究者（2006 年度～2009 年度）．

総合地球環境学研究所プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化－景観の形成史－」（研究代表者：内山純蔵），メンバー（2005 年度～2011 年）．

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2007 年 1 月 22 日・29 日，滋賀県立大学大学院，講義「生物多様性論」，2 件．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアートーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，3 件．

メディアへの協力

2006 年 4 月 13 日，びわ湖放送，ニュース，トピック展示「近江の奇祭 鍋冠祭と中世筑摩の人々」の紹介，（2006 年 4 月 13 日取材）．

2006 年 4 月 15 日，京都新聞，トピック展示「近江の奇祭 鍋冠祭と中世筑摩の人々」の紹介，（2006 年 4 月 14 日取材）．

2006 年 4 月 18 日，中日新聞，トピック展示「近江の奇祭 鍋冠祭と中世筑摩の人々」の紹介，（2006 年 4 月 13 日取材）．

朝日新聞大阪本社，琵琶湖の鰻と蒲焼について，（2006 年 7 月 13 日、14 日取材）。
2007 年 1 月 26 日，NHK，特別研究セミナーの紹介，（2007 年 1 月 26 日取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料貸し出し情報の発信，企画・実施，2 件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

収蔵庫担当者会議，運営担当，3 件。

歴史資料修理保存処理委託，指導，小牧家資料 983 点。

歴史資料撮影委託，指導，2 件（17 点）。

歴史資料購入，実施，3 件。

受贈候補資料調査，実施。

館蔵資料の貸出（原本及び写真），実施，2 件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006 年 4 月 11 日～5 月 7 日，トピック展示「近江の奇祭 鍋冠祭」，企画・準備・実施。

2006 年 12 月 23 日～2007 年 2 月 18 日，ギャラリー展示「企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年」，準備。

2007 年 1 月 3 日～2 月 4 日，トピック展示「イノシシ」歴史資料の部，企画・準備・実施。

第 15 回企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話-東アジアの中の湖と人-」，企画・調査。

モーニングレクチャー，講演，3 回。

【企画調整活動】

学校への説明訪問，県内の小中学校，7 件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2004 年 11 月～，瀬戸内市，邑久町史編集委員会，専門委員（中世史部会）。

主任学芸員

研究部環境史研究担当サテライト・リーダー
(兼) 総務部企画調整課

主として、古琵琶湖層群とその同時代の地層（鮮新-更新統）にある火山灰層をもとに、広範囲の詳細な地層層序をあみ、時空間的な地層形成環境の変化や、日本の鮮新-更新世の爆発的火山噴火活動史を明らかにすることを目的としている。

前年度から、開始した共同研究「古琵琶湖出現期の古環境解析」では、琵琶湖の出現期について、周辺地域に分布している同時代の地層（東海層群）も研究対象とし、当時の古環境や、古琵琶湖が出現した特殊性を理解しようとしている。この研究では、過去に行われた層序学的研究の再検討を行い、また、挟在する火山灰層の広域対比から、古琵琶湖出現時期の詳細な年代について検討した。この成果については、日本地質学会において学会発表を行い、論文投稿準備中である。

また、専門研究としては、太平洋で掘削された海底のボーリングコアについて、古琵琶湖層群下部とほぼ同時代の火山灰について分析を行っている。これは、外部研究者との共同研究として行っており、本研究は、この時代の年代精度を一桁上げ、日本に分布する陸域の鮮新-更新統の研究と、汎世界的な気候変動との関係について論じるため基礎的なデータを提供することを目的としている。

以上のような研究については、学会発表したのみにとどまっており、これまで行った研究も含めていくつかは、準備段階であり、投稿には至っていない。これらについては、来年度投稿することとしたい。また、これまでの研究成果やこれから行おうとする研究、研究を元にした交流活動をはじめとする博物館活動の発信を、琵琶湖博物館インターネットページの個人管理ページで行っている。また、このページをみて直接地学の質問をしてくる利用者に対して回答をしたり、地域の情報を寄せてもらうなど、同時に交流も行っている。また、滋賀県に關係する地学関係者による情報交換や交流、研究の活発化などを目的として、琵琶湖博物館地学関係学芸職員と共に事務局をもち、研究会を開いている。この研究会の活動については、前述の個人管理ページにおいて研究会のページを作成して紹介している。

また、地域の人々が調査や採集した化石や鉱物を、参加者自らが展示を行うギャラリー展示を外部協力者と企画・準備を行い、平成 18 年度末から 19 年度初めまで展示を行った。

印刷物

【学術論文】

山川千代美・此松昌彦・八尋克郎・里口保文・石田志朗（2007）伊吹山南麓に分布する中部更新統寺林層の植物化石および昆虫化石に基づく古環境復元. *第四紀研究*, 46 : 1-18.

【一般向けの著作】

里口保文（2006）調査地の地層. *あど川ゾウの足あと化石調査資料集-今、よみがえる 100 万年前のたかしま-*, 高島市教育委員会, 滋賀県高島市 : 1-2.

高橋啓一・里口保文（編）（2006）*琵琶湖博物館研究部 10 年の歩み*. 琵琶湖博物館 : 175p.

里口保文（2006）博物館グローバルネットワーク. *企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年*, 琵琶湖博物館 : 52-53.

里口保文（2006）工事現場は古環境情報の宝庫. *うみんど*, (37), 琵琶湖博物館 : 7.

里口保文（2007）ギャラリー展示鉱物・化石展 *続・湖国の大地に夢を掘る*. *うみんど*, (42), 琵琶湖博物館 : 2-3.

里口保文（2007）火山灰層序. *人類記自然学編集委員会（編）, 人類記自然学-地層に記録された人間と環境の歴史-*,

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 里口保文（2006 年 7 月 21 日）古琵琶湖層群下部の年代と古環境．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．
- 里口保文（2006 年 8 月 4 日）鮮新-更新統におけるテフラ層序の再構築．日本第四紀学会学術大会，日本第四紀学会，首都大学東京（東京都八王子市），[ポスター発表]．
- 里口保文（2006 年 9 月 18 日）広域なテフラ層序からみた古琵琶湖層群下部の層序と年代．日本地質学会第 113 年学術大会，日本地質学会，高知大学（高知県高知市），[口頭発表]．
- 長橋良隆・小林聡子・奥平敬元・吉川周作・吉田武義・里口保文（2006 年 10 月 23 日）近畿地方の第四紀テフラ層序に基づく大規模爆発的噴火の層位と噴出体積．日本火山学会 2006 年秋季大会，日本火山学会，リゾートホテル阿蘇いこいの村（熊本県阿蘇市），[口頭発表]．
- 里口保文（2006 年 11 月 18 日）琵琶湖の誕生期の研究．第 10 回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[口頭発表]．
- 里口保文（2007 年 2 月 17 日）琵琶湖の歴史はいつまでさかのぼれるか．第 13 回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[ポスター発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖出現期の古環境解析」（研究代表者：里口保文），研究代表者（2005 年度～2007 年度）．
- 琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖誕生期の古地理・古生物復元」（研究代表者：高橋啓一），副代表者（2004 年 4 月～2007 年 3 月）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本地質学会，生涯教育委員会委員，2006 年度．
- 日本第四紀学会，テフラ委員会委員，2006 年度．
- 日本第四紀学会，日本第四紀学会第 11 回講習会「火山灰層を用いた調査法・分析法」講師，2007 年 1 月 27 日・28 日．
- 地学団体研究会，地球科学，査読，1 件．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアートーク・質問コーナー，琵琶湖博物館 A 展示室，11 件．

他の博物館・機関等主催行事

- 2006 年 6 月 21 日，小学校内の岩石園の岩石の名称，野洲市立祇王小学校（滋賀県野洲市），講師．
- 2006 年 7 月 15 日，化石のレプリカづくり，真野子供会，体験学習，琵琶湖博物館，講師．
- 2006 年 10 月 1 日，琵琶湖博物館の活動概要，京都女子大学，琵琶湖博物館，講師．

2006 年 10 月 28 日，琵琶湖が生まれた頃の大山田，大山田村子供会，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 12 月 13 日，琵琶湖博物館の紹介と環境学習で見るポイント．東京都立若葉総合高校，琵琶湖博物館，講師。

2007 年 3 月 29 日，滋賀県の岩石とその成り立ち．石材組合連合会近畿地区青年部，琵琶湖博物館，講師。

メディアへの協力

2006 年 7 月～8 月，ケーブルネット鈴鹿等 4 社，琵琶湖が動く，出演・内容助言，（2006 年 6 月 26・28 など取材）。

2007 年 3 月 21 日，京都新聞，ギャラリー展示「鉱物・化石展『続・湖国の大地に夢を掘る』」展示説明，（2007 年 3 月 20 日取材）。

2007 年 3 月 26 日，インターネット情報滋賀ガイド，展示説明，（2007 年 3 月 25 日取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館個人管理ページ（里口），管理・運営，更新多数。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

岩石・鉱物・堆積物資料整備，整理指導，随時。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3 回。

2006 年 12 月 23 日～2007 年 2 月 18 日，ギャラリー展示「企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年」，国際交流ブース担当。

2007 年 3 月 20 日～5 月 6 日，ギャラリー展示「続・湖国の大地に夢を掘る」，展示制作担当。

【企画調整活動】

新任職員研修，全体調整，琵琶湖博物館。

博物館実習，全体調整，琵琶湖博物館。

出版物管理，発送調整・在庫管理，琵琶湖博物館。

研究部連絡調整，連絡調整担当，琵琶湖博物館。

業績目録，原稿回収，琵琶湖博物館。

学校への説明訪問，県内小・中学校，7 件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006 年度，日本地質学会，生涯教育委員会，委員。

2006 年，大津市科学館，大津市科学館運営協議会，委員。

2006 年，東近江市教育委員会，編纂事業，東近江市史調査執筆委員。

学芸員

研究部環境史研究担当
(兼) 総務部企画調整課

堆積物試料中の花粉化石群集の組成変化や、遺跡を対象とした環境考古学的手法をもちいて最終氷期以降の自然環境の変遷と人間活動との関係性を検討している。近年は、近江はもとより、南部アフリカやアジア各国を対象に、環境考古学はもとより、フィールド科学の立場から環境研究について模索している。

琵琶湖博物館総合研究「東アジア」では、コイ・フナ属の人為的分布変化について、研究代表者の中島と共著で論文公表した（動物考古学 23 号）。また、琵琶湖沿岸地域でのエコトーン環境の変化について、これまでのデータ整理を行い、琵琶湖博物館総合研究発表会での発表や、公表に向けた準備等を行った。この研究は 2003 度から研究分担者として参加した科研費・基盤 C「完新世における琵琶湖の水位変動過程の復元」（研究代表者：小松原 琢）と同時に行い、成果報告書をまとめた。

専門研究では、近江盆地や山城盆地において継続してきた先史時代以降の地形環境変遷の知見に関しては各種遺跡報告書で公表してきたが、その成果を、学術論文としてまとめる作業を行った。この研究テーマでは、科研費・若手研究 B「自然環境の変遷と人間活動の対応関係の解明」（研究代表者：宮本真二）と連動して行い、インド共和国北東部やバングラデシュ人民共和国で調査を行い、その成果については、各種研究会等で口頭発表した。

その他に、外部研究プロジェクトでは、科研費・基盤研究（A）「南部アフリカにおける『自然環境-人間活動』の歴史的変遷と現問題の解明」（研究代表者：水野一晴）で、ナミビア共和国で本調査を実施し、次年度の学会報告を予定している。さらに、2005 年度滋賀大学環境総合研究センタープロジェクト研究「水辺エコトーンにおける伝統的生業活動とコモنزの変容に関する学際的研究」（研究代表者：佐野静代）（研究分担者）、科研費・基盤研究（B）「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合研究」（研究代表者：水野章二）、さらに、総合地球環境学研究所共同研究「東アジア内海の新石器と現代化：景観形成史」（研究代表者：内山純蔵）プロジェクトでは、琵琶湖と韓国を主な対象地域に設定し、調査計画を検討し、次年度以降の本格的開始に備えた。

これらの研究は環境史研究担当を対象とするものであるが、環境考古学さらには環境史といった領域群は、既存学問分野においては境界領域に位置している。よって今後も、自然科学的方法論を手段としながらも、人文・社会科学の諸分野との「つながり」のなかから、「人と自然との関係性の歴史的検討」という主題に関して、世界各地の地域研究を通じて模索してゆきたい。

印刷物

【学術論文】

宮本真二・中島経夫（2006）縄文時代以降における日本列島の主要淡水魚の分布変化と人間活動. *動物考古学*, 23, 動物考古学会：39-53.

【専門分野の著作】

小松原 琢・宮本真二・濱 修（2006）完新世における琵琶湖の水位変動過程の復元. 小松原 琢（編），*文部科学省科学研究費基盤研究（C）*：53p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 宮本真二（2006 年 4 月 16 日）琵琶湖の水位変動と沿岸環境の変遷．琵琶湖博物館総合研究「東アジア」研究会，琵琶湖博物館，[口頭発表]．
- 宮本真二（2006 年 4 月 29 日）アフリカ研究の展望．南部アフリカ科学研究会，京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科，上越教育大学長倉研修施設（新潟県上越市），[口頭発表]．
- 宮本真二（2006 年 6 月 25 日）琵琶湖の水位変動と人間活動．2006 年度琵琶湖博物館総合研究報告会，琵琶湖博物館，[口頭発表]．
- 宮本真二・安藤和雄（2006 年 10 月 20 日）ヒマラヤにおける土地開発過程-インド，アルナチャール・プラディッシュ州における棚田の形成時期-．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．
- 宮本真二・安藤和雄（2006 年 10 月 23 日）ヒマラヤにおける土地開発過程-インド，アルナチャール・プラディッシュ州における棚田の形成時期-．ブラマプトラ科学研究会，京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科，京都大学東南アジア研究所（京都市），[口頭発表]．
- 宮本真二（2006 年 10 月 12 日）一般研究発表．2006 年度人文地理学会大会，人文地理学会，近畿大学（東大阪市），[座長・口頭発表]．
- 宮本真二・中島経夫（2007 年 1 月 26 日）縄文時代の日本列島における主要淡水魚の分布変化と人為との関係性．ブラマプトラ科学研究会，京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科，京都大学東南アジア研究所（京都市），[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖-コイ科魚類の展開を軸とした環境史研究-」（研究代表者：中島経夫），研究分担者（1996～2006 年度）．
- 琵琶湖博物館専門研究「野洲川流域平野における遺跡立地の環境考古学的研究」，（2006 年度）．
- 文部科学省科学研究費・若手研究 B「自然環境の変遷と人間活動の対応関係の解明」（研究代表者：宮本真二），研究代表者（2005～2007 年度）．
- 文部科学省科学研究費基盤研究（A）「南部アフリカにおける「自然環境-人間活動」の歴史的変遷と現問題の解明」（研究代表者：水野一晴），研究分担者（2005～2009 年度）．
- 文部科学省科学研究費基盤研究（B）「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合研究」（研究代表者：水野章二），研究分担者（2006～2009 年度）．
- 滋賀大学環境総合研究センタープロジェクト研究「水辺エコトーンにおける伝統的生業活動とコモنزの変容に関する学際的研究」（研究代表者：佐野静代），研究分担者（2005～2006 年度）．
- 総合地球環境学研究所共同研究「東アジア内海の新石器と現代化：景観形成史」（研究代表者：内山純蔵），共同研究員（2006～2009 年度）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 環境史研究会，企画・運営，2003 年～．
- 歴史地理学会，2006 年度歴史地理学会大会実行委員，2005 年 9 月～2006 年 6 月．
- 人文地理学会，地理学文献目録編集員・雑誌担当委員，2006 年 7 月～．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，12 件．

2006 年 9 月 9 日・2007 年 2 月 10 日，琵琶湖博物館地学研究発表会，滋賀大学大津サテライトキャンパス，企画・運営，2 件.

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 6 月 18 日，露頭における堆積物の観察と土壌調査，京都大学自然地理研究会，第 32 回京都大学自然地理研究会，高島市朽木，案内者.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電子情報発信の全体計画に関すること，主任.

電子媒体による広報活動に関すること，副主任.

質問・回答データベースシステムの開発に関すること，主任.

電子情報発信の基盤整備に関すること，主任.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2007 年度企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話—東アジアの中の湖と人—」，副担当.

モーニングレクチャー，講演，3 回.

【企画調整活動】

年報に関すること，主任.

外国語版博物館刊行物に関すること，副主任.

学校への説明訪問，県内小・中学校，4 件.

【研究部関連事業】

研究助成に関わること，主任.

電子顕微鏡の維持管理，主任.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

8 月 5 日～8 月 26 日，ナミビア共和国，現地調査・資料収集.

2 月 14 日～3 月 5 日，インド共和国，バングラデシュ人民共和国，現地調査・資料収集.

【館外の活動】

2001 年 1 月～，高月町町誌史編纂委員会，編纂委員.

学芸員

研究部環境史研究担当
（兼）事業部展示担当

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、東アジアの中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

本年度の学術論文の発表は英文・共著で4本行った。論文タイトルは『A new species of *Hydrophorus* (Diptera: Dolichopodidae), with a key to species from China』、『Note on *Syntormon* from Chinese mainland (Diptera: Dolichopodidae)』、『Two new species of *Thinophilus* from China (Diptera: Dolichopodidae)』、『Two New Long-legged Flies of the Genus *Paraclius* (Insecta: Diptera: Dolichopodidae) from Taiwan, with New Records of Three Species』であった。これらは中国や台湾における調査で得た標本に基づき、おもに新種記載を行ったものである。第6回国際双翅目会議で、ワークショップのローカルオーガナイザーを務めた。また、「Biogeography and phylogeny of marine dolichopodid fly in the Hawaiian Islands (Diptera, Dolichopodidae)」というタイトルで口頭発表も行った。

文部科学省の科学研究費補助金（科研費）の研究「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」において研究代表者として、2007年1月22日から3月8日の間、オーストラリアとニュージーランドで調査を行った。これらの地域に固有な種（未記載を含む）を多数採集できた。この他、日本各地で多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製やDNAの解析を行っている。

印刷物

【学術論文】

- Zhang, L., Yang, D. and Masunaga, K. (2006) Two New Long-legged Flies of the Genus *Paraclius* (Insecta: Diptera: Dolichopodidae) from Taiwan, with New Records of Three Species. *Species Diversity*, 11: 149-156.
- Wang, M., Yang, D. and Masunaga, K. (2006) Note on *Syntormon* from Chinese mainland (Diptera: Dolichopodidae). *Transactions of the American Entomological Society*, 131 (1+2): 129-132.
- Zhu, Y., Yang, D. and Masunaga, K. (2006) Two new species of *Thinophilus* from China (Diptera: Dolichopodidae). *Transactions of the American Entomological Society*, 131 (1+2): 145-149.
- Zhu, Y., Yang, D. and Masunaga, K. (2006) A new species of *Hydrophorus* (Diptera: Dolichopodidae), with a key to species from China. *Entomological News*, 117 (3): 293-296.

【専門分野の著作】

- Masunaga, K. and Saigusa, T. (2006) Biogeography and phylogeny of marine dolichopodid flies in the Hawaiian Islands (Diptera, Dolichopodidae). Abstracts volume, *Sixth International Congress of Dipterology*, Sixth International Congress of Dipterology: 158.

【一般向けの著作】

- 梶永一宏 (2007) 川の中での宝探し—楽しい水生昆虫の観察—. *初等理科教育*, 41 (1), 農山漁村文化協会, 東京: 50-51.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

桒永一宏（2006 年 9 月 17 日）大洋島における海洋性アシナガバエの起源と分散．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館 [口頭発表]．

Masunaga, K. and Saigusa, T. （2006 年 9 月 27 日）Biogeography and phylogeny of marine dolichopodid fly in the Hawaiian Islands (Diptera, Dolichopodidae). Sixth International Congress of Dipterology, International Congress of Dipterology, Fukuoka Convention Center (Fukuoka), [シンポジウムローカルオーガーナイザー、口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金（若手研究B）「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」（研究代表者：桒永一宏），研究代表者（2006～2008 年度）．

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」（研究代表者：マーク・ジョセフ・グライガー），副代表者（2006～2010 年度）．

琵琶湖博物館共同研究「東アジアにおける第三紀起源昆虫の分子進化学的研究」（研究代表者：桒永一宏），研究代表者（2002～2006 年度）．

琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ属 *Dolichopus* の分類学的研究」，（2006 年度）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアートーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，12 件．

2006 年 5 月 28 日，セミの調査について，フィールドレポーター交流会，琵琶湖博物館，講師．

2006 年 7 月 23 日，自由研究講座，夏休み相談室，琵琶湖博物館，講師，（八尋克郎共同）．

2006 年 7 月 29 日，生き物飼い方講座，水生昆虫の飼育方法，琵琶湖博物館，講師．

2006 年 3 月 25 日，琵琶湖地域の昆虫調査法，琵琶湖地域をみんなで調べる実践講座，琵琶湖博物館，講師．

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 5 月 13 日・7 月 20 日，水生昆虫観察会，ホテルの学校，千丈川を歩いて発見，千丈川（滋賀県大津市），講師，2 件．

2006 年 5 月 16 日・2007 年 3 月 24 日，水生昆虫同定研修会，おおつ環境フォーラム，水生昆虫同定研修会，琵琶湖博物館，講師，2 件．

2006 年 5 月 27 日，水生昆虫観察会，大戸川観察会，大戸川（滋賀県大津市），講師．

2006 年 6 月 11 日，水生昆虫観察会，志賀町子ども週末活動支援ネットワークルンルン，さがしてみよう！わいのむしのたち（滋賀県大津市），講師．

2006 年 8 月 3 日，水生昆虫からわかる環境，長浜市水生生物少年少女調査隊指導者連絡会，長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」交流会，長浜市市民交流センター（滋賀県長浜市），講師．

2006 年 10 月 21 日，水生昆虫探検観察，コープ滋賀，自然観察シリーズ 第 2 弾 川探検，（滋賀県大津市），講師．

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース構築，5000 件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

日本，オーストラリア、ニュージーランド産の昆虫の収集・整理（液浸，乾燥とも）.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3 回.

2006 年度，ギャラリー展示「つかんだ・つんだ・いつもいた-あの生き物は、いま・・・？-」.

2006 年度，ギャラリー展示「企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年」.

2006 年度，常設展示C展示室「わたしたちの 40 年」の展示更新.

2006 年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」ライトトラップの展示更新と維持管理.

2006 年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」顕微鏡で虫を観る展示更新と維持管理.

2006 年度，研究最前線「桒永一宏」，更新 3 回.

【企画調整活動】

新任職員研修，講演，2006 年 4 月 19 日，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」.

学校への説明訪問，県内小・中学校，5 件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2007 年 1 月 22 日～3 月 8 日，オーストラリア、ニュージーランド，科研費の「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」の調査.

【館外の活動】

2006 年度，滋賀県生きもの総合調査昆虫類部会，専門委員.

総括学芸員

生態系研究担当グループリーダー
(兼) 事業部交流担当サブグループリーダー

専門研究「水田利用魚類の生態と外来種の関連」では、これまでに自身および共同研究者等が琵琶湖の湖岸、内湖、および水田地帯で魚類調査してきた内容について論文化すべく執筆活動を進め、現在、4編の論文を訂正・加筆中である。また、過去の総合研究の一端である、水田を繁殖の場としている魚類の一つ、ナマズの産卵生態に関する論文1編を国際学術誌＜Environmental Biology of Fishes＞に掲載することができた。

(仮) 総合研究「水田地帯における水域ネットワークの構造と生物群集の関係性に関する研究」では、本研究を本格的な総合研究へと格上げすべく、館内外で議論を行い、新年度総合研究「琵琶湖に隣接した水田地帯の特性の解明-ニゴロブナを媒体として-」を立案した。あわせて、守山市内の水田9筆にニゴロブナを放流するなどの予備試験を行い、新年度に本総合研究を立ち上げるに際して必要な資料を得ることができた。

なお、本年度は当館の開館10周年にあたり、「研究部10年のあゆみ」発刊にあたり、生態系研究担当の10ヵ年のまとめを、同研究グループ数名の方とともに取りまとめ作業を行った。

専門研究、共同研究の成果の情報発信の一環として、昨年度までに得られた研究成果の一部を全国の魚類研究者の交流の場である(社)日本魚類学会、あるいは当館の研究発表会等において発表するとともに、併せて、滋賀県で大切にすべき野生生物(滋賀県レッドデータブック2005年版)や当館水族企画展示「水辺の生き物」において広く一般に公表した。また、当館主催事業やさまざまな団体への講演会等を通じて、水辺環境の由々しき実態と外来種(魚類)の生態系へ及ぼす影響等の解説にもつとめた。

印刷物

【学術論文】

Maehata, M. (2007) Reproductive ecology of the Far Eastern Catfish, *Silurus asotus* (Siluridae), with a comparison to its two congeners in Lake Biwa, Japan. *Environmental Biology of Fishes*, 78: 135-146.

【専門分野の著述】

前畑政善(2006) 淡水魚類の概要. 滋賀県生きもの総合調査委員会(編), 滋賀県で大切にすべき野生生物(滋賀県レッドデータブック2005年版), サンライズ出版, 彦根: 460.

前畑政善(2006) スジシマドジョウ小型種琵琶湖型, スジシマドジョウ大型種, ギギ(ハゲギギ), イワトコナマズ, メダカ, ゼゼラ, ビワコオオナマズ, デメモロコ, スゴモロコ, ナマズ(マナマズ), ヌマムツ(旧カワムツA型), イタセンパラ, ニッポンバラタナゴ, 安曇川のウグイ(河川型), 石田川のウグイ(河川型), 琵琶湖のタモロコ, 余呉湖の魚類群集(ニゴロブナ, イチモンジタナゴ, ハス, イワトコナマズなど). 滋賀県生きもの総合調査委員会(編), 滋賀県で大切にすべき野生生物(滋賀県レッドデータブック2005年版), サンライズ出版, 彦根: 462-483.

【一般向けの著述】

前畑政善(2006) 水辺の生き物. 第18回水族企画展示解説書(監修). 琵琶湖博物館: 8p.

前畑政善(2006) 鯰-魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ. 琵琶湖博物館編, 企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年, 琵琶湖博物館: 20-21.

前畑政善(2006) 内湖-水田間の水辺ネットワーク構築による在来魚復活に関する研究-マキノ町の調査から-, 田ん

ぼ水辺研究会ニュースレター, (5):1.

前畑政善 (2006) 田んぼで魚を観察しよう. 日本初等理科教育研究会(編), 初等理科教育, 40(13):50-51.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

鈴木規慈・前畑政善・細谷和海(2006年10月8日)琵琶湖産ギンブナが番う相手雄. 2006年度日本魚類学会年会, (社)日本魚類学会, 静岡県コンベンションアーツセンター(静岡市), [口頭発表].

前畑政善・金尾滋史・鈴木規慈(2006年10月9日)水田のゆりかご機能を活用した琵琶湖魚類復活の可能性. 2006年度日本魚類学会年会, (社)日本魚類学会, 静岡県コンベンションアーツセンター(静岡市), [ポスター発表].

前畑政善・金尾滋史・鈴木規慈(2006年12月16日)水田のゆりかご機能を活用した琵琶湖魚類復活の可能性 II. 第11回琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

亀田佳代子・芳賀裕樹・中井克樹・前畑政善(2006年10-12月)第11回琵琶湖博物館研究発表会(生態系研究担当グループ)の企画・運営.

金尾滋史・前畑政善・沢田裕一(2007年2月17日)田んぼと魚のいい関係!?を探る-琵琶湖・河川・水路・水田ネットワークの保全・復元を目指して-. 第13回琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

Timoshkin, O A, Grygier, M J, Nishino, M, Wada, E, Genkal, S I, Biserov, V I, Gagarib, V G, Sememoy, V P, Jankowski, A W, Stepanjants, S D, Tsalolikhin, S Y, Starobogatov, Y I, Alexeev, V R, Sitnikova, T Y, Tuzovskij, P V, Okuneva, G L, Sheveleva, N G, Pomazkova, G I, Arov, I V, Mazepova, G F, Janz, H, Obolkina, L A, Chemyshev, A V, Morino, H, Nakai, K, Matsuda, M, Ohtsuka, T, Kawakatsu, M, Maehata, M, Masuda, Takemon, Y, Tanida, K, Kusuoka, Y, Yahiro, K, Hirasawa, R, Tuji, A, Kameda, K, Ishida, T, Itoh, T, Ichise, S, Wakabayashi, T, Okubo, I, Seki, S, Nagasawa, K, Ogawa, K, and Masunaga, K (2006) Biodiversity of Lake Biwa: New discoveries and future potential. In: Speciation in ancient lakes, SIAL IV (Abstracts of the international symposium), Kossler, A, Kohring, R and Riedel, F (eds.): 61. [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水田利用魚類の生態と外来種の関連」, (2006年度).

琵琶湖博物館総合研究「水田地帯における水域ネットワークの構造と生物群集の関係性に関する研究」(研究代表者:前畑政善), 総括、魚類調査(2006年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

(社)日本魚類学会, 日本魚類学会自然保護委員会, 委員. 2001年6月〜.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006年4月1日〜2007年3月31日, 金尾滋史(滋賀県立大学大学院博士過程), 学位論文指導.

2006年10月2日, 10月16日, 滋賀県立大学院生, 「生物多様性論」.

2007年2月15日, 京都精華大学学生, 「琵琶湖の魚類生態系と水辺エコトーン」.

【受賞など】

ハン六学術賞, 2006年8月27日, 日本産淡水魚類の保全等に関する造詣ほか.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，9 件。

2006 年 7 月 24 日，水族バックヤードミニ探検，琵琶湖博物館夏休み特別イベント，琵琶湖博物館水族バックヤード，講師，（秋山廣光・松田征也・孝橋賢一・桑原雅之共同）。

2006 年 7 月 31 日，生き物飼い方講座「ザリガニの飼い方」，琵琶湖博物館実習室，講師。

2006 年 8 月 1 日，先生のための川の生き物調査，天神川（大津市田上枝），講師，（秋山廣光と共同）。

2006 年 8 月 1 日，博物館実習「琵琶湖博物館の理念と概要」，琵琶湖博物館セミナー室，講師。

2006 年 10 月 21 日，水族バックヤードミニ探検，琵琶湖博物館開館 10 周年記念イベント，琵琶湖博物館水族バックヤード，講師，（秋山廣光・松田征也・孝橋賢一・桑原雅之共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 4 月 23 日，琵琶湖の魚から環境を考える，奈良教育大学（教育学部 1 回生），琵琶湖博物館，講師。

2006 年 5 月 13 日，琵琶湖の環境と魚-魚の現状から環境を考える-，立命館大学（経済学部 1 回生），琵琶湖博物館，講師。

2006 年 6 月 27 日，琵琶湖の魚の生態，滋賀県高島市小学校教育研究会環境部会，マキノ東小学校（滋賀県高島市），講師。

2006 年 7 月 25 日，アユモドキってどんな魚-分布と生態-，京都府南丹市教育委員会，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 7 月 30 日，水族バックヤード見学，福岡県立北九州高等学校，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 8 月 3 日，魚の解剖，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 8 月 9 日，水族展示室解説と水族バックヤード探検，平成 18 年度環境教育協議会（滋賀県教育委員会），琵琶湖博物館，講師。

2006 年 8 月 25 日，魚の話と投網実習，理数大好き研修会，滋賀県教育委員会，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 9 月 4・5・7 日，淡水魚入門講座 I II III，NPO 法人シニア自然大学，シニア自然大学，大阪 NPO プラザ（大阪市），講師，3 件。

2005 年 9 月 12・18・26，淡水魚入門講座 野外実習 I II III，NPO 法人シニア自然大学，シニア自然大学，大戸川（大津市），講師，3 件。

2006 年 9 月 29 日，魚などの話と魚・貝のふれあい体験，愛知県立港養護学校，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 10 月 14 日，琵琶湖の現状と課題-魚から環境を考える，芥川倶楽部（高槻市），琵琶湖博物館，講師。

2006 年 10 月 20 日，笠縫東小学校エコスクール支援委員会，指導。

2006 年 11 月 15 日，草津市立笠縫東小学校エコスクール支援委員会，指導。

2006 年 10 月 20 日，大津市立逢坂小学校エコスクール支援委員会，指導。

2006 年 11 月 25 日，ニゴロブナとフナズシ（全 3 回），草津ライオンズクラブ，琵琶湖博物館，講師。

2007 年 2 月 20 日，琵琶湖における水環境の課題，中国の選抜高校生 40 名，琵琶湖博物館，講師。

2007 年 3 月 11 日，河川の連続性と魚類，「川の連続性を考える」シンポジウム-琵琶湖・大阪湾のつながりを取り戻すための天ヶ瀬ダム取り組み-，淀川ダム統合管理所，宇治市文化センター小ホール，パネラー。

視察対応

2006 年 4 月 11 日，概要説明，韓国慶尚南道密陽市庁視察団。

2006 年 4 月 18 日，概要説明・館内案内，秋田県由利本荘市長。

2006 年 10 月 21 日，水族バックヤード案内，天王寺動物園園長。

2006 年 10 月 24 日，概要説明・館内案内，ドイツ国バイエルン州環境副大臣。
2006 年 11 月 1 日，概要説明・館内案内，全国・近畿各府県市町村振興協会事務局長。
2006 年 11 月 24 日，概要説明・館内案内，鳥取県立博物館付属山陰学習館，琵琶湖博物館。
2006 年 12 月 22 日，理念、展示概要等説明、展示室案内，中国・日本湖沼地理研修視察団。
2007 年 2 月 2 日，理念、展示概要等の説明，展示室・バックヤード等案内，韓国・慶尚南道昌原市。
2007 年 2 月 11 日，水族バックヤード等案内，大阪府下小中学校理科担当教員。
2007 年 2 月 14 日，概要説明，展示室等案内，雨引山樂法寺。
2007 年 2 月 20 日，概要説明，中国の選抜高校生。
2007 年 3 月 25 日，概要説明，小松市社会教育協会。

メディアへの協力

中日新聞，琵琶湖で捕れたオレンジ色のフナ？について，（2006 年 4 月 6 日取材）。
韓国 ABC テレビ，琵琶湖博物館の特徴について，（2006 年 4 月 11 日取材）。
京都新聞社，魚道について，（2006 年 5 月 12 日取材）。
京都新聞社，トピック展示「イタセンパラ稚魚」について，（2006 年 7 月 20 日取材）。
日本経済新聞社，「ゆりかご水田プロジェクト」について，（2006 年 7 月 28 日取材）。
読売新聞社，「琵琶湖産ナマズの産卵生態」について，（2007 年 3 月 4 日取材）。
京都新聞社，「琵琶湖産ナマズの産卵生態」について，（2007 年 3 月 6 日取材）。
読売新聞社，「琵琶湖産ナマズの産卵生態」について，（2007 年 3 月 9 日取材）。
2007 年 3 月 26 日，KBS ラジオ（京都），「黄色いビワコオオナマズ」について，（2007 年 3 月 26 日取材）。

【情報整備活動】

水族飼育委託管理。

【資料整備活動】

後藤宮子氏（岐阜県）寄贈標本の収集・運搬業務。

【展示活動】

モーニングレクチャー，講演，6 回。
第 18 回水族企画展示「水辺の生き物」の企画、展示、リーフレット製作，総括。
ギャラリー展示「企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年」の展示制作。

【企画調整活動】

新人職員研修，講師，2006 年 4 月 20 日，水族資料の特性について。
2003 年 5 月ー，滋賀県博物館協議会，研修委員会，委員。
学校への説明訪問，県内小・中学校，3 件。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館 10 周年記念誌「研究部 10 年のあゆみ」の生態系研究担当部分の編集（亀田佳代子・芳賀裕樹・牧野厚史共同）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006 年 7 月ー，草津市立笠縫東小学校，笠縫東小学校エコスクール支援委員会，委員．

2004 年 10 月ー，淡水魚保全研究会，常任理事．

2004 年 8 月ー，環境省自然環境局，平成 16 年度 絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会，検討員（淡水魚類作業部会）．

2004 年 7 月ー，環境省自然環境局，希少野生動植物種保存推進委員．

2004 年 6 月ー，環境省自然環境局，平成 16 年度 自然環境基礎調査検討会，検討員．

2004 年 4 月ー，国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所，丹生ダム環境保全対策懇談会，委員．

2004 年 4 月ー，国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所，琵琶湖および周辺河川環境に関する専門家グループ制度，委員．

2003 年 11 月ー，大津市立逢坂小学校，逢坂小学校エコスクール委員会，委員．

2003 年 8 月ー，国土交通省近畿地方整備局・大戸川ダム工事事務所，大戸川ダム環境アドバイザー．

2003 年 5 月ー，滋賀県農政水産部，早崎内湖周辺ビオトープネットワーク検討調査事業に関わる調査検討委員会，委員．

2003 年 5 月ー，滋賀県琵琶湖環境部，移入種問題検討委員会，委員（水生生態系部会部会長）．

2003 年 5 月ー，（社）日本動物園水族館協会，種保存委員会（技術部会 人工繁殖技術検討委員会），委員．

2002 年 9 月ー，滋賀県農政水産部，みずすまし構想推進委員会，生態系保全専門部会員．

2000 年 5 月ー，滋賀県琵琶湖環境部，滋賀県生きもの総合調査委員会，委員（魚貝類部会長）．

専門員**研究部生態系研究担当****(兼) 事業部交流担当 4月1日～9月14日****(兼) 事業部展示担当 9月15日～3月31日**

本年度の専門研究は、「農村環境直接支払い制度について」というテーマで調査を進めた。

この制度は、農村地域における自然的、社会的な資源を持続的かつ良好な状態で利用・保全していこうという一つの方策である。今回、滋賀県で実施している魚類の産卵繁殖の場としての水田の機能に着目し、琵琶湖と水田との間の魚類の往来を確保する「ゆりかご水田環境直接支払い制度」、農林水産省の施策で2007年度からスタートする、農地や農業用水等の資源を適切に保全し質的向上を図るため、地域ぐるみで効果の高い活動を実施する地域を支援するという「農地・水・環境保全向上対策」および環境直接支払制度の先進地である諸外国の制度について文献調査や現地調査を中心に実施した。現地調査では、農村振興課と連携し「ゆりかご水田環境直接支払い制度」実施地区において水田での魚類の繁殖状況の検証を行った。

農業土木は、伝統文化、歴史、民俗、地域社会等などと深い関わりを持たざるを得なくなってきたと言われており、技術と文化を一体的なものとしてとらえる「水土文化」という概念が持ち出されてきている。今後は、「水土文化」という視点を踏まえ、農村地域の保全管理活動に必要な組織形成手法を調査・検証していきたいと考えている。

印刷物

【一般向けの著作】

小川雅広・南堀貞雄・戸田 孝・芳賀裕樹・大塚泰介(編) (2006) うみんど. (39), 琵琶湖博物館: 8p.

小川雅広・南堀貞雄・戸田 孝・芳賀裕樹・大塚泰介(編) (2006) うみんど. (40), 琵琶湖博物館: 8p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

小川雅広 (2006年12月15日) 農村環境直接支払い制度について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

小川雅広 (2006年12月16日) 農業土木の今後の展望, 第11回琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「農村環境直接支払い制度について」, (2006年度).

琵琶湖博物館総合研究「湖沼-水田環境系の解明-ニゴロブナを媒体として」(研究代表者: 前畑政善), 共同研究者 (2006年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアートーク・質問コーナー，琵琶湖博物館 C 展示室，9 件.

2006 年 10 月 17 日，昔の暮らし体験，内容指導.

視察対応

2006 年 5 月 9 日，展示案内，農林水産省農村振興局水利整備課.

2006 年 7 月 27 日，展示案内，滋賀県指導農業士会.

2006 年 12 月 8 日，展示案内，水産庁増殖推進部漁場資源課.

2007 年 2 月 7 日，展示案内，中華人民共和国建設部.

メディアへの協力

2007 年 1 月，社団法人農業土木学会，農業土木学会誌，インタビュー，(2006 年 11 月 10 日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006 年度，実験工房・田畑の管理，主担当.

2006 年度，常設展示維持管理，主担当.

展示交流員と話そう（メダカとお米のおいしい関係），内容指導.

モーニングレクチャー，講演，3 回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2006 年度，琵琶湖博物館広報誌「うみんど」，企画・編集主担当.

2006 年度，滋賀県農政水産部耕地課企画調整担当，主幹を兼務.

専門学芸員

研究部生態系研究担当
(兼) 総務部企画調整課長

専門研究では、水族飼育施設において長期にわたり継代飼育しているムサントミヨとハリヨの遺伝的多様度がどの程度まで保たれているのかを、近畿大学農学部水産学科の小林徹助教授と共同で実施した。ムサントミヨ、ハリヨともに、飼育個体と生息地の個体を ISSR 分析することで多様度をもとめた。なお、ハリヨの ISSR 分析については、(社) 日本動物園水族館協会の野生動物保護募金による助成を受けて実施している。

共同研究では、マシジミの分布状況を正確に把握することを目的として、その第一段階としての DNA 量を測定の有効性を検討した。測定の結果、測定した個体のほぼすべてにおいて同じ DNA 量を示すが、外国産シジミ類と考えられる個体は、DNA 量から判断して 2 倍体と 3 倍体を示すものが見られたほか、同一個体内において 2 倍体と 3 倍体の DNA 量を示すモザイクが存在することが分かった。その理由などについては、さらに精査する必要がある。

総合研究「東アジアの中の琵琶湖」では研究協力者として、近畿大学農学部水産学科の山根教授と共同で、パイオテレメトリーを用いた研究の実施のため、受信機設置について関係機関への協力を依頼し、より詳細な研究データの収集に努めた。

印刷物

【学術論文】

芳賀裕樹・大塚泰介・松田征也・芦谷美奈子 (2006) 2002 年夏の琵琶湖南湖における沈水植物の現存量と種組成の場所による違い. *陸水学雑誌*, 2 (67), 日本陸水学会: 69-79.

Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Nishino, M., Wada, E., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin, V. G., Semernoy, V. P., Jankowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Y., Starobogatov, Y. I., Alexeev, V. R., Sitnikova, T. Y., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Nakai, K., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Takemon, Y., Tanida, K., Kusuoka, Y., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, S., Nagasawa, K., Ogawa, K. and Masunaga, K. (2006) Biodiversity of Lake Biwa: New discoveries and future potential. *Berliner Palaobiologische Abhandlungen*, 9: 61.

【専門分野の著作】

松田征也・大原建一・小林 徹 (2006) フローサイトメーターを用いた外国産シジミとマシジミとの区別方法の検討. *国際湿地シンポジウム 2006 報告書*, 滋賀県琵琶湖環境部水政課琵琶湖環境政策室, 滋賀県: 199-203.

【一般向けの著作】

松田征也・中井克樹 (2006) 淡水貝類. 滋賀県生き物総合調査委員会, 滋賀県で大切にすべき野生生物, サンライズ出版: 488-506.

松田征也 (2006) 特集「つかんだ・つんだ・いつもいた」. *うみんど*, (38), 琵琶湖博物館: 2-3.

松田征也 (2006) 湖の魚・漁・食. 企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年, 琵琶湖博物館: 18-19.

松田征也 (2006) 琵琶湖博物館の希少淡水魚の継代飼育と野生復帰計画に期待するもの. 「在来魚復活にける夢」シンポジウムプログラム, 社団法人霞ヶ浦市民協会: 3.

松田征也（2007）琵琶湖の淡水真珠．*河川文化*，37，（社）日本河川協会：12-13.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

神谷敏詩・橋本 崇・中井克樹・松田征也・高見明宏・島本昌憲（2006年4月8日）カワニナ属（*Semisulcospira*）の琵琶湖固有種は単系統群か？．日本貝類学会平成18年度大会，日本貝類学会，東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区），[口頭発表]．

小林 徹・小笠原央・布施幸江・御薬袋 聡・松田征也（2006年10月7日・10日）ISSR分析によるムサシトミヨ水族館飼育群の遺伝的多様性．第39回魚類学会年会，日本魚類学会，静岡県コンベンションアーツセンター（静岡県清水市），[ポスター発表]．

松田征也・大原健一・小林 徹（2006年12月16日）フローサイトメーターを用いた外国産シジミとマシジミとの区別方法の検討．第11回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[ポスター発表]．

米山和良・松田征也（2007年1月27日）琵琶湖のコイ・フナを追う．琵琶湖博物館特別研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「日本国内における外国産シジミ類の分布動態把握のための基礎研究」（研究代表者：松田征也），研究代表者（2005～2006年度）．

琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖-コイ科魚類を展開の軸とした-環境史に関する研究」（研究代表者：中島経夫），研究協力者（1997～2006年度）．

（社）日本動物園水族館協会 野生動物保護募金による共同研究「ISSR分析によるムサシトミヨ水族館飼育群の遺伝的多様性」（研究代表者：松田征也），（2006年度）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10件．

2006年8月6日，水辺の貝を調べてみよう，観察会，琵琶湖博物館，主担当，

2006年7月31日・8月21日，水族バックヤードミニ探検，夏休みイベント，琵琶湖博物館，担当，2件．

2006年10月22日，水族バックヤードミニ探検，開館10周年記念行事，琵琶湖博物館，担当．

2007年3月4日，水族展示の舞台裏，見学会，琵琶湖博物館，担当，（水族担当学芸員・水族飼育員共同）．

他の博物館・機関等主催行事

2006年4月23日，琵琶湖の水生生物，第21回セタシジミ祭実行委員会，セタシジミ祭，インターラーケン船内，滋賀県大津市，講師．

2006年6月4日，内湖の水生生物，子どもと自然学会，子どもと自然学会 第6回全国研究大会（近江八幡大会），近江八幡市八幡公民館（近江八幡市），パネリスト．

2006年8月3日，琵琶湖の貝を調べてみよう，滋賀県中学校教育研究会，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，指導．

2006年10月29日，博物館実習，近畿大学，琵琶湖博物館，講義．

2007 年 2 月 10 日，在来魚復活にかける夢，社団法人霞ヶ浦市民協会，シンポジウム，霞ヶ浦環境科学センター（茨城県土浦市），基調講演。

視察対応

2006 年 4 月 25 日，淡水魚の繁殖について，JICA.

2006 年 8 月 9 日，水族バックヤード案内，環境教育協議会.

2006 年 10 月 20 日，水族設備案内，ラオス水産局.

メディアへの協力

2006 年 4 月 1 日，びわ湖放送，ビビットびわこニュース，ホンモロコについて，（2006 年 4 月 1 日取材）.

2006 年 4 月 13 日，京都新聞，カイミジンコのオス発見の年代について，（2006 年 4 月 13 日取材）.

2006 年 4 月 14 日，中日新聞，カイミジンコについて，（2006 年 4 月 13 日取材）.

2006 年 4 月 29 日，京都新聞，ギャラリー展示，（2006 年 4 月 29 日取材）.

2006 年 5 月 1 日，NHK，おうみ発 610，ギャラリー展示，（2006 年 5 月 1 日取材）.

2006 年 5 月 1 日，NATIONAL GEOGRAPHIC，ミュージアム情報，ギャラリー展示，（平成 18 年 4 月 1 日）.

2006 年 5 月 2 日，読売新聞，黄色いナマズ，（2006 年 5 月 1 日取材）.

2006 年 5 月 2 日，京都新聞，ギャラリー展示，（2006 年 5 月 1 日取材）.

2006 年 5 月 2 日，びわこ放送，ギャラリー展示，（2006 年 5 月 1 日取材）.

2006 年 5 月 25 日，NHK，たべもの新世紀 セタシジミ特集，セタシジミについて，（2006 年 5 月 11 日取材）.

KBS（韓国），湿地シンポジウム関係，琵琶湖博物館の紹介，（2006 年 6 月 10 日取材）.

2006 年 8 月 2 日，NHK，おうみ発 610，蓮の葉をつつくブルーギル，（2006 年 7 月 31 日取材）.

2006 年 8 月 27 日，毎日新聞，夏休みもいよいよ終わり，（2006 年 8 月 26 日取材）.

2006 年 9 月 15 日，読売新聞，フラミンゴシクリッド，（2006 年 9 月 14 日取材）.

2006 年 9 月 15 日，中日新聞，フラミンゴシクリッド，（2006 年 9 月 14 日取材）.

2006 年 9 月 15 日，産経新聞，フラミンゴシクリッド，（2006 年 9 月 14 日取材）.

2006 年 9 月 16 日，朝日新聞，フラミンゴシクリッド，（2006 年 9 月 14 日取材）.

2006 年 12 月 10 日，日本経済新聞，ネーチャー・ウォッチ，アユモドキ，（2006 年 12 月 6 日取材）.

2006 年 12 月 10 日，産経新聞，イタセンパラ盗難から守れ，（2006 年 12 月 6 日取材）.

2006 年 12 月 12 日，朝日学生新聞，日本産希少淡水魚繁殖検討委員会 15 周年記念事業，（2006 年 12 月 6 日取材）.

2007 年 1 月 5 日，中日新聞，えとのイノシシ紹介，（2006 年 1 月 3 日取材）.

2007 年 1 月 9 日，KBS 京都ラジオ，笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ あっちこっちほっかほかだより，トピック展示「イノシシ」，（2006 年 1 月 9 日取材）.

2007 年 2 月 11 日，朝日新聞茨城県地方版，ゼニタナゴどこへ行った？，（2006 年 2 月 10 日取材）.

2007 年 2 月 11 日，茨城新聞茨城県地方版，ゼニタナゴ復活を，（2006 年 2 月 10 日取材）.

2007 年 2 月 28 日，NHK，おうみ発 610，琵琶湖博物館の中継，（2006 年 2 月 13 日取材）.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

貝類資料，受け入れ，32 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006 年 4 月 29 日～6 月 18 日，ギャラリー展示「つかんだ・つんだ・いつもいた」，主担当.

2006 年 4 月 29 日～6 月 18 日，水族企画展示「ボテジャコは、いま…？」，主担当.

2006年5月9日～5月28日、水族トピック展示「ホンモロコの稚魚」、企画。
2006年5月30日～6月18日、水族トピック展示「スイゲンゼニタナゴの稚魚」、企画。
2006年6月20日～7月17日、水族トピック展示「オヤニラミの稚魚」、企画。
2006年7月15日～11月26日、企画展示「湖辺」、展示協力。
2006年7月19日～8月6日、水族トピック展示「イタセンパラの稚魚」、企画。
2006年9月9日～10月1日、水族トピック展示「ホトケドジョウの稚魚」、企画。
2006年10月3日～11月22日、水族トピック展示「ミヤコタナゴの未成魚」、企画。
2006年10月31日～11月19日、水族トピック展示「産卵期を迎えたカネヒラ」、企画。
2006年11月18日～2007年4月8日、全国一斉企画展「いま、日本の淡水魚があぶない」、主担当・企画展全体の開催事務局。
2006年11月28日～12月24日、水族トピック展示「イチモンジタナゴの幼魚」、企画。
2007年1月3日～2月4日、トピック展示「イノシシ」、主担当。
2006年12月23日～2007年2月18日、ギャラリー展示「企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年、「湖の魚・漁・食」展示コーナー担当。
モーニングレクチャー、講演、5回。

他博物館・機関の活動

島根県立宍道湖自然館、2006年4月21日、アユモドキの企画展示への展示、資料貸出。
虹の森公園 おさかな館、2006年10月18日、ニッポンバラタナゴ・シナイモツゴ・カワバタモロコ・スゴモロコの企画展示・常設展示への展示、資料提供。
山梨県立富士湧水の里水族館、2006年10月24日、アユモドキの企画展示への展示、資料貸出。
社団法人 霞ヶ浦市民協会、2006年11月6日、ゼニタナゴの自然復帰、資料提供。
いおワールド かごしま水族館、2006年11月6日、ニッポンバラタナゴ・ヒナモロコ・シナイモツゴの企画展示への展示、資料提供。
碧南海浜水族館、2006年11月6日、イタセンパラの企画展示への展示、資料提供。
島根県立宍道湖自然館、2006年11月7日、ハリヨの企画展示への展示、資料貸出。
碧南海浜水族館、2006年11月14日、ゼニタナゴ・ヒナモロコの企画展示への展示、資料提供。
(社)日本動物園水族館協会に加盟園館のうちの50園館、2006年11月18日、全国一斉企画展示「いま、日本の淡水魚があぶない」の展示企画・原稿作成等、開催事務局。
宮津エネルギー研究所水族館、2006年11月30日、ムサシトミヨの展示および繁殖、資料提供。
カドリー・ドミニオン、2006年12月6日、ニッポンバラタナゴの企画展示への展示、資料提供。
島根県立宍道湖自然館、2006年12月13日、イチモンジタナゴ・タテボシガイの企画展示への展示、資料貸出。
(株)小樽水族館公社、2007年1月27日、ニッポンバラタナゴとシナイモツゴの企画展示への展示、資料提供。
岐阜県世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ、2007年1月23日、ヤリタナゴ・アブラボテの常設展示への展示、資料提供。
Museum fuer Naturkunde Humboldt University、2007年2月15日、カワニナ類、資料交換。
栃木県なかがわ水遊園、2007年2月21日、ムサシトミヨの展示および繁殖、資料提供。

【企画調整活動】

滋賀県観光PRへの参加、PR活動、2006年4月5日、JR京都駅。
滋賀県博物館協議会・総会、開催準備、2006年6月15日、大津歴史博物館。
企画展示「湖辺」オープニングセレモニー、司会進行、2006年7月15日。
滋賀県観光PRへの参加、PR活動、3件、2006年9月10・23・26日、JR京都駅。
琵琶湖博物館10周年感謝の集い、企画・全体調整、2006年10月21・22日。

琵琶湖博物館中長期基本計画，進行管理，2006 年度.

広報・経営戦略行動計画，進行管理，2006 年度.

【研究部関連事業】

調査船「うみんど」管理，副担当，2006 年度.

研究用アルコール管理，主担当，2006 年度.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2005 年度～，滋賀県博物館協議会，企画委員会，委員，

2006 年度，広報・経営戦略行動計画の作成と進行管理，運営，広報・経営戦略会議.

【館外の活動】

1999 年～，守山湖岸再生部会，南部振興局，委員.

2000 年～，木浜内湖再生部会，南部振興局，委員.

2004 年～，環境省，淀川水系アユモドキ連絡協議会，委員.

2005 年～，（社）日本動物園水族館協会，種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，検討委員.

2005 年度，（社）日本動物園水族館協会，種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，アユモドキ・イタセンバラ・ニッポンバラタナゴ種別調整者.

2005 年～，国土交通省，瀬田川及び天ヶ瀬ダム再開発ワーキンググループ，委員.

専門学芸員

研究部生態系研究担当
(兼) 事業部資料活用担当グループリーダー

今年度より、「河川残留型を含むビワマス地域個体群存在の可能性」というテーマで、新たな共同研究を開始した。これは、これまで行ってきたビワマスに関する研究活動を基に、ビワマスの河川型の存在、それと降湖型との関係、併せて琵琶湖流入河川の上流に生息するとされているアマゴと放流されているアマゴとの関係を明らかにすることにより、琵琶湖水系において、ビワマスがどのように進化してきたのかと言うことを、明らかにしようというものである。今年度はその第一段階として、琵琶湖内で漁獲されるビワマスとサツキマスの交雑の状況と、サツキマスの由来について調査を行った。その結果、ビワマスとサツキマス間での交雑を示唆するデータは得られたが、詳細を明らかにするところまではいけなかった。サツキマスの由来については、放流に使われている醒井養鱒場産アマゴと同一集団である可能性が高いことが明らかとなり、放流個体由来であるものと考えられた。これらの結果については、2006 年度日本魚類学会年会および第 44 回魚類自然史研究会で発表を行った。

専門研究では、これまで集めてきたビワマスの産卵行動に関するビデオデータを基に、産卵生態のとりまとめを進めた。

また、8 月 2～6 日にかけてアイスランドで開催された「5th International Charr Symposium」に参加し、2002 年度から 2004 年度にかけて実施された共同研究「琵琶湖水系におけるイワナの地理的分布とその形成過程」の結果について発表を行った。

印刷物

【専門分野の著作】

桑原雅之 (2006) だれでもどこでも博物館フィールドレポーター. 企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年, 琵琶湖博物館 : 46-47.

桑原雅之 (2006) 沿岸域におけるハゼ科魚類の産卵生態. 琵琶湖博物館研究部編, 琵琶湖博物館研究部 10 年のあゆみ, 琵琶湖博物館 : 68.

桑原雅之 (2006) 琵琶湖水系に生息するビワマスとアマゴの関係. 琵琶湖博物館研究部編, 琵琶湖博物館研究部 10 年のあゆみ, 琵琶湖博物館 : 68-69.

桑原雅之 (2006) イワナの地理的分布. 琵琶湖博物館研究部編, 琵琶湖博物館研究部 10 年のあゆみ, 琵琶湖博物館 : 90.

【一般向けの著作】

桑原雅之 (2007) 研究最前線 琵琶湖水系のイワナはどこから来たのか?. うみんど, (41), 琵琶湖博物館 : 5-6.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

桑原雅之・井口恵一朗・亀甲武志・来見誠二 (2006 年 5 月 28 日) 河川残留型を含むビワマス地域個体群存在の可能性. 2006 年度ゴリ研究会, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀市自然・人文博物館 (神奈川県横須賀市), [口頭発表].

Kuwahara, M., Iguchi, K., Kurumi, S., Kikko, T. and Kawanabe, H. (2006 年 8 月 5 日) Phylogeography of charr in the Lake Biwa drainage basin inferred from microsatellite DNA analysis. The 5th International Charr Symposium, The Institute of Biology, University of Iceland, Holar University College, The Institute of Freshwater Fisheries and The Natural History Museum of Kopavogur, The University of Iceland (Reykjavik Iceland), [口頭発表].

桑原雅之 (2006 年 9 月 27 日) 第 16 回動物園水族館設備会議, (社) 日本動物園水族館協会, 名古屋ガーデンパレス (愛知県名古屋市), [座長].

桑原雅之・井口恵一朗・亀甲武志・来見誠二 (2006 年 10 月 8 日) ビワマスとサツキマスにおける交雑の可能性. 2006 年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 静岡コンベンションアーツセンター (静岡県静岡市), [口頭発表].

桑原雅之 (2006 年 10 月 26 日) ビワマスとサツキマス (アマゴ) における交雑の可能性. アクアゲノムシンポジウム in びわ湖-魚貝類の遺伝子解析と水産資源・環境の保全-, 滋賀バイオ産業推進機構 日本アクアゲノム研究会, 長浜バイオ大学 (滋賀県長浜市), [口頭発表].

桑原雅之・井口恵一朗 (2006 年 12 月 16 日) ビワマスにおける早期遡上群の存在. 第 11 回琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

御薬袋 聡・桑原雅之 (2007 年 2 月 1 日) コアユ体型を維持した飼育方法の検討. 第 51 回水族館技術者研究会, 社団法人 日本動物園水族館協会, 鎌倉パークホテル (神奈川県鎌倉市), [口頭発表].

桑原雅之 (2007 年 3 月 10 日) ビワマスにおける各生活史型間での遺伝的交流の可能性. 第 44 回魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会, 大阪工業大学大宮キャンパス (大阪府大阪市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「ビワマスの繁殖生態」, (2006 年度).

琵琶湖博物館共同研究「河川残留型を含むビワマス地域個体群存在の可能性」(研究代表者: 桑原雅之), 研究代表者 (2006 年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査: 分類学、形態と分子に基づく系統学」(研究代表者: マーク・ジョセフ・グライガー), 研究協力者 (2006 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

(社) 日本動物園水族館協会設備会議, 幹事, 2006 年 5 月～2008 年 9 月.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 8 件.

2006 年 7 月 23 日, 漁船に乗ってビワマス漁を見てみよう, 見学会, 湖北町尾上, 副担当, (孝橋賢一共同).

2005 年 10 月 29 日, ビワマスの採卵現場を見学してみませんか, 観察会, マキノ町知内, 主担当, (孝橋賢一共同).

2007 年 2 月 24 日, 滋賀県にすむサケの仲間たち, 指導者のための淡水魚類学講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2007 年 3 月 4 日, 水族展示の舞台裏, 見学会, 琵琶湖博物館, 講師, (前畑政善・秋山廣光・松田征也・孝橋賢一共同).

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 7 月 15 日, 魚から見た琵琶湖, NPO シニア自然大学, 琵琶湖博物館, 講師.

2007 年 3 月 23 日，琵琶湖，特に内湖の機能と生息する魚類などについて，伊庭内湖の自然を守る会，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2007 年 2 月 15 日，①博物館開館に至る経緯②博物館の活動方針（研究協力態勢・交流活動）③淡水魚に対する取り組み（生物確保・飼育・繁殖・展示など）④希少生物に対する取り組み，広島県廿日市市議会，
2007 年 3 月 4 日，①淡水在来魚類に関する情報収集 ②湖沼生態系保全に関する意見交換，（独）国際農林水産業研究センター。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集，主担当

水族資料維持管理，主担当

北米大水槽温調設備設置，発案・計画・実施。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

中流水槽前通路段差解消，発案・計画・実施。

展示交流員と話そう（ふれあい水槽の不思議），指導。

水族展示，維持管理。

モーニングレクチャー，講演，3 回。

【企画調整活動】

新人水族研修，水族を支える設備とスタッフ，講師，2006 年 4 月 20 日。

学校への説明訪問，県内小・中学校，9 件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2006 年 7 月 31 日～8 月 9 日，アイスランド，5th International Charr Symposium。

専門学芸員

研究部生態系研究担当サバ・ケ・ル・フ・リー・ター
(兼) 事業部資料活用担当

2006 年度前半は、生態系研究担当の総合研究に関する研究会や研究計画の検討と、博物館開館 10 周年記念誌である「滋賀県立琵琶湖博物館研究部 10 年のあゆみ」の中の生態系研究担当の研究のまとめに、多くの時間と労力を費やした。総合研究については、計画調書の再提出はあったものの一応採択され、10 周年記念誌についても形になった。しかし、その間に作成を予定していた、これまでのカワウに関する一連の共同研究についての研究調査報告書の原稿作成や、申請専門研究のデータ検討や分析が遅れてしまった。年度後半は、10 周年記念の研究発表会が 4 回あり、そのうち 2 回の発表会で発表を行った。結果として 2006 年度は、博物館開館 10 周年記念に関わる研究発信と総括を中心に業務を行ってきたといえる。論文は、2006 年度になってから 1 つの主著論文、3 つの共著論文が印刷された。また、鳥類の保全に関する最近の研究動向をまとめた「保全鳥類学」(山岸 哲監修、京都大学学術出版会) の一章を分担執筆した。これらの成果や研究発表会でまとめた資料をもとに、研究調査報告の原稿完成を目指したいと考えている。

平行して、琵琶湖博物館共同研究「信仰を理由に保護されてきた森林の保全システムにおける社会史的研究-滋賀県竹生島森林における鳥獣害への対応を事例として-」(研究代表者：牧野厚史)の調査とデータのまとめを行った。今後は、この結果を論文としてとりまとめていき、それをもとに、来年度以降に実施する琵琶湖博物館共同研究「カワウ営巣林における森林衰退-回復モデル構築のための調査手法の検討」(研究代表者：亀田佳代子)や、それを元にした生物による環境改変と森林変遷、および人間の森林保全管理とをつなげた研究プロジェクトの準備を進める予定である。

このように研究に関しては、研究部業務や総合研究の計画など、プロジェクト全体や他の研究者との共同作業については、2006 年度には進展が見られた。しかしその一方で、自分自身の研究が滞っている。今後は、自分自身のアイデアや研究プロジェクトが博物館や専門分野の研究として多くの研究者から評価されるよう、努力していきたい。なお、研究者としての社会貢献としては、「カワウ総合対策計画」(滋賀県)および「伊崎国有林の森林管理におけるカワウ対策方針」(近畿森林管理局)の策定に協力した。また、学会活動としては、日本鳥学会の評議員として、学会活動の発展に貢献した。

一方、博物館事業については、広くさまざまな方面で事業を行った年であった。所属する事業部資料活用担当の業務として行った収蔵庫の維持管理については、初めて担当する業務でもあり、2006 年度前半は現状把握と個別対応に終始した。後半は、中長期基本計画 2006 年度行動計画の実施と合わせて、資料の総合的な保存管理に関して検討を行った。しかし、方針としてまとめたものを完成させるには至っておらず、今後も検討が必要と考えられる。

鳥類学分野に関わる博物館事業としては、交流関係の事業を多く担当した。2005 年度に行った観察会の反省から、今年度の観察会は、びわたと協力してプログラムを試行した。また、2 年前から引き続き、日本野鳥の会滋賀支部との共催観察会を実施しており、さらなる活動の連携と博物館の利用促進のため、滋賀支部に交流空間の利用を依頼し、対応を行った。また、観察会プログラムの試行と平行して、学校団体への体験学習対応も少々増えた。

2006 年度は、フィールドレポーター調査へのテーマの提案も多かった。調査しやすく新発見が得られそうなテーマとして、夏にオオヨシキリの分布と環境調査を実施した。予想外のところから興味深い結果が出ており、今後もう少しつつこんだ調査を加えることで、生態学的にも面白い結果が得られるかもしれない、調査課題の掘り起こしとしては、成功したのではないかと思われる。また、フィールドレポーター調査も 10 年が経過したことから、10 年前に最初に実施したツバメ調査を再度実施し、10 年間の変化について調べるようになった。調査票の検討に加わり、新たな調査票を用いたツバメ調査が、2006 年度末から 2007 年度にかけて実施されている。

印刷物

【学術論文】

- Kameda, K., Koba, K., Hobara, S., Osono, T. and Terai, M. (2006) Pattern of natural ^{15}N abundance in lakeside forest ecosystem affected by cormorant-derived nitrogen. *Hydrobiologia*, 567 : 69-86.
- Osono, T., Hobara, S., Koba, K. and Kameda, K. (2006) Reduction of fungal growth and lignin decomposition in needle litter by avian excreta. *Soil Biology and Biochemistry*, 38 : 1623-1630.
- Takahashi, T., Kameda, K., Kawamura, M. and Nakajima, T. (2006) Food habits of great cormorant *Phalacrocorax carbo hanedae* at Lake Biwa, Japan, with special reference to ayu *Plecoglossus altivelis altivelis*. *FISHERIES SCIENCE*, 72 : 477-484.
- Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Nishino, M., Wada, E., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin, V. G., Semernoy, V. P., Jankowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Y., Starobogatov, Y. I., Alexeev, V. R., Sitnikova, T. Y., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Nakai, K., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Takemon, Y., Tanida, K., Kusuoka, Y., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, S., Nagasawa, K., Ogawa, K. and Masunaga, K. (2006) Biodiversity of Lake Biwa : New discoveries and future potential. *Berliner Palaobiologische Abhandlungen*, 9 : 61.

【専門分野の著作】

- 亀田佳代子 (2006) 陸上生態系と水域生態系をつなぐもの—海鳥類の物質輸送と人間とのかかわり—. 山岸 哲監修, 保全鳥類学, 京都大学学術出版会, 京都 : 167-189.
- 亀田佳代子・保原 達・大園享司・木庭啓介・石田 朗・八尋克郎 (2006) カワウによる水域から陸域への物質輸送と環境変化の影響. 国際湿地再生シンポジウム 2006-湿地の保全再生と賢明な利活用-報告書 : 358-365.

【一般向けの著作】

- 亀田佳代子 (2006) 生態図鑑「キジバト」. バードリサーチニュース, 3 (8) : 2-3.
- 亀田佳代子 (2006) 琵琶湖のカワウ 関東・愛知のカワウ. かいつぶり (滋賀県野鳥の会会誌), (32) : 27-28.
- 亀田佳代子 (2006) 琵琶湖のカワウ. におのうみ (日本野鳥の会滋賀支部会報), (6) : 15-18.
- 亀田佳代子 (2006) 「第 26 回文化財防虫防菌処理実務講習会」に参加して. 文化財の虫菌害, 52 : 37-38.
- 亀田佳代子・芳賀裕樹 (2006) 第三部『地域だれでも・どこでも博物館』をめざして 進化する博物館-琵琶湖博物館中長期基本計画. 企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年, 琵琶湖博物館 : 58-59.
- 前畑政善・芳賀裕樹・牧野厚史・亀田佳代子 (2006) 第 2 章 : 琵琶湖博物館の研究 2. 生態系研究担当. 滋賀県立琵琶湖博物館研究部 10 年の歩み, 琵琶湖博物館 : 56-100.
- 坂根隆治・植田 潤・岡田登美男・亀田佳代子・口分田政博・清水幸男・山崎 享 (2006) [種の解説] 鳥類. 滋賀県生きもの総合調査委員会編, 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2005 年版, サンライズ出版, 滋賀 : 283-340.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 亀田佳代子 (2006 年 5 月 19 日) カワウによる物質輸送と環境変化の研究 : その意義と展望. 琵琶湖博物館研究セ

ミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

亀田佳代子（2006 年 7 月 31 日）日本鳥学会員近畿地区懇談会第 87 回例会，日本鳥学会員近畿地区懇談会，[企画・運営]．

亀田佳代子（2006 年 9 月 18 日）カワウの営巣が森林の窒素動態に与える影響．日本鳥学会 2006 年度大会自由集会「生元素安定同位体比の鳥類学への応用」，日本鳥学会，岩手大学キャンパス（岩手県），[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「水田地帯における水域ネットワークの構造と生物群集の関係性に関する研究」（研究代表者：前畑政善），共同研究者（2006 年度）．

琵琶湖博物館共同研究「信仰を理由に保護されてきた森林の保全システムにおける社会史的研究—滋賀県竹生島森林における鳥獣害への対応を事例として—」（研究代表者：牧野厚史），共同研究者（2006 年度）．

琵琶湖博物館申請専門研究「安定同位体比分析を用いたカワウ営巣林の食物網構造の解明」，（2006 年度）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本鳥学会評議員，2006 年 1 月～2007 年 12 月．

日本鳥学会企画委員会委員，2006 年 1 月～2007 年 12 月．

日本鳥学会員近畿地区懇談会世話人，2000 年～．

日本鳥学会，Ornithological Science，論文の査読，6 件．

Journal of Yamashina Institute for Ornithology，論文の査読，1 件．

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006 年度後期，滋賀県立大学大学院，生物多様性論（分担）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアートーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，8 回．

2006 年 8 月 7 日，琵琶湖博物館の資料の保存・管理の状況について，博物館実習，講義，琵琶湖博物館．

2006 年 12 月 16 日，湖と森に与えるカワウの影響—環境を変える生物の全体像をさぐる—，第 11 回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，口頭発表．

2006 年 12 月 17 日，下物の水鳥を観察してみよう，観察会，琵琶湖博物館とその周辺，主担当，（日本野鳥の会滋賀支部・はしかけグループ「びわたん」共催）．

2007 年 2 月 17 日，森に与えるカワウの影響—環境を変える生物としてのカワウの特徴をさぐる—，第 13 回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，ポスター発表．

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 5 月 22 日，カワウの生態，中部近畿カワウ広域協議会，中部近畿カワウ広域協議会第 1 回総会，滋賀県厚生会館別館（滋賀県大津市），講師．

2006 年 6 月 11 日，琵琶湖のカワウ，日本野鳥の会京都支部，日本野鳥の会京都支部総会，仁和寺御室開館（京都府京都市），講師．

2006 年 7 月 26・27 日，課題研究（鳥），滋賀県立石部高等学校，琵琶湖探求 2006（夏季集中講義），琵琶湖博物館，講師．

2006 年 10 月 7 日，カワウの生態と現状-カワウと人の過去・現在・未来を考える-，手賀沼流域フォーラム実行委員会，第 10 回手賀沼流域フォーラムーきっと逢える私達の夢見る手賀沼ー，千葉県手賀沼親水広場水の館（千葉県我孫子市），講師。

2006 年 11 月 8 日，地域実施計画の作成・対策手法の紹介，環境省，平成 18 年度第 2 回野生鳥獣保護管理技術者研修会（カワウの保護管理に関する研修会），ひこね市文化プラザ（滋賀県彦根市），講師。

2006 年 11 月 23 日，カワウを通して人と野生動物の過去、現在、未来を考える，滋賀県獣医師会，滋賀県獣医師会野生動物講演会，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 12 月 7 日，鳥類観察，石山小学校体験学習，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2006 年 6 月 6 日，カワウの被害対策についての情報収集，高知県企画振興部鳥獣対策室。

メディアへの協力

2006 年 4 月 22 日，共同通信社，カワウの生態について，（2006 年 4 月 19 日取材）。

2006 年 6 月 24 日，朝日新聞阪神支局，カワウが増えた要因について，（2006 年 5 月 23・31 日取材）。

2006 年 8 月 7 日，読売新聞大阪支社，CS 放送日テレ G+（ジータス）・読売ニュースナビ関西発，竹生島のカワウ被害について，（2006 年 7 月 18 日取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

鳥類標本データベース入力，225 件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

鳥類剥製標本及び骨格標本の製作，手続き，44 件。

鳥類標本提供，受入・整理，20 件。

鳥類剥製標本の特別観覧，模写，1 点。

鳥類剥製標本の利用，嘴部測定，45 点。

鳥類剥製標本の利用，ギャラリー展示「つかんだ・つんだ・いつもいた-あの生き物は、いま・・・？-」での展示，3 件。

鳥類剥製標本の利用，石山小学校体験学習，5 件。

くん蒸に関すること，主任。

収蔵庫の維持管理に関すること，主任。

他博物館・機関の活動

鳥類の巣標本の利用，栗東西中学校および甲南第三小学校での講演と展示，7 件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006 年 4 月 29 日～6 月 18 日，ギャラリー展示「つかんだ・つんだ・いつもいた-あの生き物は、いま・・・？-」，協力。

2006 年 7 月 15 日～11 月 26 日，第 18 回水族企画展示「水辺の生き物」，協力。

2006 年 12 月 9 日～2007 年 1 月 8 日，集う、使う、創る新空間「日本野鳥の会滋賀支部の活動」，対応。

モーニングレクチャー，講義，3 回。

【企画調整活動】

学校への訪問説明，県内の小・中学校，3 件.

【研究部関連事業】

生態系研究担当の研究推進，副主任.

研究施設、備品等の管理に関すること，副主任.

研究報告会に関すること，主任.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

1997 年 4 月 1 日～2008 年 3 月 31 日，京都大学生態学研究センター，協力研究員.

2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，中部近畿カワウ広域協議会，委員.

2006 年 6 月 1 日～2009 年 3 月 31 日，滋賀県外来種問題検討委員会，委員.

2006 年 8 月 1 日～2011 年 3 月 31 日，滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会，専門委員.

2006 年 7 月 12 日～2007 年 3 月 31 日，農林水産省近畿中国森林管理局，伊崎国有林の取扱いに関する検討における
ワーキンググループ，委員.

2006 年 8 月 1 日～2009 年 3 月 31 日，滋賀県カワウ対策検討会，委員.

2006 年 10 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，滋賀県カワウ総合対策計画検討協議会，委員.

主査**研究部生態系研究担当
（兼）事業部交流担当**

近年、滋賀県内の中山間地域においては、野生動物による農林業被害が発生し、農林家、行政ともに対応に苦慮しています。とくに林業被害としては、ニホンジカにより、植栽したばかりの苗木が食べられてしまう「食害」が起こっていて、対策なしには森林資源の循環利用が行えない状態が続いています。私は、こうした被害を直接防ぐ「防除」と被害軽減につながると考えられている「生息地改善」をテーマに研究を行っています。具体的には、「複層林」という、ぬき伐りを行った人工林下に植栽された苗木一本一本に対して保護（プロテクト）する、「単木防除」を施行した場合の防除効果と苗木の成長特性を調査しています。また従来の間伐よりも多くの本数を伐採する「強度間伐」において、発達する下層植生の推移を調べ、被害地周辺にある餌資源としての「下層植生」が、どれだけニホンジカにとっての「生息地改善」につながるか、その可能性を模索しています。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

西村知記（2006 年 12 月 16 日）強度間伐跡地の下層植生～一年目の芽ばえ～．第 11 回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[ポスター発表]．

西村知記（2007 年 2 月 16 日）複層林内における樹下植栽木の単木防除と成長．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】**琵琶湖博物館の主催行事**

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，13 件．

はしかけ「里山の会」，野洲市大篠原，8 件．

2006 年 5 月 27 日・7 月 22 日・9 月 23 日，里山体験教室，野洲市大篠原，3 件，（里山の会と共同）．

2006 年 11 月 25 日，比良の里山探検，観察会，大津市南比良．

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 7 月 13 日，彦根東高等学校 1 年 SS クラス，琵琶湖博物館．

2006 年 8 月 2 日，滋賀県小学校教育研究会生活科部会研修会，琵琶湖博物館．

2006 年 8 月 9 日，平成 18 年度滋賀県環境教育研究会協議会，琵琶湖博物館．

視察対応

2007 年 3 月 6 日，兵庫県立人と自然の博物館，琵琶湖博物館・大津市仰木地区．

2007 年 3 月 17 日，講演と意見交換コーディネート，県産材を活用する家づくりグループ．

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3 回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006 年度，滋賀県森林センター主査を兼務.

主査

研究部生態系研究担当
(兼) 総務部企画調整課

昨年度までは、琵琶湖漁業の主要漁業であるエリの網にソブと呼ばれる汚損物が多量に付着し、操業に支障が生じている問題について、現況把握調査を行ってきた。今年度も引き続き、水産試験場と連絡を取りながら、現況把握に努めた。

また今年度より新たに専門研究として「琵琶湖湖岸において造成されたヨシ群落の機能回復度の評価に向けて～天然ヨシ群落との比較から～」として、琵琶湖湖岸帯で複数の機関によって造成されているヨシ群落について、最も期待されている機能である魚類の産卵繁殖場としての機能が、どの程度回復しているのかをヨシの生育状況およびヨシ群落内の物理化学的環境（水温分布・一般水質項目など）、餌料環境（組成・バイオマス）、仔稚魚の出現状況および成長などから検討しようとした。

その結果、良好な魚類繁殖機能が確認された造成ヨシ群落は、ヨシ群落岸側の水温が、外縁沖側に比較して高く推移したが、魚類の繁殖が確認されなかったヨシ群落はこのような水温差は見られなかった。また他にも両者には溶存酸素量、餌料生物量に分布の違いが見られたが、これらはヨシ群落内部に静穏な水域が作り出されているかどうかを示している項目であると考えられ、ヨシ群落造成には群落内に静穏な水域をいかにして作り出すかが、キーポイントになることが示唆された。

ヨシ群落内の水温分布を把握することは、ある程度、ヨシ機能の回復度をみるのに有効だと思われたが、静穏な水域は、底質が還元状態に陥りやすく、ヨシ群落の生長には良くない影響ももたらすことも考えられ、今後、検討をしていく必要がある。

印刷物

【専門分野の著作】

幡野真隆・孝橋賢一・山本充孝・金辻宏明・遠藤 誠・二宮浩司・太田豊三（2006）琵琶湖定点定期観測（平成 14 年度）. 滋賀県水産試験場研究報告, 51 : 93-126.

幡野真隆・孝橋賢一・山本充孝・金辻宏明・遠藤 誠・二宮浩司・太田豊三（2006）琵琶湖定点定期観測（平成 15 年度）. 滋賀県水産試験場研究報告, 51 : 127-162.

【一般向けの著作】

孝橋賢一（2006）環境施設紹介（琵琶湖博物館）. EMATEC（環境情報）, 27（116）,（財）関西環境管理情報センター : 11-12.

孝橋賢一（2006）水族展示舞台裏の力持ち「水族飼育員」. 企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年, 琵琶湖博物館 : 51.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

孝橋賢一（2006 年 12 月 16 日）近年、琵琶湖で増加したエリ付着物. 第 11 回琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

孝橋賢一（2007 年 1 月 16 日）琵琶湖湖岸において造成されたヨシ群落の機能回復度の評価に向けて～天然ヨシ群落との比較から～．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館水族展示室，12 件．

2006 年 7 月 27 日，湖沼学基礎講座，実習室・琵琶湖上，副担当，（芳賀裕樹、中村公一、中野正俊共同）．

2006 年 7 月 29 日，漁船に乗ってビワマス漁を見てみませんか，琵琶湖博物館観察会，湖北町，主担当，（桑原雅之共同）．

2006 年 10 月 29 日，ビワマスの採卵現場を見てみませんか，琵琶湖博物館観察会，高島市マキノ町，副担当，（桑原雅之共同）．

2007 年 3 月 4 日，水族展示の舞台裏，琵琶湖博物館観察会，琵琶湖博物館，主担当，（水族担当学芸員、水族飼育員共同）．

視察対応

2006 年 9 月 28 日，概要説明・展示案内，NHK 谷田部解説委員・全国豊かなうみづくり大会準備室．

2007 年 1 月 27 日，概要説明・展示案内，韓国（ソウル）中学・高等学校学校長．

メディアへの協力

2006 年 4 月 3 日，KBS 京都滋賀放送局，松井桂三「さんさんわいど」，取材協力，（2006 年 4 月 3 日取材）．

2006 年 4 月 19 日，毎日新聞報道センター春日井駐在，毎日新聞中部版，取材協力，（2006 年 4 月 19 日取材）．

2006 年 4 月 25 日，中日新聞草津通信部，取材協力，（2006 年 4 月 25 日取材）．

2006 年 6 月 1 日，読売新聞大阪本社放送，取材協力，（2006 年 5 月 18 日取材）．

2006 年 5 月 23 日，リーフパブリケーションズ（株），リーフ 7 月号，取材協力，（2006 年 5 月 23 日取材）．

2006 年 5 月 30 日，京阪神エルマガジン社，JR 西日本広報誌「旅ごよみ 7 月号」，（2006 年 5 月 30 日取材）．

2006 年 6 月 25 日，東海テレビプロダクション，「おでかけ！パレット～湖国滋賀・琵琶湖ぐるっと完全攻略術！～」，取材協力，（2006 年 6 月 4 日取材）．

2006 年 7 月 25 日，エルマガジン 9 月号「関西の美術館特集」自然史系博物館の魅力，取材協力，（2006 年 6 月 27 日取材）．

2006 年 9 月 11 日，NHK 大阪放送局，NHK 教育テレビ「見てハッスル！聞いてハッスル！」，取材協力，（2006 年 7 月 3 日取材）．

2006 年 7 月 27 日，NHK 大阪放送局，もっともっと関西，取材協力，（2006 年 7 月 22 日取材）．

2006 年 8 月 18 日，KBS 滋賀放送局，田渕岩夫 特ダネテレビ「特ダネ滋賀だより」，取材協力，（2006 年 8 月 2 日取材）．

2006 年 9 月 13 日，UR 都市機構広報誌 SiDiFa「水族館特集」，取材協力，（2006 年 8 月 6 日取材）．

2006 年 8 月 8 日，びわ湖放送，県政テレビタ刊，取材協力，（2006 年 8 月 8 日取材）．

2006 年 8 月 20 日，日本テレビ，ザ・サンデー，取材協力，（2006 年 8 月 18 日取材）．

2007 年公開予定，映像製作集団「鯖黒」，映画「しんおん」，撮影協力，（2006 年 8 月 30 日取材）

2006 年 9 月 23 日，近鉄ケーブルネットワーク（株），クイズどんでんグランプリ，取材協力，（2006 年 9 月 14 日取材）．

2006 年 11 月 30 日，トライアウト（株），JTB「タビリエ 近江・琵琶湖 '07」，取材協力，（2006 年 9 月 20 日取材）．

2006 年 12 月 20 日，(株) ページワン，JR 西日本広報誌「WEDGE」，取材協力，(2006 年 11 月 22 日取材).
2007 年 1 月 29 日，京都新聞，琵琶湖からのメッセージ，取材協力，(2006 年 12 月 22 日取材).
2007 年 1 月 27 日，びわ湖放送，県政週刊プラスワン，取材協力，(2007 年 1 月 24 日).
2007 年 2 月 28 日，NHK 大津放送局，おうみ発 610 生中継スペシャル，撮影協力，(2007 年 2 月 28 日撮影).
2007 年 3 月 16 日，NHK 大津放送局，おうみ発 610，撮影協力，(2007 年 3 月 1～6 日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3 回.

展示交流員と話そう（琵琶湖のアユ漁について），内容指導.

【企画調整活動】

2006 年 4 月 4 日・9 月 17・21 日，滋賀県・湖南地域観光キャンペーン，広報活動・チラシ等配布，3 件，JR 京都駅構内.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2006 年度，琵琶湖博物館広報・経営戦略会議，検討メンバー.

主任学芸員

研究部生態系研究担当
（兼）事業部展示担当
（兼）滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター
琵琶湖研究部門 主任研究員

2006 年 4 月から琵琶湖環境研究センター兼務となり、週 2 日、3 日の勤務となったので、忙しいが目新しい日々を過ごした。

研究活動では、6 月に開かれた自然修復に関する国際会議（ICLEE2006）で、外部資金で専門研究として行っている森林再生促進技術の開発研究に関して、「モンゴル北部フブスグル湖集水域での焼失したシベリヤカラマツ林の再生-再生阻害要因に関する野外実験」として発表した。また、5 月下旬から 6 月上旬、雪解けのハトガル村に行き、現地の学校の生徒達にも種子の選別、種まきに参加・協力してもらって、新たな柵で囲まれた実験地を学校の近くに設定し、8 月半ばにデータ採取を行った。7 月の例年になく大雨（年間降水量の 7 割の 200mm）で実験地は半分以上水没していたが、光に関しては初期の実験と同様の結果が得られた。またいたるところで発芽個体が見られた（ほとんど枯れる）ことも本来の森林の更新を考える上で収穫だった。

外部資金（河川財団）も加えて、琵琶湖環境科学研究センターや滋賀県立大、京大等と共同で行っている森林管理に関する実験研究は 2007 年 3 月の日本生態学会で「下流域への栄養塩負荷を最小限にする森林伐採管理方法の探求」として発表した。これまで提案してきた伐採負荷削減での斜面下部残存林の有効性を実証できてうれしく思っている。今後の森林利用・整備を考えると、ノンポイント負荷削減に、この結果をどう生かしていこうかと考えている。

博物館の運営に関する業務では、展示科で展示に関する維持管理業務の一部を分担し、10 周年事業で、ギャラリー一展「企画展で振り返る琵琶湖博物館の 10 年」の展示主担当として進行管理と展示、屋外観察会を行った。また武部さん（前期）、小川さん（後期）と共同で屋外展示の維持管理を行った。その他資料整理委託職員の協力のもと、植物収蔵庫の運営・管理を行なって、滋賀県産植物標本の整理・蓄積に努めた。

印刷物

【専門分野の著作】

金子有子・籠谷泰行・徳地直子・草加伸吾（2007）環境負荷の軽減を図るための森林管理方法の検討-環境負荷の軽減方法を探るための実験から-。平成 18 年度試験研究報告，滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター，滋賀県：1-11。

【一般向けの著作】

草加伸吾（2006）現地報告 3 フブスグル湖周辺のカラマツはなぜ一直線の列に並ぶのか？。モンゴル通信 No. 13 現地報告：フブスグル湖周辺調査報告 1～3，びわ湖・フブスグル湖交流協会事務局，滋賀県：6-7（モンゴル語版同時出版）。

草加伸吾（2007）琵琶湖と森林。琵琶湖ハンドブック編集委員会編，琵琶湖ハンドブック，滋賀県：102-103。

研究活動に関する業績

【学会・研究会で発表など】

- KUSAKA, S. and KIRA, T. (2006 年 6 月 16 日) Regeneration of burned *Larix sibirica* forest in the Lake Hovsgol watershed of northern Mongolia; field experiment on factors inhibiting regeneration. International Conference on Ecological Restoration In East Asia 2006 (ICLEE2006). International Consortium of Landscape and Ecological Engineering (ICLEE) & International Association for Landscape Ecology Asia-Pacific Region (IALE Asia-Pacific Region), Hotel Hankyu ExpoPark, Osaka.
- 草加伸吾 (2006 年 9 月 15 日) モンゴル北部森林火災跡地での再生阻害要因の実験結果と再生への応用. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 草加伸吾・金子有子 (2006 年 12 月 16 日) 森林伐採による水系への負荷を削減する伐採管理手法の検討. 第 11 回琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
- 草加伸吾・吉良竜夫 (2006 年 12 月 16 日) 森林火災跡地での再生がなぜ困難か?—モンゴル北部フブスグル湖周辺のシベリアカラマツ林の場合, 第 11 回琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
- 草加伸吾 (2007 年 1 月 29 日) 森林伐採による水系への負荷を削減する伐採管理手法の検討. 琵琶湖環境科学研究センター琵琶湖部門研究セミナー, 琵琶湖環境科学研究センター, (滋賀県大津市), 「口頭発表」.
- 草加伸吾・金子有子・徳地直子・籠谷泰行・濱端悦治 (2007 年 3 月 20 日) 下流域への栄養塩負荷を最小限にする森林伐採管理方法の探求. 第 54 回日本生態学会大会, 日本生態学会第 54 回大会 (ESJ54) 実行委員会, 愛媛大学 (松山市), 「口頭発表」.
- 草加伸吾 (2007 年 2 月 24 日) 滋賀県植物研究会, 琵琶湖博物館, [司会].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「伐採後の植生と水質調節：降雨流出時の水質変化の組成解析」, (2001 年度～).
- 琵琶湖環境科学研究センター重点プロジェクト研究「環境負荷の軽減を図るための森林管理方法の検討」, 研究メンバー (2003 年度～).
- 河川環境管理財団「下流域の富栄養化への影響を最小限にする森林管理方法の探求」(研究代表者：草加伸吾) (2006～2007 年度) .
- 地球環境基金・イオン環境財団 びわ湖・フブスグル湖交流協会研究プロジェクト「モンゴル北部フブスグル湖周辺の森林火災・虫害被害跡地の再生と予防支援」, 研究分担者.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

- フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 11 件.
- 2006 年 5 月 6 日, 観て楽しい、食べておいしい朽木の春, フィールド観察会, 森林公園くつきの森、搦み谷周辺 (滋賀県高島市), (朽木ふれあいの里ネイチャーセンターと共同).
- 2006 年 10 月 21・22 日, 屋外展示ミニ観察会, 琵琶湖博物館 10 周年記念事業, 琵琶湖博物館, (西村知記共同).

他の博物館・機関等主催行事

- 2006 年 7 月 8 日, 湧き水を調べてみよう, 守山市民湧き水探検隊, 琵琶湖博物館, 講義.

メディアへの協力

- 2007 年 2 月 26 日, 京都新聞, 琵琶湖からのメッセージ「森林管理で水環境守れ—伐採・間伐方法探る」, (2007 年 2 月 21 日取材)

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物標本資料收集整理（モンゴル国植物標本資料同定用 23 点）.

植物収蔵庫維持管理主担当（3,136 点登録、登録総数 79,526 点）（石田末基氏・町田英則氏と共同）.

実験温室主担当、加温、遮光タイマーの交換補修実施.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，6 件.

展示交流員と話そう（ミミズのはたらき），内容指導.

2006 年 12 月 23 日～2007 年 2 月 18 日，琵琶湖博物館ギャラリー展示「企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年」，

展示主担当，図録副担当（芳賀裕樹共同）.

屋外展示植栽維持管理業務（小川雅広・臼井学と共同）.

屋外展示植栽木（高木、亜高木）毎木調査（DBH 測定・生育状況）実施、ラベル調査実施（成長に伴う被覆針金交換、追加：落下、読めないもの対応）.

屋外植栽管理台帳基礎データベース更新，約 5,000 本（小川雅広・臼井学と共同）.

【企画調整活動】

学校への説明訪問，県内小・中学校，6 件.

新任職員研修，C 展示室、屋外展示について，2006 年 4 月 25 日，説明.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2006 年 5 月 19 日～6 月 4 日，モンゴル国フブスグル湖流域，山火事消失林での再生促進要因に関する実験の設定，びわ湖・フブスグル湖交流協会研究プロジェクト.

2006 年 8 月 6 日～17 日，モンゴル国フブスグル湖流域，山火事消失林での再生促進実験のデータ採取，びわ湖・フブスグル湖交流協会研究プロジェクト.

【館外の活動】

滋賀県森林センター委員.

琵琶湖環境科学研究センター共同研究者.

主任学芸員

研究部生態系研究担当
（兼）事業部交流担当

2006 年度は新たにはじまった総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」で原生動物を担当した。中国とオーストリアから繊毛虫の分類の専門家を招待し、一緒に琵琶湖の繊毛虫の調査を行った。その結果、中国の研究者と共にツリガネムシの一種の未記載種を、また、オーストリアの研究者とは4種の未記載種を見つけることができた。専門研究の共生藻類をもつ繊毛虫の研究では体内に共生するクロレラをもつ繊毛虫で、これまで報告されている同じ属の繊毛虫とはまったく核の形が異なる種を見つけた。未記載種である可能性が高く、現在その形態の細かい解析を行っている。

博物館の事業としては交流グループのフィールドレポーター担当としてフィールドレポータースタッフの協力を得ながら、ニュースレターのインターネットでの提供などを実現した。JICA 博物館学集中コースの担当として、9カ国10人の研修員を受け入れ、琵琶湖博物館で行ったさまざまなプログラムの立案やコーディネートを行った。全国豊かなうみづくり大会関連イベントの「琵琶湖の漁業と環境」展示の館内副担当として、展示計画に関わった。

印刷物

【専門分野の著作】

Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Nishino, M., Wada, E., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin, V. G., Semernoy, V. P., Jankowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Y., Starobogatov, Y. I., Alexeev, V. R., Sitnikova, T. Y., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Nakai, K., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Takemon, Y., Tanida, K., Kusuoka, Y., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, S., Nagasawa, K., Ogawa, K. and Masunaga, K. (2006) Biodiversity of Lake Biwa : New discoveries and future potential. *Berliner Palaobiologische Abhandlungen*, 9 : 61.

楠岡 泰 (2007) ミクロの世界を探検する-微小生物の観察-. 初等理科教育, 2007 年 3 月号, 日本初等理科教育研究会 : 52-53.

小野展嗣・楠岡 泰・一瀬 諭・柚木 修・三谷伸也・森滝丈也 (2007) 無せきつい&原生生物. 西川輝昭 (監修), マルチメディア図鑑 Navi, 株式会社アストロアーツ, 東京都, CD の中の原生動物の項目.

【一般向けの著作】

楠岡 泰 (2006) ギャラリー展：博物館を楽しもう「はしかけ・フィールドレポーター活動紹介」に参加して. フィールドレポーター掲示板, (40), 琵琶湖博物館フィールドレポーター : 1.

楠岡 泰 (2006) 自然な田んぼ. フィールドレポーター掲示板, (41), 琵琶湖博物館フィールドレポーター : 1.

楠岡 泰 (2006) ソバ作りと手打ちそば. 桑垣みずほ 他(編), 滋賀県日野町上駒月の里山, 琵琶湖博物館はしかけ里山の会 : 24-25.

楠岡 泰 (2006) 原生動物の分類. フィールドレポーター掲示板, (42), 琵琶湖博物館フィールドレポーター : 1.

楠岡 泰 (2006) 博物館ボランティアメッセで小耳に挟んだこと. フィールドレポーター掲示板, (43), 琵琶湖博物館フィールドレポーター : 1.

楠岡 泰 (2007) 琵琶湖は未知の原生動物の宝庫. フィールドレポーター掲示板, (44), 琵琶湖博物館フィールド

レポーター：1.

楠岡 泰 (2007) プランクトンの模型作り. 森永紗江子, 肥山陽子, 青木伸子(編), 体験学習プログラム集-「びわたん」からの招待状-, 琵琶湖博物館・はしかけグループ「びわたん」: 31-32.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

楠岡 泰 (2006 年 9 月 15 日) ヨルダン博物館事情. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

浅井 博・堀田康夫・楠岡 泰 (2006 年 11 月 19 日) 琵琶湖湖畔の葦とオオカナダモに付着して棲息する巨大ゾーサムニウム. 第 39 回日本原生動物学会大会, 日本原生動物学会, 西九州大学 (佐賀県神埼市), [口頭発表].

楠岡 泰 (2006 年 12 月 16 日) ピノキオのように“鼻”が伸びる繊毛虫ペラゴディレプタス-おなかが減ると“鼻”が伸びる?- 第 11 回琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査: 分類学、形態と分子に基づく系統学」(研究代表者: マーク・J・グライガー), 副代表者 (2006 年度).

琵琶湖博物館総合研究「水田地帯における水域ネットワークの構造と生物群集の関係性に関する研究」(研究代表者: 前畑政善), 研究協力者 (2006 年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006 年 9 月 12 日, JICA and ILEC Environmental education course focused on aquatic environments, Environment Education in the Lake Biwa Museum (展示案内含む).

2006 年 9 月 13 日, Stanford University Immersion Experiential Seminar in Kyoto, The Environment of Lake Biwa (展示案内含む).

2006 年 11 月 15 日, JICA Jordan museology course, The Process of Building the Lake Biwa Museum (展示案内含む).

2007 年 1 月 24 日, JICA Training course in integrated basin management for lake environment, Observations of Plankton, 講師.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 10 件.

フィールドレポーター, 琵琶湖博物館, 主担当, 40 件, (フィールドレポータースタッフと共同).

JICA 博物館学集中コース, 琵琶湖博物館, 主担当, 20 件, (国立民族学博物館と共催).

里山体験教室, 琵琶湖博物館, 副担当, 3 件, (西村知記共同).

はしかけ運営, 田んぼの生き物調査グループ, 琵琶湖博物館, 主担当, 10 件, (マーク・J・グライガー共同).

はしかけ運営, 里山の会, 琵琶湖博物館, 主担当, 15 件, (西村知記共同).

2006 年 4 月 20 日, 広島平和資料館見学, JICA 博物館学集中コース, 広島県広島市, 引率, (国立民族学博物館と共同).

2006 年 4 月 21 日, 九州国立博物館見学, JICA 博物館学集中コース, 福岡市太宰府町, 引率, (国立民族学博物館と

共同).

2006 年 4 月 26 日, 琵琶湖博物館ができるまで・展示紹介, JICA 博物館学集中コース, 琵琶湖博物館, 講師, (布谷知夫共同).

2006 年 4 月 28 日, 博物館評価法, JICA 博物館学集中コース, 琵琶湖博物館, 講師, (布谷知夫共同).

2006 年 5 月 11 日, ヨシ博物館および能登川博物館見学, JICA 博物館学集中コース, 琵琶湖博物館, 引率.

2006 年 5 月 13 日, フィールドレポーター・はしかけ制度について, レポーターおよびはしかけとの交流, JICA 博物館学集中コース, 琵琶湖博物館, 講師, (フィールドレポータースタッフ、はしかけと共同).

2006 年 5 月 13 日, びわたんプログラムの体験, JICA 博物館学集中コース, 琵琶湖博物館, 補佐, (青木伸子共同).

2006 年 5 月 27 日, 第 1 回里山体験教室, 里山体験教室, 野洲市大篠原, 補佐, (西村知記、はしかけ里山の会共同).

2006 年 7 月 9 日, 伯母川探検体験, JICA 博物館学集中コース (個別研修: 博物館と地域), 草津市伯母川, 講師, (布谷知夫、伯母 Q 五郎共同).

2006 年 7 月 9 日, 研修生による小学生向けワークショップ (世界の湖), JICA 博物館学集中コース (個別研修: 博物館と地域), 草津市志津, 補佐, (布谷知夫、伯母 Q 五郎共同).

2006 年 7 月 10 日, 伯母川探検プログラムが目指したもの, JICA 博物館学集中コース (個別研修: 博物館と地域), 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 7 月 10 日, 体験学習プログラムの開発 (ピンホールカメラ), JICA 博物館学集中コース (個別研修: 博物館と地域), 琵琶湖博物館, 補佐, (秋山廣光共同).

2006 年 7 月 10 日, 体験学習プログラムの開発 (植物の形), JICA 博物館学集中コース (個別研修: 博物館と地域), 琵琶湖博物館, 補佐, (布谷知夫共同).

2006 年 7 月 11 日, 中学生との交流 (各国湖事情の発表), JICA 博物館学集中コース (個別研修: 博物館と地域), 琵琶湖博物館, 補佐, (中村公一共同).

2006 年 7 月 11 日, 体験プログラムの開発 (世界の湖), JICA 博物館学集中コース (個別研修: 博物館と地域), 琵琶湖博物館, 補佐, (堀田桃子共同).

2006 年 7 月 11 日, はしかけびわたんの活動, JICA 博物館学集中コース (個別研修: 博物館と地域), 琵琶湖博物館, 補佐, (青木伸子共同).

2006 年 7 月 12 日, はしかけはたおりの会体験, JICA 博物館学集中コース (個別研修: 博物館と地域), 琵琶湖博物館, 補佐, (はしかけはたおりの会共同).

2006 年 7 月 12 日, 中学校向け体験学習の体験 (カヌー他), JICA 博物館学集中コース (個別研修: 博物館と地域), 烏丸半島, 補佐, (中野正俊、川崎 等共同).

2006 年 7 月 13 日, 高校向け体験学習の体験 (プランクトン), JICA 博物館学集中コース (個別研修: 博物館と地域), 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 7 月 13 日, 草津市街づくりセンター、草津本陣見学, JICA 博物館学集中コース (個別研修: 博物館と地域), 草津市内, (布谷知夫共同).

2006 年 7 月 22 日, 第 2 回里山体験教室, 里山体験教室, 野洲市大篠原, 補佐, (西村氏、はしかけ里山の会共同).

2006 年 11 月 25 日, 比良の里山探検, 琵琶湖博物館観察会, 大津市南比良, 主担当, (布谷知夫、カワセミ自然の会共同).

2006 年 12 月 9 日, 第 4 回里山体験教室, 里山体験教室, 野洲市大篠原, 補佐, (西村知記、はしかけ里山の会共同).

2007 年 2 月 18 日, 伊丹昆虫館との交流, フィールドレポーター交流会, 兵庫県伊丹市, 主担当, (フィールドレポータースタッフ共同).

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 6 月 18 日, 田んぼの生きものー自然農法の田んぼで自然観察ー, 朽木いきものふれあいの里, 高島市朽木生杉, 講師.

2006 年 7 月 11 日, 世界の湖, 安曇川中学校, 体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, (中村公一、JICA 研修員と共同).

2006 年 7 月 13 日、プランクトンの観察、彦根東高等学校、スーパーサイエンスハイスクール、琵琶湖博物館、講師。

2006 年 7 月 25 日、プランクトンの観察、膳所高等学校、スーパーサイエンスハイスクール、琵琶湖博物館、講師。

2006 年 7 月 26 日、個別研究課題対応、石部高等学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、講師。

2006 年 7 月 26 日、プランクトンの観察、湖南市教育委員会教員研修、教員研修、琵琶湖博物館、講師。

2006 年 7 月 30 日、プランクトンの模型づくり、佐川美術館、SAGAWA キッズミュージアム、佐川美術館、守山市、講師、(はしかけびわたん、佐川美術館共同)。

2006 年 7 月 31 日、湖上実習、膳所高等学校、スーパーサイエンスハイスクール、琵琶湖博物館、講師、(芳賀裕樹共同)。

2006 年 8 月 3 日、プランクトンと付着微小生物の観察、中学校理科部会、自然調査ゼミナール事前研修、琵琶湖博物館、講師。

2006 年 9 月 9 日、外来魚の調理、草津市環境課、草津市水環境クリーンウォーク、湖岸公園、草津市、講師、(孝橋賢一共同)。

2006 年 9 月 21 日、個別研究課題対応、守山北高校、琵琶湖博物館、講師、(芳賀裕樹共同)。

2006 年 9 月 23・24 日、フィールドレポーターおよびはしかけの活動紹介、九州国立博物館、ボランティアメッセ 2006in 九博、九州国立博物館、福岡市太宰府町、展示ブース作製、(フィールドレポーター、はしかけ共同)。

2006 年 10 月 17 日、プランクトンの観察、岐山高等学校、体験学習、琵琶湖博物館、講師。

2006 年 10 月 25 日、プランクトンの模型づくり、杉野中学校、体験学習、琵琶湖博物館、講師。

2006 年 10 月 28 日、第 7 回草津市パワフル交流・市民の日、草津市、地域連携、草津市役所、草津市、フィールドレポーター出展補助。

2007 年 1 月 20 日、プランクトンの観察、シニア自然大学、地域連携、琵琶湖博物館、講師。

視察対応

2006 年 10 月 22 日、展示室案内、第 4 回国際窒化物バルケ国際シンポジウム、琵琶湖博物館展示室。

メディアへの協力

2006 年 6 月 11 日、週間かがくるプラス、水の中には小さな生き物がいっぱい！、プランクトンの写真提供。

2006 年 12 月 15 日、Yale University Press, Living Japanese, Diversity in Language and Lifestyles: Conversations With Native Speakers、インタビューを受け、DVD および本に出演、(2004 年 5 月 31 日取材)。

2007 年 2 月 25 日、NHK、ダーウィンが来た！生き物新伝説、オオミジンコの撮影、(2006 年 9 月 8 日取材)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物静止画、撮影および指導、217 件。

微小生物動画、撮影および指導、19 件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講演、3 回。

展示交流員と話そう、(ミジンコについて・フィールドレポーターについて)、2 件。

2006 年、常設展示：生き物コレクションプランクトンコーナー、維持管理、展示更新 (年 4 回)。

2006 年、常設展示：ミクロの世界、維持管理。

2006 年、常設展示：どぶ川の生き物たち、維持管理。

2006 年 3 月 21 日～4 月 9 日、ギャラリー展示「はしかけ・フィールドレポーター活動紹介」、副担当。

2006 年 10 月 3 日～15 日、新空間展示「はしかけ・フィールドレポーター、九州国立博物館へ行く！」、フィールド

レポートの展示を担当.

2006 年 12 月 23 日～2 月 18 日, ギャラリー展示「企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年」, 里山特別展コーナーを担当.

2007 年 3 月 25 日～4 月 8 日, はしかけ・フィールドレポート活動紹介, フィールドレポート、田んぼの生き物調査グループ、里山の会コーナー担当.

他博物館・機関の活動

全国豊かなうみづくり大会（滋賀）, 2006 年, 関連展示「琵琶湖の漁業と環境」ワーキンググループ, 館内副担当.

【企画調整活動】

学校への説明訪問, 県内小・中学校, 6 件.

【研究部関連事業】

研究交流, 主担当, 2006 年.

試験研究機関連絡会議, 幹事, 2006 年.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004 年 4 月～, JICA, 博物館学集中コース運営委員会, 運営委員.

主任学芸員

研究部生態系研究担当
(兼) 交流担当

2006 年度も、外来魚の繁殖生態や分布に関する研究を、実際の生息抑制や予防につなげる応用的側面の研究に重点を置いた。本年度は、環境省地球環境研究総合推進費（課題「侵入種生態リスク評価研究プロジェクト」）への参画（2004 年度～）と、水産庁健全な内水面生態系復元等推進委託事業（課題「ブルーギル食害等影響調査」）の分担（2005 年度～）の最終年度にあたり、前者では、主に岐阜大学、三重大学、各地の内水面水産試験場等の研究者・調査員との共同作業で、全国のコクチバスの遺伝的分析を行い、この魚種の各地への分布拡大経緯を推測した。また、後者では、滋賀県立大学の大学院生と共同で、琵琶湖の調査地でブルーギルの繁殖コロニーを狙った捕獲方法を開発し、それが繁殖抑制に有効であることを明らかにした。

2006 年度からは、滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課の副主幹の兼務が始まり、週 2 日の割合で、野生生物担当業務を兼務した。具体的には、2006 年 3 月 30 日に公布された「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」で定める指定希少野生動植物種と指定外来種を指定する事務局業務が主軸であったが、この業務を遂行するにあたって、これまでの専門研究等、博物館における研究で得た経験・知識が大いに役に立った。

印刷物

【学術論文】

中尾博行・藤田建太郎・川端健人・中井克樹・沢田裕一（2006）琵琶湖北湖における外来魚ブルーギル *Lepomis macrochirus* の繁殖生態. 魚類学雑誌, 53 : 55-62.

中尾博行・川端健人・藤田建太郎・中井克樹・沢田裕一（2006）外来魚ブルーギルの卵・仔魚に対する在来巻貝類の捕食. 魚類学雑誌, 53 : 167-174.

【専門分野の著述】

中井克樹（2006）外来生物法とオオクチバス～特定外来生物の指定をめぐる～. 細谷和海・高橋清孝（編），ブラックバスを退治する-シナイモツゴ郷の会からのメッセージ, 恒星社厚生閣, 東京 : 13-24.

中井克樹・藤田建太郎・中尾博行・沢田裕一（2006）琵琶湖における侵略的外来魚の影響と対策. 国際湿地再生シンポジウム 2006 実行委員会（編）, 国際湿地再生シンポジウム 2006-湿地の保全再生と賢明な利活用-報告書, 国際湿地再生シンポジウム 2006 実行委員会事務局, 大津 : 337-338.

Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Nishino, M., Wada, E., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin, V. G., Semernoy, V. P., Jakowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Y., Starobogatov, Y. I., Alexeev, V. R., Sitnikova, T. Y., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Maehata, M., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Takemon, Y., Tanida, K., Kusuoka, Y., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kusuoka, Y., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, S., Nagasawa, K., Ogawa, K. and Masunaga, K. (2006) Biodiversity of Lake Biwa: New Discoveries and future potential. In: Kossler, A., Kohring, R. and Riedel, F. (eds.) *Abstracts of the International Symposium: Speciation In Ancient Lakes*, SIAL IV, Berlin : 61.

【一般向けの著述】

- 中井克樹（2006）はじめにー外来生物問題の考え方。小山市立博物館（編），第50回企画展示外国からやってきた生き物たち～生き物のふるさと調べ～，小山市立博物館，小山：1-5.
- 中井 克樹（2007）水面の下のワンダーランド。うみんど，41，琵琶湖博物館：7.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表など】

- 神谷敏詩・橋本 崇・中井克樹・松田征也・高見明宏・島本昌憲（2006年4月8日）カワニナ属（*Semisulcospira*）の琵琶湖固有種は単系統群か？. 日本貝類学会平成18年度大会，東京海洋大学（東京都港区），[口頭発表].
- 中井克樹（2006年5月16日）淡水魚類の主要外来種の生息域・生息環境と生態的影響. 地球環境研究総合推進費平成16年度開始課題「侵入種生態リスクの評価手法と対策に関する研究」平成18年度研究計画会合，（独）国立環境研究所，（独）国立環境研究所（東京都千代田区），[口頭発表].
- 土田陽介・佐藤千夏・中井克樹・向井貴彦（2006年10月8日）岐阜県周辺のブラックバス類におけるmtDNAハプロタイプ分布. 2006年度日本魚類学会年会，静岡県コンベンションアーツセンター（静岡県静岡市），[ポスター発表].
- 中尾博行・中井克樹・沢田裕一（2006年10月9日）琵琶湖におけるブルーギル繁殖コロニー構成個体の特性. 2006年度日本魚類学会年会，静岡県コンベンションアーツセンター（静岡県静岡市），[口頭発表].
- 中井克樹（2006年10月26日）琵琶湖の外来魚問題の経緯と現状：滋賀県による取り組みと遺伝的分析で判った大規模侵入. アクアゲノムシンポジウム in びわ湖「魚貝類の遺伝子解析と水産資源・環境の保全」，日本アクアゲノム研究会，長浜バイオ大学（滋賀県長浜市），[口頭発表（招待）].
- 中井克樹（2006年12月15日）琵琶湖の外来魚問題史. 琵琶湖博物館研究セミナー. 琵琶湖博物館，[口頭発表].
- 中井克樹（2006年12月16日）外来魚問題を歴史から考える. 第11回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[口頭発表].
- Nakai, K.（2006年12月17日）Bio-invasion in Japanese freshwaters: cases of Chinese Mitten Crab, Golden Mussel and Black Bass. Workshop on Bioinvasion, Biodiversity Network Japan, 琵琶湖博物館，[口頭発表].
- 中井克樹（2007年1月21日）外来魚駆除で考えるべきこと. 琵琶湖を戻す会第2回「外来魚情報交換会」，琵琶湖を戻す会，草津市市民交流プラザ（滋賀県草津市），[口頭発表].
- 中井克樹（2007年1月31日）「オオクチバス等防除モデル事業」について考えること. 広域分布特定外来生物防除モデル事業実施者連絡会議（オオクチバス等），環境省，新宿御苑（東京都新宿区），[意見公述].
- 中井克樹（2007年1月31日）カワヒバリガイの生態（および日本国内の生息状況）. カワヒバリガイの勉強会，電力中央研究所，環境科学研究所（千葉県我孫子市），[講義].
- 中井克樹（2007年2月15日）琵琶湖の活動紹介とモデル事業に求められる活動とは. 片野鴨池オオクチバス等防除モデル事業第1回検討会議，加賀市鴨池観察館（石川県加賀市），[基調講演].
- 中尾博行・中井克樹・沢田裕一（2007年2月17日）琵琶湖北湖における外来魚ブルーギルの繁殖生態. 第13回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[ポスター発表].
- 中井克樹（2007年2月17日）外来魚駆除の現場から：成功には条件が、失敗には原因がある. ため池池干し & バス・ギル生息状況調査法の研修会，生駒の自然を愛する会，生駒市高山町獅子ヶ丘自治会館（奈良県生駒市），[講師].
- 中井克樹（2007年2月26日）ブルーギルの繁殖特性を利用した駆除技術の開発. 平成18年度ブルーギル食害等影響調査事業年度末報告会，（財）全国内水面漁業協同組合連合会，三会堂ビル（東京都港区），[口頭発表].
- 中井克樹（2007年3月20日）各地のオオクチバス防除事業：新技術の開発と今後の課題. 日本生態学会第54回

大会自由集会「特定外来生物防除の最前線～対策と問題点～」，愛媛大学（愛媛県松山市），[口頭発表]。
中井克樹（2007 年 3 月 21 日）博物館にいて考える外来生物問題の啓発．外来生物シンポジウム「外来生物問題とどう取り組むか～啓発活動と現場での対策～」，生物多様性ジャパン，文京区シビックセンター（東京都文京区），[パネリスト]。
中井克樹（2007 年 3 月 22 日）特定外来生物カワヒバリガイの分布と防除の現状．日本生態学会第 54 回大会自由集会「淡水産外来無脊椎動物の侵入実態と防除に向けた課題」，愛媛大学（愛媛県松山市），[口頭発表]。
中井克樹（2007 年 3 月 22 日）コメント：生態流通問題について．日本生態学会第 54 回大会自由集会「淡水産外来無脊椎動物の侵入実態と防除に向けた課題」，愛媛大学（愛媛県松山市），[コメンテーター]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「水田における水域ネットワークの構築と背宇物群集の関係性に関する研究」（研究代表者：前畑政善），研究協力者（2006 年度～）。
平成 16 年度開始地球環境研究総合推進費課題「F-3 侵入種生態リスク評価研究プロジェクト」（研究代表者：五箇 公一），研究参画者（2004～2006 年度）。
水産庁平成 17 年度健全な内水面生態系復元等推進委託事業「ブルーギル食害等影響調査」，担当者，（2005 年度～2006 年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会，自然保護専門委員会外来種問題検討作業部会，部会員，2001 年 3 月～。
日本魚類学会，評議員，2004 年 1 月～。
日本魚類学会，自然保護委員会・委員，2001 年 2 月～。
日本魚類学会，自然保護委員会外来魚問題検討部会，部会員，2001 年 2 月～。
応用生態工学会，「応用生態工学」会誌編集委員会，専門編集委員，2000 年 4 月～。
応用生態工学会，パートナーシップ委員会，委員，2001 年 12 月～。
阪神貝類談話会，理事，2000 年 1 月～。
山口貝類研究同好会，査読協力員，1996 年～。
生物多様性ネットワーク新潟，顧問，2004 年 10 月～。
日本ベントス学会，Benthos Research，投稿論文の査読，1 件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006 年度後期，滋賀県立大学大学院環境科学研究科，「生物多様性論」，非常勤講師。
2006 年度，中尾 博之・藤田 建太郎（滋賀県立大学大学院環境科学研究科 博士後期課程）、高野 裕樹（修士課程），琵琶湖におけるオオクチバス・ブルーギルに繁殖生態等に関する研究，副指導教官。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2006 年 7 月 8 日・11 月 5 日・3 月 4 日，はしかけ登録講座，3 件，担当。
2006 年 8 月 6 日，琵琶湖の貝を調べてみよう，観察会，琵琶湖博物館，副担当，（松田征也と共同）。
2007 年 2 月 3 日，なぜ地域在来魚を調べ、守るのか～いま必要な「お宝鑑定」～，指導者のための淡水魚類学専門講座 II，琵琶湖博物館，[講師]。
2007 年 3 月 25 日，平成 18 年度はしかけ発表会・交流会，琵琶湖博物館，担当，（牧野厚史と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

- 2006 年 5 月 17 日，琵琶湖の環境と外来魚，大津東ロータリークラブ第 1663 回例会・卓話，ロイヤルオークホテル（滋賀県大津市），講師。
- 2006 年 5 月 29 日，身近な生きものとのつきあい方，瀬田南青少年育成学区民会議平成 18 年度総会・研修会，瀬田南市民センター（滋賀県大津市），講師。
- 2006 年 6 月 24 日，各地のブラックバス事情～田子倉湖ではどうすべきか？～，福島県内水面漁業協同組合連合会平成 18 年度第 1 回外来魚駆除研修会，只見区民センター（福島県只見町），講師。
- 2006 年 7 月 1 日，解剖と調理法の説明，小山市理科同好会「ブラックバスを食べる会」，小山市立梁小学校（栃木県小山市），講師補助。
- 2006 年 7 月 12 日，外来生物とのつきあい方，外来生物とのかしこいつきあい方教室～外来生物を入れない・捨てない・拡げない～，岡山県，岡山衛生会館ホール（岡山県岡山市），講師。
- 2006 年 7 月 15 日，川での魚などの水生生物の採集と観察指導，桐生であそぼう，瀬田南青少年育成学区民会議，桐生キャンプ場（滋賀県大津市），講師。
- 2006 年 7 月 22 日，魚類の採集と観察・解説，平成 18 年度 Biyo センター自然観察会，（財）琵琶湖・淀川水質保全機構・国土交通省近畿地方整備局・滋賀県・（独）水資源機構関西支社，琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター（滋賀県草津市），講師。
- 2006 年 7 月 30 日，エリ漁と赤野井湾周辺の観察，第 3 回エリ漁体験，琵琶湖を戻す会，琵琶湖上（滋賀県守山市地先）。
- 2006 年 8 月 21 日，プランクトンと魚の観察，夏休み水源琵琶湖親子見学会，（財）大阪府水道サービス公社，琵琶湖博物館。
- 2006 年 8 月 24 日，外来生物の現状と課題，吹田市まちなか水族館講座「楽しく学ぼう！～水辺の生態系」，吹田市民会館（大阪府吹田市）。
- 2006 年 8 月 26 日，魚類の生息状況に関する解説，池の生き物救出大作戦：ブラックバスをつかまえよう！，豊田市自然観察の森，豊田市自然観察の森・上池（愛知県豊田市），講師。
- 2006 年 8 月 26 日，ブラックバス・ブルーギル問題を考える，豊田市自然観察の森のセミナー，豊田市自然観察の森ネイチャーセンター（愛知県豊田市），講師。
- 2006 年 9 月 4 日，身近な生きものとのつきあい方～外来生物の問題から見えてくること～，大津市生涯学習センターボランティア連絡協議会全体研修会，大津市生涯学習センター（滋賀県大津市），講師。
- 2006 年 9 月 15 日，琵琶湖の外来魚問題と対策の課題，近畿大学水産学科基礎実験 2，琵琶湖博物館，講師。
- 2006 年 10 月 4 日，琵琶湖・淀川水系の生物：とくに外来生物からみた現状，（財）琵琶湖・淀川水質保全機構研究会研修会，エル・おおさか（大阪市北区），講師。
- 2006 年 10 月 27 日，外来種問題のむずかしさ：地方行政の課題，小山市立博物館第 50 回企画展「外国からやってきた生き物たち～生き物のふるさと調べ～」記念講演会，小山市立博物館（栃木県小山市），講師。
- 2006 年 10 月 28 日，クワガタムシとブラックバス・・・外来種とのつきあい方，小山市立博物館第 50 回企画展「外国からやってきた生き物たち～生き物のふるさと調べ～」記念講演会，小山市立博物館（栃木県小山市），講師。
- 2006 年 11 月 19 日，魚の立場からみた生息地の現状，ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関するシンポジウム，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，琵琶湖博物館，パネリスト。
- 2006 年 11 月 28 日，日本の外来生物問題と琵琶湖の生態系に関する現状，琵琶湖に関する勉強会，共同通信大津支局，話題提供者。
- 2006 年 11 月 30 日，外来生物を取り巻く現状と課題，環境省自然保護官等研修，環境省環境調査研修所（埼玉県所沢市），講師。
- 2006 年 12 月 2 日，外来生物問題の考え方，飛騨インタープリターアカデミー，ひだきよみ自然館（岐阜県高山市），講師。

2006 年 12 月 3 日、外来魚試食会の講評，犬山市里山学研究センター外来魚試食会，犬山市里山学研究センター（愛知県犬山市）。

2007 年 3 月 1 日，なぜ外来魚の防除に取り組むのか？，環境学習，薩摩川内市立祁答院中学校（鹿児島県薩摩川内市），講師。

視察対応

2006 年 4 月 18 日，はしかけ等ボランティア制度に関する視察，三重県立博物館学。

2006 年 6 月 16 日，琵琶湖の淡水貝類に関する助言と湖岸視察，ロシア科学アカデミー研究者、滋賀県立大学。

2006 年 6 月 19 日，外来生物関連企画展相談および常設展示の視察，小山市博物館。

2006 年 6 月 19 日，琵琶湖の淡水貝類の資料収集，ロシア科学アカデミー研究者，琵琶湖岸（守山市木浜）。

2006 年 7 月 10 日，外来魚問題に関する取り組み状況，青木湖漁協。

2006 年 8 月 4 日，琵琶湖博物館のボランティア活動に関する取材，立命館大学ボランティアセンター。

2006 年 9 月 10 日，琵琶湖の生態系の現状および博物館活動に関する視察，ハンガリー国立バラトン湖湖沼研究所。

2006 年 9 月 27 日，環境保全に関する取り組みと博物館展示の見学，大村市視察団。

2006 年 11 月 13 日，カワヒバリガイの生態・被害に関する質問，電力中央研究所。

メディアへの協力

2006 年 4 月 24 日，日本テレビ（関東ローカル），NNN News リアルタイム：憤激！奇妙な貝に襲われた街，カワヒバリガイの生態的特徴に関するコメント，（2006 年 3 月 26 日取材）。

2006 年 4 月 30 日，テレビ朝日系，素敵な宇宙船地球号：外来魚は警告する Vol.1～巨大魚が食べ尽くした湖～，アフリカ・ヴィクトリア湖のナイルパーチ問題に関する情報提供、琵琶湖博物館でのバス料理取材協力，（2006 年 1 月取材）。

2006 年 5 月号，ナショナルジオグラフィック日本版：ミュージアム情報，（2006 年 3 月 21 日取材）。

2006 年 5 月 7 日，テレビ朝日系，素敵な宇宙船地球号：外来魚は警告する Vol.2～謎の巨大魚の逆襲～，観賞魚の遺棄問題に関する取材協力、監修，（2006 年 1 月取材）。

2006 年 5 月 13 日，京都新聞，カミツキガメでかつ～ 高島の琵琶湖で 県内の最大級捕獲，捕獲個体の同定とコメント，（2006 年 5 月 12 日取材）。

2006 年 5 月 22 日，産経新聞，外来魚阻止へ秘策 速い流れと「せき」苦手 琵琶湖河川事務所が調査，調査結果に関する評価，（2006 年 5 月 22 日取材）。

2006 年 6 月 9 日，ブラックバス問題に関する解説，（2006 年 5 月取材）。

2006 年 6 月，京都新聞，ワニガメ。

2006 年 6 月 20 日，朝日新聞・滋賀版，7・2 投票知事選：琵琶湖の環境どう改善／昨年の漁獲量、過去最低／ヨシ帯再生に取り組み・「検証に欠ける」指摘も，琵琶湖魚類群集の現状に関する課題。

2006 年 6 月 23 日，NHK ラジオ第一放送，ニュース解説：外来生物法施行 1 年，外来生物法施行の影響と今後の課題に関する助言，（2006 年 6 月 22 日取材）。

2006 年 6 月 23 日，NHK 総合テレビ，時論公論：外来生物法施行 1 年，外来生物法施行の影響と今後の課題に関する助言，（2006 年 6 月 22 日取材）。

2006 年 7 月 5 日，KBS 京都ラジオ，はしかけ制度の紹介と登録講座の案内，（生出演）。

2006 年 8 月 3 日，京都新聞，ブルーギル一網打尽，琵琶湖における研究活動の紹介，（2006 年 7 月 27 日取材）。

2006 年 8 月 11 日，The Asahi Shinbun, Ministry lets black bass operators off the hook，特定外来生物ブラックバス類を用いた釣り堀の問題点に関するコメント。

2006 年 8 月 28 日，京都新聞，琵琶湖からのメッセージ：外来魚対策／繁殖の抑制課題山積／稚魚駆除に新兵器も／成果は徐々に，環境省オオクチバス等防除モデル事業（琵琶湖）の進捗等に関するコメント。

2006 年 8 月 29 日，京都新聞，琵琶湖 外来魚駆除過去最高に／360 トン前年比 1.3 倍／水温低く 湖岸付近生息「捕

りやすく」、外来魚漁獲量が増えた原因に関するコメント。

2006 年 9 月 9 日，朝日新聞，びわこのうちそと：コクチバスの何が問題？ 河川など流水息も平気／水温 3～4 度でも活動／湖北の漁場荒らされる恐れ，コクチバスの生態的影響・リスクに関するコメント。

2006 年 9 月 16 日，朝日新聞，びわこのうちそと：オオクチバス・ブルーギル駆除量、過去最高ペース，外来魚漁獲量の増加の原因に関するコメント。

2006 年 10 月 8 日，京都新聞，ニュースセンサー：絶えぬ外来魚放流 琵琶湖：流通規制、飼育者の教育必要／引き取り制度確立も，ペット遺棄の問題に関するコメント。

2006 年 12 月 12 日，日本テレビ系，スッキリ！！，琵琶湖の外来魚による被害，琵琶湖における外来魚の影響に関するコメント，（2006 年 12 月 8 日取材）。

2006 年 12 月 19 日，京都新聞，外来魚の駆除方法探る／大津で検討会／湖北の産卵調査報告。」オオクチバス等防除モデル事業における人工産卵床を用いた調査結果に関するコメント，（2006 年 12 月 18 日取材）。

2007 年 1 月 9 日，毎日新聞，湖はどこへ 赤潮発生 30 年後の琵琶湖（4）：外来魚／生態系回復へ模索続く／駆除本格化で減少傾向，琵琶湖の外来魚駆除対策の経緯、現状と課題に関するコメント。

2007 年 3 月 1 日，南日本放送，MBC ニュース：蘭牟田池で外来魚の駆除と調査，環境省オオクチバス等防除モデル事業（蘭牟田池）に関するコメント，（2007 年 2 月 28 日取材）。

2007 年 3 月 1 日，KTS 鹿児島テレビ，KTS ニュース：蘭牟田池でオオクチバスの駆除，環境省オオクチバス等防除モデル事業（蘭牟田池）に関するコメント，（2007 年 2 月 28 日取材）。

2007 年 3 月 2 日，西日本新聞，蘭牟田池の外来魚駆除へ／生徒が人工産卵床作製／薩摩川内市祁答院中で環境学習，人工産卵床を用いた外来魚の繁殖抑制方法に関するコメント，（2007 年 3 月 1 日取材）。

2007 年 3 月 2 日，南日本新聞，蘭牟田池に人工産卵床／環境省が月内設置／祁答院中で組み立て，人工産卵床を用いた外来魚の繁殖抑制方法に関するコメント，（2007 年 3 月 1 日取材）。

2007 年 3 月 10 日，びわこ放送，第 27 回全国豊かな海づくり大会びわ湖大会記念特別番組：豊かなる湖・琵琶湖～その現状と未来を考える～，スタジオゲスト，生出演。

2007 年 3 月 25 日，産経新聞，シリーズ環境新世代へ：救えベッコウトンボ：外来魚増殖で生息減少ー鹿児島・蘭牟田池，蘭牟田池の現状と外来魚防除事業に関するコメント，（2007 年 2 月 28 日、3 月 1 日取材）。

2007 年 3 月号，ポータル，こちら川の未来研究所・滋賀県立琵琶湖博物館：[Subject 6] 繁殖生態の特性を利用した駆除技術の開発 繁殖コロニーを作って集団で産卵する習性を持つブルーギルを効果的に捕獲する方法はあるか？，繁殖コロニーを単位としたブルーギル捕獲技術の開発に関する取材，（2007 年 2 月 25 日取材）。

【情報整備活動】

他博物館・機関の活動

滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」啓発用パンフレット、ポスター、リーフレットへの写真提供。

神戸市立王子動物園動物科学資料館，琵琶湖博物館企画展示「外来生物」関連ビデオ作品の利用，便宜供与，2006 年 7 月 21 日～11 月 30 日。

【資料整備活動】

他博物館・機関の活動

エヌエス環境（株），山形県産淡水貝類の同定依頼，

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006 年 3 月 21 日～4 月 9 日，ギャラリー展示「博物館を楽しもう～はしかけ・フィールドレポーター活動紹介」，担当。

2006 年 4 月，ディスカバリールーム，カタツムリのパペットに関する訂正名称等に関する助言。

2006 年 4 月，「集う・使う・創る」新空間，看板製作。

2006 年 4 月～6 月 18 日，ギャラリー展示「つかんだ・つんだ・いつもいた-あの生き物は、いま・・・？，副担当。

2006 年 12 月 23 日～2007 年 2 月 18 日，ギャラリー展示「企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年」，「古代湖の世界」「外来生物 つれてこられた生き物たち」，「はしかけ活動」のコーナー製作。

モーニングレクチャー，講演，3 回。

他博物館・機関の活動

小山市立博物館，2006 年 9 月～11 月，第 50 回企画展「外国からやってきた生き物たち～生き物のふるさと調べ～」への助言、資料提供、図録作成等の協力。

【企画調整活動】

新任職員研修，展示案内，C 展示室「琵琶湖の環境と変化」，2006 年 4 月 18 日。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2006 年 4 月 1 日～，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課副主幹（野生生物担当）を兼務。

【館外の活動】

1999 年 2 月～，（財）リバーフロント整備センター，河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会，底生動物スクリーニング・グループ委員。

1999 年 10 月～，（財）ダム水源地環境整備センター，河川水辺の国勢調査（ダム湖版）スクリーニング委員会，底生動物スクリーニング・グループ委員。

2003 年～，滋賀県，生き物総合調査委員会，魚貝類部会専門委員。

2003 年度～，環境省，絶滅のおそれのある野生動植物種の選定・評価検討会，陸・淡水産貝類分科会検討委員。

2003 年 5 月～，滋賀県，外来種問題検討委員会，検討委員および水生生態系部会員。

2004 年 8 月～，国土交通省琵琶湖河川事務所，河川保全利用委員会委員。

2004 年 10 月～，環境省，外来生物専門家グループ，無脊椎動物検討委員。

2004 年 10 月～，生物多様性ネットワーク新潟，顧問。

2006 年 4 月～2007 年 3 月，近畿農政局，平成 18 年度水土里の環境創造懇談会，委員。

2006 年度，作文審査員。

主任学芸員

研究部生態系研究担当
(兼) 事業部交流担当

湖と人間というテーマをもつ琵琶湖博物館にとって、自然環境と共存することが可能な社会組織や価値観の解明は重要な課題である。現代の琵琶湖とその集水域の農村に具体的なフィールドを設定し、そこにみられる自然－人間関係についての事例を分析することでテーマに迫ろうとしている。本年度は、博物館の総合研究、共同研究、ならびに様々なプロジェクトに参加し、大きく二つの領域での研究を行った。一つは、カワウ営巣による森林被害についての調査研究である。本年度は、森林保全についての社会史的な資料収集と聞き取りを行い、保全の仕組みを歴史的に把握することにつとめ、その経過について報告した。また、もう一つは湖沼保全という見地から関心の高い湖岸域の保全と利用に関する調査研究である。近隣研究機関および科学研究費等の共同研究プロジェクトに参加し、河川や水路、生活空間と隣接するヨシ帯などの対象について、自然と向き合う人々の社会組織や価値観の変化について聞き取り調査を行い、それらをまとめている。途中経過については、学会、研究会、NPO 主催のシンポジウムなどの様々な機会に報告するとともに、博物館主催行事や展示等の博物館事業にいかしている。

事業では、学芸員としての日常的業務の外に、兼務する交流センターの事業を中心に、総合研究の成果をとりまとめるための事業、さらに 10 周年記念事業に積極的に参加した。兼務である交流センター事業では、子ども向け機関誌「うみっこ」の取材、編集、発刊を行った。また、地域連携事業として、本年度、新たに近隣の美術館との共催事業を計画し、学芸員、「はしかけ」メンバーが行うワークショップについてのスケジュール管理や運営等についてのサポートを行なうとともに、下記の報告書を出版した。また、「はしかけ」についての登録講座、発表会、交流会等の行事についても副担当として企画に参加し行事等を行った。総合研究の成果のとりまとめについては、2007 年度の夏期に始まる企画展示の設計と展示製作、研究成果についての出版計画の立案、シンポジウム計画の立案などを行った。さらに、10 周年記念事業では、生態系研究担当の研究発表会、ならびに研究部、事業部の冊子に寄稿し、研究成果のレビューを行ない、司会、ポスター発表等によって行事にも参加した。

印刷物

【専門分野の著作】

藤村美穂・武田 淳・牧野厚史（2006）琵琶湖と有明海における水族資源の伝統的利用と変容（その 1）社会関係からみたヨシ帯。低平地研究, 15 : 43-46.

牧野厚史（2006）農山村の動植物をどうするのか。日本村落研究学会編むらの社会を研究する－フィールドからの発想, 農山漁村文化協会, 東京都 : 109-116.

牧野厚史（2006）記録と記憶－滋賀県・琵琶湖 湖辺農村写真の保存と利用－。人文地理, 4 (58) : 78.

【一般向けの著作】

牧野厚史（2006）実施にいたるまで経過。滋賀県立琵琶湖博物館・財団法人佐川美術館編, 博物館と美術館のワークショップ実施報告書-SAGAWA キッズミュージアム 2006-, 琵琶湖博物館 : 7-13.

牧野厚史（2006）博物館の中心となる人たち。滋賀県立琵琶湖博物館編, 企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年。琵琶湖博物館 : 44-45.

牧野厚史（2006）沿岸の利用とそれにまつわる諸問題。滋賀県立琵琶湖博物館研究部編, 滋賀県立琵琶湖博物館研究部 10 年の歩み, 琵琶湖博物館 : 70-75.

牧野厚史（2006）農村の人々による環境の利用と保全。滋賀県立琵琶湖博物館研究部編, 滋賀県立琵琶湖博物館研

究部 10 年の歩み, 琵琶湖博物館 : 82-88.

牧野厚史(編) (2006) うみっこ. (20), 琵琶湖博物館 : 4p.

牧野厚史(編) (2007) うみっこ. (21), 琵琶湖博物館 : 4p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

牧野厚史 (2006 年 4 月 15 日) 記録と記憶-滋賀県・琵琶湖 湖辺農村写真の保存と利用-. 人文地理学会第 257 例会 古写真で読み解く京都・滋賀・熊野, 人文地理学会, 同志社女子大学 (京都市), [口頭発表].

牧野厚史 (2006 年 6 月 24 日) 記録と記憶-記憶は博物館資料となりうるか-. 琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

牧野厚史 (2006 年 7 月 15 日) 現代農村におけるコイ科魚類の位置-専業農家と「ゆりかご構想」-. 総合研究「東アジア」研究発表会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

牧野厚史 (2006 年 8 月 17 日) 鳥獣被害問題; 社会学からのアプローチ 滋賀県竹生島カワウ問題における missed opportunity の検討. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

牧野厚史 (2006 年 9 月 8 日) 里中川の水利用文化-地域の水との社会的な距離を中心に. 平成 18 年度いきづく湖沼ふれあいモデル事業 (ふるさと水辺ウォッチング) 事前勉強会, NPO 法人びわこ豊穰の郷, NPO 法人びわこ豊穰の郷事務所 (守山市), [講師].

牧野厚史 (2006 年 10 月 29 日) 日本社会学会第 78 回大会 13 環境 (3). 日本社会学会, 立命館大学 (京都市), [部会司会].

牧野厚史 (2006 年 12 月 16 日) 農村の鳥獣被害をどうするのか?-カワウによる森林枯損と地域社会-. 第 11 回琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

牧野厚史 (2007 年 2 月 24 日) 今、なぜ里中川か?. 第 4 回川づくりフォーラム, NPO 法人びわこ豊穰の郷, 守山商工会議所 (守山市), [基調講演・まとめ].

牧野厚史 (2007 年 3 月 3 日) ヨシ帯保全にみる自然と人間との適度な関係. 滋賀大学研究フォーラム環境総合研究センター第 3 回年次シンポジウム, 滋賀大学環境総合研究センター, コラボ滋賀 21 (大津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

関西学院大学 21 世紀 COE プログラム『人類の幸福に資する社会調査』の研究「幸福のフィールドワーク-実存と実践の比較社会学的方法の確立をめざして-」(研究代表者: 古川 彰), 分担者 (2003~2008 年度).

滋賀大学総合環境研究所プロジェクト研究「水辺エコトーンにおける伝統的生業活動とコモنزの変容に関する研究」(研究代表者: 佐野静代), 分担者 (2005 年度~).

科学研究費基盤研究 (B)「半栽培 (半自然) と社会的しくみについての環境社会学的研究」(研究代表者: 宮内泰介), 分担者 (2005~2007 年度).

科学研究費基盤研究 (B)「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」(研究代表者: 水野章二), 分担者 (2006~2009 年度).

琵琶湖博物館共同研究「信仰を理由に保護されてきた森林の保全システムに関する社会史的研究-滋賀県竹生島森林における鳥獣害への対応を事例として-」(研究代表者: 牧野厚史), 代表者 (2006 年度).

琵琶湖博物館総合研究「水田地帯における水域ネットワークの構造と生物群集の関係性に関する研究」(研究代表者: 前畑政善), 分担者 (2006 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

環境社会学会, 環境社会学研究, 査読, 2 件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006 年 4 月～7 月，龍谷大学社会学部，「琵琶湖・滋賀学」.

2006 年 9 月～12 月，関西学院大学社会学部，「地域・生活・環境特論 A」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，14 件.

2006 年 5 月 13 日，JICA 研修生研修，Public Participation Concept of Exchange Activities at L.B.M..

2006 年 7 月 23・29・30 日・8 月 6 日，SAGAWA キッズミュージアム ワークショップ (1)・(2)・(3)・(4)，佐川美術館・琵琶湖博物館，佐川美術館・守山市，[運営]，4 件.

2006 年 8 月 5 日，博物館の交流事業，博物館実習，講師.

2006 年 10 月 15 日，湖辺～水、魚、そして人～. 琵琶湖博物館開館 10 周年記念企画展シンポジウム，琵琶湖博物館，[コーディネーター].

2006 年 12 月 16 日，第 11 回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[司会].

2007 年 3 月 25 日，はしかけ・フィールドレポーター活動紹介・交流会，琵琶湖博物館，[運営].

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 6 月 29 日，琵琶湖文化論実習，滋賀県立大学人間文化学部，琵琶湖博物館，解説.

2006 年 7 月 9 日，第 2 回近畿の環境団体情報交流会エコネット近畿，大阪市立市民学習センター（大阪市），コメントーター・パネラー.

2006 年 7 月 21 日，「琵琶湖探究」夏休み集中講義，人々の暮らしと琵琶湖-現場での発見から，滋賀県立石部高等学校，琵琶湖博物館，講師.

2006 年 9 月 25 日，草津市観光ボランティアガイド第 4 期養成講座，草津市観光物産協会，琵琶湖博物館，講師.

2006 年 11 月 10 日，視察研修，大野イトヨの会，琵琶湖博物館，講師.

2006 年 12 月 3 日，環境・ほっと・カフェ，今、地域のためになにができるか～施設の外の活動を考えてみよう～（滋賀県県民環境学習のつどい）. しが協働部活プロジェクト（滋賀県・滋賀県教育委員会），琵琶湖博物館，コメントーター.

視察対応

2006 年 10 月 2 日，ボランティア活用状況について，宮崎県総合博物館.

2007 年 2 月 15 日，琵琶湖博物館「はしかけ制度」等の調査について，富山市科学文化センター.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3 回.

展示更新，レプリカ作成，1 件.

ギャラリー展示，はしかけポスター製作，1 件.

使う、創る、集う 新空間，はしかけポスター製作，1 件.

【企画調整活動】

新任職員研修，交流事業について，2006 年 4 月 19 日，琵琶湖博物館。
学校への説明訪問，県内小・中学校，2 件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2005～2006 年度，早崎内湖再生委員会，委員。
2006 年度，水陸移行帯ワーキンググループ，委員。

主任学芸員

研究部生態系研究担当
(兼) 事業部展示担当

2006年度は2003年度から継続している魚群探知機を用いた南湖の沈水植物の分布状況のモニタリングを行った。機械に一部動作不良が見られたため厳密な議論はできないが、2006年度は南湖の沈水植物の平均群落高がこれまで以上に大きくなっており、依然として沈水植物は増加傾向にあった。

また、これまでの研究の成果を踏まえ、南湖の沈水植物の歴史的な消長に関する解析に着手した。解明すべき課題は、1) 南湖の沈水植物の基本的な姿はどのようなものか？（どのような景観が「正しい」姿か？）、2) 1960年代初頭に沈水植物が急減し、以後30年間衰退していたのはなぜか？、3) 1990年代前半に衰退していた沈水植物が増加に転じた理由は何か？、4) なぜ、現在の沈水植物の量は過去のどの時期よりも大きいのか？、の4点である。2006年は、このうち2および3の課題に取り組み、1980年代に沈水植物が衰退したままだったのは、富栄養化による透明度の低下が原因ではないこと、1994年の極端な水位低下はその後の沈水植物の増加の主要因ではないこと、などの結論を得た。これらの見解を学術雑誌に投稿し、現在はその評価を待っているところである。

印刷物

【学術論文】

芳賀裕樹・大塚泰介・松田征也・芦谷美奈子（2006）2002年夏の琵琶湖南湖における沈水植物の現存量と種組成の場所による違い．*陸水学雑誌*, 67, 日本陸水学会：69-79.

芳賀裕樹・芦谷美奈子・大塚泰介・松田征也・辻 彰洋・馬場浩一・沼畑里美・山根 猛（2006）琵琶湖南湖における湖底直上の溶存酸素濃度と沈水植物群落現存量の関係について．*陸水学雑誌*, 67, 日本陸水学会：23-27.

芳賀裕樹（2006）琵琶湖南湖の面積について．*陸水学雑誌*, 67, 日本陸水学会：123-126.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

芳賀裕樹（2006年5月19日）タテボシガイとセタシジミの貧酸素耐性．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

桧尾亮一・横田喜一郎・山崎秀夫・芳賀裕樹・西 勝也・稲垣直史・竺 文彦（2006年9月15日）大口径柱状型不攪乱採泥器の開発とその評価（琵琶湖底泥での事例）．第6回研究発表大会，環境技術学会，龍谷大学（滋賀県草津市），[口頭発表]．

芳賀裕樹・松田征也（2006年9月16日）琵琶湖産二枚貝セタシジミとタテボシガイの貧酸素耐性について．日本陸水学会第71回大会，日本陸水学会，愛媛大学（愛媛県松山市），[口頭発表]．

一瀬 諭・吉田美紀・岡本高弘・奥田一臣・荒木 眞・芳賀裕樹・堀家健司・青木 茂（2006年9月18日）琵琶湖沿岸帯のモデル水域におけるアオコ発生機構について．日本陸水学会第71回大会，日本陸水学会，愛媛大学（愛媛県松山市），[口頭発表]．

芳賀裕樹（2006年12月26日）南湖の水草は今・・・？．第11回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

芳賀裕樹（2007年2月28日）琵琶湖沿岸帯の現状とその評価．試験研究機関連絡会議ワークショップ，試験研究

機関連絡会議，琵琶湖・環境科学研究センター（滋賀県大津市），[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖南湖の沈水植物のモニタリング」，（2006 年度）．

滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター「琵琶湖南湖沿岸帯におけるカビ臭アオコ発生機構の検討」（研究代表者：一瀬 諭），研究分担者（2004 年 4 月～2007 年 3 月）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本陸水学会，陸水学雑誌，査読，1 件．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10 件．

2006 年 7 月 27 日～28 日，先生のための湖沼学基礎講座，琵琶湖博物館，講師，（中村公一・中野正俊・孝橋賢一共同）．

2004 年 8 月 7 日，ユニバーサルデザイン実習，博物館実習，琵琶湖博物館，講師，

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 6 月 24 日，琵琶湖の環境と人との関係-里山のくらし、今のくらし-，琵琶湖市民大学，琵琶湖市民大学連続学習会，琵琶湖博物館，講師．

2006 年 6 月 25 日，事前学習，滋賀県立びわ湖フローティングスクール，あつまれ「湖の子」たち！，琵琶湖博物館，講師，

2006 年 7 月 22 日，特別航海，滋賀県立びわ湖フローティングスクール，あつまれ「湖の子」たち！，琵琶湖博物館，講師，

2006 年 7 月 27 日，南湖で増加する水草と水質，長等公民館，淡海生涯学習カレッジ，琵琶湖博物館，講師，

2006 年 7 月 31 日，湖上実習，膳所高校，スーパーサイエンスハイスクール，琵琶湖北良沖（滋賀県），実習指導．

2006 年 8 月 23 日，あつまれ「湖の子」たち！，滋賀県立びわ湖フローティングスクール，琵琶湖博物館，講師，

2006 年 8 月 24 日，琵琶湖環境学習，滋賀県教育センター，授業力向上講座，みずすまし（調査船），湖上，講師，

2006 年 10 月 1 日，琵琶湖の魚と生態系，琵琶湖市民大学，琵琶湖市民大学連続学習会，琵琶湖博物館，講師．

2006 年 10 月 24 日，琵琶湖と淀川について，淀川区地域振興会，淀川区地域振興会，琵琶湖博物館，講師，

2006 年 2 月 18 日，琵琶湖とともに歩む近江の暮らし，琵琶湖市民大学，琵琶湖市民大学連続学習会，琵琶湖博物館，講師．

メディアへの協力

2007 年 1 月 7 日，毎日新聞，湖はどこへ 3：赤潮発生 30 年後の琵琶湖，情報提供．

2007 年 2 月 21 日，京都新聞，熱帯性水草、青々と「越冬」守山・琵琶湖畔の群生地で，コメント，（2007 年 2 月 19 日取材）．

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3 回．

【企画調整活動】

学校への説明訪問，県内小・中学校，5 件．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006 年 4 月～2007 年 3 月，滋賀県環境部下水道課，琵琶湖流域下水道懇話会，委員．

2006 年 9 月～2007 年 3 月，滋賀県環境部水政課，水草ワーキンググループ，グループ員．

主任学芸員**研究部生態系研究担当
（兼）事業部資料活用担当**

本年度の研究は、主として琵琶湖沿岸域におけるヨシ帯利用についての資料収集を中心に行った。これは、琵琶湖沿岸域における自然利用がどのように変遷してきたか、という点について明らかにするために進めてきた研究の一環である。

また、2003～2004 年度に共同研究者として参加した科学研究費補助金基盤研究（B）（1）「コモンズと高校生の社会学的研究」の研究成果をまとめ共著の単行本として出版した。

このほか、科学研究費補助金基盤研究（B）（1）「半栽培（半自然）と社会的仕組みについての環境社会学的研究」についても、共同研究者として、研究に参加した。

印刷物

【専門分野の著作】

矢野晋吾（2006）漁業権の正統性（レジティマシー）とその変化-コモンズの管理としての漁撈、宮内泰介（編）、コモンズをささえるしくみ レジティマシーの環境社会学、新曜社、東京：33-54.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金基盤研究（B）（1）「半栽培（半自然）と社会的仕組みについての環境社会学的研究」（研究代表者：宮内泰介）、共同研究者（2005～2007 年度）.

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖及び内湖湖岸における水辺利用に関する研究」、（2006 年）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本村落研究学会、研究委員、2002 年～.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006 年 12 月 13 日、追手門学院大学アジア文化学科、「水辺の暮らしとその生活世界」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】**他の博物館・機関等主催行事**

2006 年 4 月 8 日、琵琶湖博物館概要説明、追手門学院大学文学部アジア文化学科.

2006 年 7 月 18・25 日、「琵琶湖のナレズシ・鮎鮓とニゴロブナから見る近江、アジアの食文化」「パネルディスカッション・アジアを食らう」、追手門学院大学、おうてもん塾、毎日カルチャーセンター（大阪市）、講師・パネリスト、2 件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料活用担当，質問情報の公開に向けての内容整備に関すること．

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3回．

主任学芸員

研究部生態系研究担当
(兼) 事業部資料活用担当

内容および関与の程度が多岐にわたるため、自らが中心的な働きをした研究で、かつ本年度に結果が出てきた3課題のみについてその成果を記す。

①構造方程式モデリング (SEM) によって、DAIpo (付着珪藻群集に基づく有機汚濁指数) の水質指標としての特徴を解明した。琵琶湖に直接流入する農業幹線排水路で事例研究を行った。2005年11月と2006年5月に、水深30cmの場所に約1ヶ月設置した煉瓦の上から珪藻群落の試料を採集した。DAIpo の値は27.6-53.9の範囲にあり、多くの地点がβ-中腐水性であると判定された。SEMによって、DAIpo で指標される水質は複数の要因の総合であり、単一の水質項目には還元できないことが示された。高いNO₂-N およびPO₄-P 濃度、あるいは低い溶存酸素が、DAIpo を引き下げる要因になったのに対して、高い電気伝導度およびNO₃-N 濃度はDAIpo を引き下げなかったことが示された。5月に11月よりも有意に高いDAIpo が観測された。この結果は、従来の報告通り5月の降雨時に集中的な栄養塩負荷が起こっていたとしても、DAIpo には指標されなかったことを示している。

②愛媛大学米野々森林研究センター付近の石手川に生息する珪藻を調べた。2003年11月14日および2005年11月22日に、大礫及び中礫の表面から標本を採集した。珪藻の洗浄殻の永久プレパラートを光学顕微鏡により観察したところ、42属99種の珪藻が同定された。これに未同定の9種を含めたチェックリストを、光学顕微鏡写真とともに示した。

③滋賀県守山市の6枚の水田にニゴロブナ仔稚魚を放流し、その生残率と成長を調べた。ニゴロブナ仔稚魚の生残率は、22.3-90.8%と極めて高い値を示した。高密度放流区 (20匹/m²) の方が低密度放流区 (2匹/m²) よりも生残率がやや低い傾向が見られた。ニゴロブナ仔稚魚の初期成長は極めて速く、5日齢で体重あたり36-42%の日成長率を示し、32日齢では全長30mm、体重500mgを超える個体もあった。しかし成長速度は20-30日齢を境に急減し、このまま水田で生育した場合に予測される理論的最大サイズは全長で27-47mm、体重で0.3-2.3gに過ぎなかった。この結果は、中干し時にニゴロブナ稚魚を水田から強制的に追い出すことが、ニゴロブナの資源育成に有効であることを示唆する。

印刷物

【学術論文】

- Ohtsuka, T., Kudoh, S., Imura, S. and Ohtani, S. (2006) Diatoms composing benthic microbial mats in freshwater lakes of Skarvsnes ice-free area, East Antarctica. *Polar Bioscience*, 20, 国立極地研究所: 113-130.
- 芳賀裕樹・芦谷美奈子・大塚泰介・松田征也・辻 彰洋・馬場浩一・沼畑里美・山根 猛 (2006) 琵琶湖南湖における湖底直上の溶存酸素濃度と沈水植物群落現存量の関係について. *陸水学雑誌*, 67, 日本陸水学会: 23-27.
- 芳賀裕樹・大塚泰介・松田征也・芦谷美奈子 (2006) 2002年夏の琵琶湖南湖における沈水植物の現存量と種組成の場所による違い. *陸水学雑誌*, 67, 日本陸水学会: 69-79.
- Kobayashi, N., Ohtsuka, T. and Saigusa, M. (2006) Case studies on the seasonal changes of diatom community in paddy fields. *Journal of Integrated Field Science*, 3, 東北大学フィールド科学研究センター: 95-101.
- Nakano, S., Takeshita, A., Ohtsuka, T. and Nakai, D. (2006) Vertical profiles of current velocity and dissolved oxygen saturation in biofilms on artificial and natural substrates. *Limnology*, 7, 日本陸水学会: 213-218.
- Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Nishino, M., Wada, E., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin, V. G., Semernoy, V. P.,

Jankowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Y., Starobogatov, Y. I., Alexeev, V. R., Sitnikova, T. Y., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Nakai, K., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Takemon, Y., Tanida, K., Kusuoka, Y., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, S., Nagasawa, K., Ogawa, K. and Masunaga, K. (2006) Biodiversity of Lake Biwa : New discoveries and future potential. *Berliner Palaobiologische Abhandlungen*, 9 : 61.

【専門分野の著作】

石田末基・大塚泰介 (2006) 琵琶湖岸で確認された外来植物ミソハギダマシ (仮称) *Ludwigia glandulosa* Walter (アカバナ科). *Nature Study*, 52, 大阪市立自然史博物館友の会 : 150-151・160.

大塚泰介 (2006) 付着生物膜, 日本陸水学会(編), 陸水の辞典, 講談社サイエンティフィック, 東京 : 417.

Timoshikin, O. A. et al. (2006) Biodiversity of Lake Biwa, New discoveries and future potential. *Berliner Palobiologische Abhandlungen*, 9 : 61.

【一般向けの著作】

大塚泰介 (2006) 研究するはしかけ-たんさいぼうの会-. 高橋啓一・里口保文(編), *琵琶湖博物館研究部 10 年の歩み*, 琵琶湖博物館 : 101.

大塚泰介 (2007) どこでも博物館 石を漱ぎ流れに枕す. うみんど, (42), 琵琶湖博物館 : 7.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

下保敏和・大塚泰介・酒井 悟 (2006 年 7 月 10 日) 顕微鏡写真を用いた画像処理による珪藻同定のための基礎研究. 農業機械学会関東支部第 42 回年次大会, 農業機械学会関東支部, 朱鷺メッセ NICO プラザ (新潟市), [口頭発表].

藤田裕子・大塚泰介・小手川隆志 (2006 年 9 月 16 日) 珪藻群集の特徴を指標としたラオスの天水田と灌漑水田の環境比較. 日本陸水学会第 71 回大会, 日本陸水学会, 愛媛大学 (松山市), [口頭発表].

中井大介・大塚泰介・中原紘之・中野伸一 (2006 年 9 月 16 日) シルトによる濁りは付着藻類群集の構造にどのような影響を及ぼすか?-人工水路での検証-. 日本陸水学会第 71 回大会, 日本陸水学会, 愛媛大学 (松山市), [口頭発表].

大塚泰介・打越崇子・甲津久生 (2006 年 9 月 18 日) 農業排水路で DAIPo (付着珪藻群集に基づく有機汚濁指数) が指標する水質環境の統計学的検討. 日本陸水学会第 71 回大会, 日本陸水学会, 愛媛大学 (松山市), [口頭発表].

大塚泰介 (2007 年 3 月 16 日) ギャラリー展示「ミクロの世界を探検しよう-プランクトンの不思議-」が来場者のプランクトン観に及ぼした影響. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【インターネットページでの公表】

大塚泰介 (編・著) (2006 年 12 月 10 日) 珪藻電子図鑑 β2 版. <http://www.lbm.go.jp/ohtsuka/atlas/index.html>, 琵琶湖博物館.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「南極湖沼における珪藻群集の分布に関する研究」, (2006 年度).

琵琶湖博物館共同研究「珪藻電子図鑑の増補改良」(研究代表者：大塚泰介)，研究代表者 (2003 年度)。

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖の伝統的木造船「丸子船」の構造の研究ー操船性とも関連してー」(代表：牧野久実)，共同研究者 (2006 年度)。

琵琶湖博物館総合研究「水田における水域ネットワークの構造と生物群集の関係性に関する研究」(研究代表者：前畑政善)，副代表者 (2006 年 4 月ー2007 年 3 月)。

科学研究費補助金事業基盤研究 (C)「珪藻同定支援システムの開発」(研究代表者：大塚泰介)，研究代表者 (2006 年 4 月)。

科学研究費補助金事業基盤研究 (B)「河床生態系における微生物ループと生食連鎖とのリンク」(研究代表者：中野伸一)，研究分担者 (2004 年 4 月ー2007 年 3 月)。

科学研究費補助金事業基盤研究 (B)「魚類の数値データを用いた同定ツール作成の研究」(研究代表者：松浦啓一)，研究分担者 (2004 年 4 月ー2007 年 3 月)。

科学研究費補助金事業基盤研究 (C)「ラオスの水田における生態系変化の指標となる藻類相の特定」(研究代表者：藤田裕子)，研究分担者 (2005 年 4 月)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本珪藻学会，Diatom，編集委員，2003 年 4 月。

日本珪藻学会，Diatom，査読，1 件。

日本陸水学会，Limnology，査読，1 件。

日本藻類学会，Phycological Research，査読，1 件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006 年 10 月 23・30 日，滋賀県立大学大学院，「生物多様性論」(分担)。

2006 年 12 月 11 日，京都大学大学院農学研究科，「海洋環境微生物学特論」(分担)。

2006 年 4 月ー2007 年 3 月，中井大介 (京都大学農学研究科博士課程)，研究指導・助言。

2006 年 4 月ー2007 年 3 月，小林紀子 (東北大学農学研究科博士課程)，研究指導・助言。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10 件。

はしかけ運営，たんさいぼうの会，琵琶湖博物館，随時。

2006 年 8 月 7 日，琵琶湖博物館の資料整備事業等，博物館実習，琵琶湖博物館，講師，2 件。

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 7 月 25 日，プランクトンの採集と観察，滋賀県立石部高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 8 月 5 日，プランクトンと珪藻の観察，ホテルの学校，体験学習，琵琶湖博物館，講師，(荒井紀子氏共同)。

2005 年 8 月 24 日，プランクトンの採集と観察，滋賀県総合教育センター，SPP 事業研修会，琵琶湖博物館，講師。

2005 年 11 月 1 日，プランクトンの採集と観察，東京都立白鷗高等学校，校外実習，琵琶湖博物館，講師。

2005 年 11 月 16 日，プランクトンの採集と観察，滋賀県立米原高等学校，校外実習，琵琶湖博物館，講師。

メディアへの協力

2007 年 1 月 13 日，朝日新聞，ケイ藻図鑑 HP で公開，電話対応，（2007 年 1 月 11 日取材）．

2007 年 1 月 16 日，京都新聞，珪藻のユニークな姿 観察して、電子図鑑 HP で公開，説明，（2007 年 1 月 11 日取材）．

2007 年 2 月 15 日，京都新聞，漁具や造船道具…2500 点、ネットで民俗資料公開、データベース化，説明，（2007 年 2 月 14 日取材）．

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電子図鑑の公開，担当者．

データベースの公開，担当者，4 件．

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

映像資料の貸出，貸出責任者，3 点．

微小生物試料の寄贈受入，受入責任者，406 点．

図書・文献資料の寄贈受入，受入責任者，770 点．

動画資料の収集・整理，監督・指示．

微小生物試料の収集・整理，監督・指示．

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3 回．

【企画調整活動】

学校への説明訪問，県内小・中学校，3 件．

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館研究セミナー，担当，12 件，2006 年度．

琵琶湖博物館特別研究セミナー，連絡係，2006 年 7 月 26 日．

特別研究員，受入担当．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2006 年度，うみんど，編集委員．

【館外の活動】

2001 年 4 月ー，島根大学汽水域研究センター，協力研究員．

学芸技師

研究部生態系研究担当
(兼) 総務部企画調整課

琵琶湖のカイミジンコ 106 個のサンプルを収集し, 84 個はボートで収集を行った。これらのサンプルを処理しカイミジンコを採取した。現在, Horst Janz (ドイツ) とその分類に取り組んでいる。

Fabaeformiscandona についての論文—これを完成させ投稿し, 査読も終了し受理された。これは神谷隆宏教授 (金沢大学) との共同研究であり, 現在出版社で準備中である。

Antennule —これは Renate Matzke-Karasz (ミュンヘン, ドイツ) との Antennule の構造, 生態, Antennule 「器官」の機能についての現在進行中のプロジェクトである。私達は 2007 年のヨーロッパカイミジンコ会議 (フランクフルトで 9 月に開催予定) で成果を発表することを考えてデータを収集している。

国際湖沼学—Assysnt 湖 (スコットランド) のカイミジンコについての論文を, Ian Boomer (バーミンガム大学) と David Horne (クイーンマリーカレッジ, ロンドン大学) と共に完成させた。この論文は現在出版社で準備中である。

印刷物

【学術論文】

Smith, R. J., Kamiya, T. and Horne, D. J. (2006) Living males of the 'ancient' asexual Darwinulidae (Ostracoda, Crustacea). *Proceedings of the Royal Society, B*, 273 : 1569-1578.

Smith, R. J. and Kamiya, T. (2006) Six new species of fresh and brackish water ostracods (Crustacea) from Yakushima, Southern Japan. *Hydrobiologia*, 559 : 331-355.

【一般向けの著作】

スミス, ロビン・ジェームス (2007) とても小さな甲殻類 カイミジンコの繁殖の秘密. うみんど, (42) : 6.

スミス, ロビン・ジェームス (編) (2007) 要覧. 琵琶湖博物館 : 35p.

【インターネットページでの公表】

スミス, ロビン・ジェームス (2006 年 12 月 1 日) カイミジンコの研究, <http://www.lbm.go.jp/smith/jintro.html>, 琵琶湖博物館.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

スミス, ロビン・ジェームス (2006 年 4 月 21 日) Living males of the 'ancient asexual' Darwinulidae (Ostracoda; Crustacea). 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

スミス, ロビン・ジェームス (2006 年 12 月 16 日) 生物界の謎の一つを解明; 2 億年間メスだけだと考えられていた生物にオスを発見. 第 11 回琵琶湖博物館研究発表会, [ポスター発表].

【論文の査読】

Proceedings of the Royal Society, B, 1件.

Hydrobiologia, 3 件.

Journal of Micropalaeontology, 1 件.

Paleontological Research, 1 件.

Journal of Palaeontology, 1 件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

視察対応

2006 年 4 月 25 日, 館内案内, JICA 集団研修「持続的増養殖開発コース」.

2006 年 6 月 30 日, 館内案内, ミシガン州高校生.

2006 年 7 月 1 日, 館内案内, オーストラリアからの先生.

2006 年 9 月 13 日, 館内案内と講義, スタンフォード大学学生.

2007 年 3 月 23 日, 館内案内と講義, 京都アメリカ大学コンソーシアム.

メディアへの協力

京都新聞, 2006 年 4 月 13 日, カイミジンコに「オス」.

朝日新聞, 2006 年 4 月 13 日, 2 億年で初オスを発見.

産経新聞, 2006 年 4 月 14 日, カイミジンコオス発見.

朝日新聞, 2006 年 4 月 21 日, カイミジンコのオス発見で一石.

NHK テレビ, 2006 年 4 月 13 日, ニュース, 18 時から.

Yahoo! News, 2006 年 4 月 13 日, 世界の研究者探したオス発見＝カイミジンコ「メスだけ」－琵琶湖博物館など,
<http://headlines.yahoo.co.jp>.

BBC[英国放送協会] Wildlife Magazine, 2006 年 6 月 Sexless Reproduction, the Rarer Sex. Vol 24, number 6,
page 34.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館インターネットページ (英語版), 更新, 担当.

博物館が提供する学習の課題についても、この2～3年のテーマとして取り上げてきており、シンポジウムや学会発表などで、そのテーマでの発表を行ってきた。博物館から提供できる学習の内容は、博物館の利用者相に対して異なり、また利用者側の期待に対しても異なる。これまでは、このことを理解しないまま一律に博物館の学習活動について議論がされていたようであり、それを整理しながら、誰にどのような学習機会を準備するのか、ということ論じた。論文をまとめて、投稿する準備を行った。

そのほか博物館の運営や利用者団体などのかかわりなどについての文書なども適時書き、他館や新しく開館の準備をしている博物館などへのアドバイスなども行った。

博物館の事業では、展示関連の事業が多かった。新しい巡回展示として準備を行なっている日仏共同企画「ファールにまなぶ」展では4月に打ち合わせの会議に出席するためにパリに出張した。平成19年7月から北海道大学総合博物館からスタートする予定であり、5館とのワーキングの準備を行い、同時に琵琶湖博物館バージョンの展示準備も行なっている。

滋賀県で行われる「豊かな海作り大会」に関連した琵琶湖博物館のギャラリー展示のワーキングの委員として準備活動に当たり、そのほかに、5月の「つかんだ・つんだ・いつもいた」、10月の新空間のヨシ紙展、12月の「企画展示で振り返る琵琶湖博物館の10年」展などの展示づくりに取り組んだ。特に10周年記念の取り組みでは、展示会のほかに、利用団体の交流事業やヨシ笛コンサートの実施などを行った。

日常的には、各地からの見学の際の説明や視察の対応などを多く行ってきた。

印刷物

【学術論文】

布谷知夫（2006）身近な課題から始める環境教育．日本生態学会誌，2（56），日本生態学会：158-165．

広瀬裕二・布谷知夫（2006）環境教育「生態学会と初等中等教育との連携を目指して」総括論文．日本生態学会誌，2（56），日本生態学会：107-109．

【専門分野の著作】

布谷知夫・西垣 亨（2006）地域と博物館との協力で実現した小学生による伯母川調査（02-002J）．国際湿地シンポジウム報告書，国際湿地シンポジウム実行委員会：107-109．

布谷知夫（2006）展示室の役割．月刊みんぱく，5（30），国立民族学博物館：8-11．

布谷知夫（2006）辺材と心材の幅．AMS分析による成立期近世民家の年代判定，福武科学技術財団研究助成報告書：15-17．

布谷知夫（2006）琵琶湖博物館での環境教育．教育旅行，7（54），日本修学旅行協会：12-15．

布谷知夫（2006）市民参加による近畿地方におけるタンポポ調査．公益信託 TaKaRa ハーモニストファンド平成16年度研究活動，TaKaRa ハーモニストファンド：155-162

布谷知夫（2006）学びの場としての博物館．キャリアデザイン学会第3回研究大会・総会（2006年度）資料集キャリア研究の到達点と課題，キャリアデザイン学会：135

布谷知夫（2007）博物館現場での博物館学-琵琶湖博物館の評価に向けて-．第12回研究発表会「めざしたこと・できたこと・これからのこと」資料集，琵琶湖博物館：11-12．

- 布谷知夫 (2007) 展示室で体験できる学び. 「ともに見る、ともに学ぶ-利用者との『対話』から始まる展示プログラム〜ワークシートを中心に〜」報告書, 愛媛県立美術館: 151-154.
- 布谷知夫 (2006) 近畿地方におけるタンポポ属の在来種・外来種・雑種の分布調査. プロ・ナチュール・ファンズ第15期助成報告書, NACS-J 日本自然保護協会: 79-82.
- 布谷知夫 (2007) 琵琶湖博物館の民家展示「富江家」の使用樹種. びわ湖, 1 (60), 滋賀県建築士事務所協会: 12-19.
- 布谷知夫 (2006) お勧めするこの文献①経営運営・教育普及. 博物館研究, 11-12 (41): 5.
- 布谷知夫 (2007) 地域だれでも・どこでも博物館がめざすもの. マナビィ, 26 (1), 文部科学省生涯学習政策局: 14.
- 布谷知夫 (2007) 美術館と博物館の連携事業の目的. SAGAWA キッズミュージアム報告書: 2.
- 布谷知夫 (2007) 博物館側の目的. SAGAWA キッズミュージアム報告書: 4-6.

【一般向けの著作】

- 布谷知夫 (2006) 博物館ができるまで. 企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年, 琵琶湖博物館: 6-7.
- 布谷知夫 (2006) 「のびる・ひらく・ひろがる」植物が動くとき. 企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年, 琵琶湖博物館: 26-27.
- 布谷知夫 (2006) 里山生命の小宇宙. 企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年, 琵琶湖博物館: 4-5.
- 布谷知夫 (2006) 1996年〜1997年. 企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年, 琵琶湖博物館: 34-35.
- 布谷知夫 (2006) 外来生物-連れてこられた生き物たち. 企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年, 琵琶湖博物館: 24-25.
- 布谷知夫 (2006) 琵琶湖博物館における博物館学領域の研究史. 琵琶湖博物館研究部10年の歩み, 琵琶湖博物館: 102-104.
- 布谷知夫 (2006) 参加型調査に関する研究. 琵琶湖博物館研究部10年の歩み, 琵琶湖博物館: 104.
- 布谷知夫 (2006) 琵琶湖周辺の参加型手法による気象観測. 琵琶湖博物館研究部10年の歩み, 琵琶湖博物館: 104-105.
- 布谷知夫 (2006) 展示手法に関する研究. 琵琶湖博物館研究部10年の歩み, 琵琶湖博物館: 109-110.
- 布谷知夫 (2006) 博物館評価に関する研究. 琵琶湖博物館研究部10年の歩み, 琵琶湖博物館: 110.
- 布谷知夫 (2006) 琵琶湖博物館における博物館学研究の課題. 琵琶湖博物館研究部10年の歩み, 琵琶湖博物館: 111.
- 布谷知夫 (2006) 子どもたちが体験できる場を作ろう. 地域子ども教室推進事業近畿ブロックシンポジウム報告書, 地域子ども教室推進事業近畿ブロック実行委員会: 4-5.
- 布谷知夫 (2006) びわたんのワークショップ. 「びわたん」の自己紹介地域子ども教室推進事業 (文部科学省委託事業), 琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」: 2.
- 布谷知夫 (2006) ヨシによる水質浄化. 自然観察テーマ・70, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌, (72), NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会: 2-3.
- 布谷知夫 (2006) 図鑑を読んで植物を見分ける方法. 自然観察のテーマ・71, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌 (73), NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会: 2-3.
- 布谷知夫 (2006) 開館10周年を迎える琵琶湖博物館. 都道府県だより, 都道府県展望, 576, 全国知事会: 29.
- 布谷知夫 (2006) 堤防の上の木. 自然観察のテーマ・72, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌, 74, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会: 2-3.
- 布谷知夫 (2006) タネを遠くに運ぶために, 日本初等理科教育研究会 (編), 自然観察の視点16, 初等理科教育, 12 (40): 50-51.
- 布谷知夫 (2006) タケという植物. 自然観察のテーマ・73, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌, 75, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会: 2-3.
- 布谷知夫 (2006) 水のある景色っていいなあ. 湖のほとりから・1, 滋賀民報: 2006年11月5日.
- 布谷知夫 (2006) 楽しさは指標になりにくい. 湖のほとりから・2, 滋賀民報: 2006年11月12日.
- 布谷知夫 (2006) 現実の姿を知らなすぎる. 湖のほとりから・3, 滋賀民報: 2006年11月26日.

布谷知夫（2006）裏話「フナズシ盗難事件」．湖のほとりから・4，*滋賀民報*：2006年12月3日．

布谷知夫（2006）学芸員の環境観を生そのまま展示．湖のほとりから・5，*滋賀民報*：2006年12月10日．

布谷知夫（2006）一万分の一で我が家も確認．湖のほとりから・6，*滋賀民報*：2006年12月17日．

布谷知夫（2006）全国の博物館から注目の制度．湖のほとりから・7，*滋賀民報*：2006年12月24日．

布谷知夫（2007）なぜ富江家だったのか10周年を迎えた琵琶湖博物館．*びわ湖*，1（60），滋賀県建築士事務所協会：20-13．

布谷知夫（2006）モチノキの仲間の種子．自然観察のテーマ・74，*NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*，76，NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会：2-3．

安田利香・布谷知夫（2007）美術館と博物館のこれから．*SAGAWA キッズミュージアム報告書*，琵琶湖博物館：43-44．

布谷知夫（2007）ワークショップ「植物の形」．*SAGAWA キッズミュージアム報告書*，琵琶湖博物館：32-34．

布谷知夫（2007）タネみつけ．*体験プログラム集「びわたん」からの招待状*，琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」：46．

布谷知夫（2007）「びわたん」へのメッセージ．*体験プログラム集「びわたん」からの招待状*，琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」：3．

布谷知夫（2007）滋賀県立琵琶湖博物館の10周年．79，*月刊ミュゼ*：20-21．

布谷知夫（2007）琵琶湖疏水，*琵琶湖ハンドブック*：196．

布谷知夫（2007）分類ということ．自然観察のテーマ・75，*NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*，77，NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会：2-3．

石田末基・中井大介・布谷知夫（2007）滋賀県守山市に帰化したヒサウチソウ．*NatureStudy*，3（53），大阪市立自然史博物館友の会：2．

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

布谷知夫（2006年5月11日）地域博物館論．博物館職員講習，文部科学省，社会教育研究所政策研修センター（東京），[口頭発表]．

布谷知夫（2006年6月24日）博物館資料とは何か．琵琶湖博物館研究報告会，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

布谷知夫（2006年6月24日）博物館資料の新しい利用．琵琶湖博物館研究報告会，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

布谷知夫（2006年10月27日）琵琶湖博物館とキャリアデザイン．日本キャリアデザイン学会研究大会エクスカッション，日本キャリアデザイン学会，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

布谷知夫（2006年10月28日）博物館の学習機能．日本キャリアデザイン学会第3回研究大会博物館と市民のキャリア形成部会，日本キャリアデザイン学会，立命館大学（京都市），[口頭発表]．

布谷知夫（2006年11月13日）琵琶湖のほとりに暮らすということ．立命館大学草津論，立命館大学（草津市），[口頭発表]．

布谷知夫（2006年12月16日）博物館展示におけるエバリュエーションの試み．展示室におけるコミュニケーション研究会，国立歴史民俗博物館（千葉県），[口頭発表]．

布谷知夫（2006年1月12日～14日）展示見学補助具のあり方．展示室におけるコミュニケーション研究会，韓国ソウル市内（国立民俗博物館、国立中央博物館、リーム），[口頭発表]．

布谷知夫（2006年1月20日）博物館現場での博物館学．第12回琵琶湖博物館研究報告会，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

国立歴史民俗博物館共同研究「展示室におけるコミュニケーション・デザイン研究会」（研究代表者：佐藤優香），

共同研究者（2006 年度～2009 年度）.

国立民族学博物館「博物館のネットワーク研究会」（研究代表者：川口），共同研究者（2005 年度～2008 年度）.

文部科学省科学研究費「半栽培（半自然）と社会的しくみについての環境社会学的研究」（研究代表者：宮内泰介），
分担者（2005 年～2007 年）.

文部科学省科学研究費「中近世建築遺構の放射性炭素を用いた年代判定」（研究代表者：中尾七重），分担者（2006
年度～2008 年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

全日本博物館学会，博物館学雑誌，論文査読，2 件.

関西自然保護機構，関西自然保護機構会誌，論文査読，1 件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006 年 12 月 25 日，滋賀県立大学集中講義，「博物館学各論 A」.

2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，北村美香（京都橘大学大学院文化政策学科），[博物館におけるマーケティング].

2006 年 10 月，職場体験，野洲北中学校，学生 1 名.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアートーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10 件.

2006 年 4 月 30 日，カタクリの花の観察会（はしかけ植物観察会），マキノ町ピックランド周辺（高島市），講師.

2006 年 5 月 28 日，エドヒガン調査へのコメント，フィールドレポーター交流会，琵琶湖博物館.

2006 年 8 月 5 日，夏の観察会（はしかけ植物観察会），余呉町，講師.

2006 年 7 月 9 日，伯母 Q 五郎「伯母川探検」，草津市.

2006 年 7 月 23 日，夏休み自由研究講座（植物），生活実験工房，講師.

2006 年 10 月 14 日，おばたん「タネみつけ」，生活実験工房，講師.

2006 年 11 月 19 日，秋の植物観察会．花緑公園，講師.

2006 年 11 月 25 日，里山の観察会，比良（大津市），講師.

2007 年 2 月 11 日，冬の植物観察会，比良（大津市），講師.

2006 年 4 月 27・28 日，企画展示の考え方、植物企画展示「のびる・ひらく・ひろがる」の展示意図と経過、展示
評価の経過と実際，国立民族学博物館・琵琶湖博物館・JICA，JICA 博物館集中コース，琵琶湖博物館会議室、
講師.

2006 年 8 月 1・7 日，「現在の博物館が目指すもの」「博物館資料について」「なぜたくさんの資料を集めるのか（植
物の場合）」，博物館実習，琵琶湖博物館，講師，3 件.

2006 年 8 月 6 日，植物の形，佐川キッズミュージアム，佐川美術館・琵琶湖博物館，佐川美術館（守山市），講師.

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 4 月 1 日，ヨシについて（ヨシ笛作り体験），高島屋京都店，夏休み子ども体験教室，琵琶湖博物館，講師.

2006 年 5 月 25 日，琵琶湖の環境，大阪市住吉区地域振興協議会，琵琶湖学集会，琵琶湖博物館，講師.

2006 年 5 月 28 日，琵琶湖と淀川流域の水利用，長森南中学校，琵琶湖水学習，琵琶湖博物館，講師.

2006 年 6 月 11 日，地域での活動，自然観察指導員大阪連絡会，緑地公園見学会，大阪服部緑地運動公園，講師.

2006 年 6 月 24 日，琵琶湖博物館の展示，京都橘大学文化政策学科，京都女子大学博物館学見学実習，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 7 月 2 日，自然保護につながる自然観察，インストラクター養成講座，大阪自然環境保全協会，牧岡公園（奈良市），講師。

2006 年 7 月 12 日，ヨシとはどういう植物，NPO 法人シニア自然大学，琵琶湖研修会，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 7 月 13 日，琵琶湖の水環境を巡って，彦根東高校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 7 月 14 日，琵琶湖の水環境政策と博物館，2006 釜山日本海外先進河川研修段，釜山市民河川守り運動本部，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 7 月 24 日，博物館の作られ方，滋賀県立石部高校，滋賀県立石部高校琵琶湖探求 2006（夏季集中講座），琵琶湖博物館，講師。

2006 年 7 月 26 日，琵琶湖博物館の舞台裏，湖南省教育研究所，湖南省教育研究所研修，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 7 月 28 日，昆虫と植物と恋愛—今森光彦・布谷知夫・増田スライドトーク，全国こども昆虫キャンプ特別講演会，こども昆虫キャンプ実行委員会，マキノ高原体育館（高島市），対談。

2006 年 7 月 29，昆虫標本つくりとこれから，全国こども昆虫キャンプ，こども昆虫キャンプ実行委員会，マキノ高原（高島市），講師。

2006 年 8 月 2 日，琵琶湖博物館の概要と理念，関西大学博物館学見学実習，関西大学，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 8 月 2 日，琵琶湖博物館の概要と理念，追手前大学博物館学見学実習，追手前大学，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 8 月 22 日，琵琶湖博物館と環境の課題，神戸市生涯学習科，神戸シルバーカレッジ生活環境コース，神戸市，講師。

2006 年 8 月 24 日，琵琶湖博物館と環境，全国中学校理科教員 OB 会，全国中学校理科教員 OB 会研修会，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 8 月 27 日，博物館では何ができる，My ライフ My くさつ講座，草津市生涯学習センター，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 9 月 15 日，琵琶湖と環境，近畿用語学校校長会，近畿養護学校校長会総会，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 9 月 15 日，琵琶湖博物館の概要と展示，明治学院大学，社会教育施設来館者調査，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 9 月 16・17 日，明治学院大学館内アンケート調査，明治学院大学，社会教育施設来館者調査，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 9 月 20 日，琵琶湖博物館の概要，桃山学院大学，桃山学院大学博物館見学実習，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 9 月 20 日，琵琶湖博物館と環境，精華大学，精華大学博物館見学実習，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 10 月 9 日，琵琶湖博物館を利用する人，MIHOMUSEUM，教育ボランティア研修会，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 10 月 15 日，滋賀県の絶滅危惧植物，日本植物画倶楽部，日本植物画倶楽部琵琶湖研修会，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 10 月 27 日，琵琶湖と生物—琵琶湖博物館が目指したもの，全国教頭会近畿地区連絡協議会，全国教頭会近畿地区連絡協議会総会，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 11 月 2 日，ボランティアって何だろう，まちセンいろは講座，草津市立まちづくりセンター運営委員会，草津市まちづくりセンター，講師。

2006 年 11 月 7 日，琵琶湖博物館の概要，吹田市猪の子谷コミュニティー協議会，琵琶湖研修会，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 11 月 8 日，地域の環境に目を向ける博物館の活動，大垣市立南中学校，生活の中の水学習，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 11 月 10 日～12 日，自然の観察，自然観察指導員講習会，NACS-J 日本自然保護協会，大阪府服部緑地ユースホステル，講師。

2006 年 11 月 21 日，台所の植物学，米原市中学校理科教育研究会，理科教員研修，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 12 月 9 日，琵琶湖博物館の展示，立命館大学経済学部国際経済学科，博物館見学実習，琵琶湖博物館，講

師.

2006 年 2 月 10 日, 琵琶湖博物館の概要, サイパン島青少年訪日団, サイパン島青少年訪日団, 琵琶湖博物館, 講師.

2007 年 2 月 23 日, 琵琶湖周辺の水利用, 自然大学そら組, 自然大学研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2006 年 4 月 2 日, 琵琶湖博物館の建築, 岡設計.

2006 年 4 月 11 日, 滋賀県副知事.

2006 年 4 月 11 日, 監査委員.

2006 年 5 月 13 日, 琵琶湖博物館の展示紹介, 関西学院大学文学部地理学地域文化学教室.

2006 年 5 月 17 日, 環境省水・大気環境局長.

2006 年 5 月 20 日, 滋賀県人会東京支部.

2006 年 6 月 18 日, 明治学院大学.

2006 年 6 月 27 日, 杭州市湿地公園保全、立法視察団.

2006 年 6 月 29 日, 愛知県大府市教育委員会.

2006 年 7 月 3 日, 福岡市立歴史博物館.

2006 年 7 月 11 日, 秋田県知事.

2006 年 8 月 11 日, 生命の星地球博物館.

2006 年 8 月 9 日, 北方少年少女派遣事業.

2006 年 8 月 18 日, 旭山市市会議員.

2006 年 8 月 19 日, 平塚市美術館.

2006 年 8 月 25 日, 三重県建築家協会.

2006 年 8 月 27 日, 奈良女子大学博物館學受講学生.

2006 年 9 月 2 日, 新潟県立環境と人間のふれあい館 (新潟水俣病資料館).

2006 年 9 月 10 日, 日本科学未来館.

2006 年 9 月 12 日, 日本スクリーン.

2006 年 10 月 7 日, 北海道東北地域経済総合研究所.

2006 年 10 月 13 日, 大韓民国慶尚南道環境・文化チーム.

2006 年 10 月 15 日, 自然環境研究センター.

2006 年 11 月 7 日, 釧路湿原国立公園連絡協議会.

2006 年 11 月 8 日, モンゴル子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト.

2006 年 11 月 15 日, 掛川市市議会議員団.

2006 年 12 月 19 日, 長崎大学環境科学部.

2006 年 12 月 20 日, 北陸経済研究所.

2007 年 1 月 10 日, みのかも文化の森.

2007 年 1 月 18 日, 沖縄県南風原町立南風原文化センター.

2007 年 1 月 21 日, 韓国サンチョン郡文化観光課.

2007 年 1 月 25 日, JR 東日本パーソナルサービス.

2007 年 2 月 8 日, 千葉県立中央博物館.

2007 年 2 月 10 日, ソウル市環境委員会.

2007 年 2 月 15 日, 米子市市会議員.

2007 年 2 月 20 日, 足立区立博物館.

2007 年 2 月 28 日, 愛媛県立総合科学館.

2007 年 3 月 22 日, 福島県立博物館.

メディアへの協力

2006年5月5日, 中日新聞, ギャラリー展示「つかんだ・つんだ・いつもいた」, (2006年5月5日取材).

2006年10月, 韓国MBC, 特集ドキュメント「漢江アップグレード・プロジェクト」, 展示室で琵琶湖博物館について, (2006年9月27日取材).

2006年10月29日, 読売テレビ, ウォーターレタス(ボタンウキクサ)の現状について, (2006年10月29日取材).

2006年11月27日, NHK 大津, 10周年を迎えた琵琶湖博物館, 琵琶湖クローズアップ, 出演.

2007年1月25日, ミュゼ, 10周年を迎えた琵琶湖博物館, (2006年12月9日取材).

2007年1月3日, 10周年と広報, 京都新聞, (2006年12月20日取材).

2007年2月28日, NHK 大津, 琵琶湖博物館の質問コーナー, 出演.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006年4月29日～6月18日, ギャラリー展示「つかんだ・つんだ・いつもいた」, 副担当.

2006年10月17日～10月29日, 新空間「琵琶湖と鶴殿のヨシ紙」展示, 主担当.

2006年10月21日～10月22日, 10周年記念交流事業, 主担当.

2006年12月23日～2007年2月18日, ギャラリー展示「企画展示でふりかえる琵琶湖博物館の10年」, 副担当.

2007年1月3日～1月14日, トピック展示「新年展示イノシシ」, 協力者.

2006年4月1日～2007年3月31日, 「ファールブルにまなぶ展」企画運営委員会, 副委員長.

2006年4月1日～2007年3月31日, 「琵琶湖の漁業と環境」展示ワーキング委員会, 委員.
モーニングレクチャー, 講演, 3回.

展示交流員と話そう, 内容指導, 4件.

【企画調整活動】

新任職員研修、博物館の概要と事業内容, 2006年4月12日, 講師.

ヨシ笛コンサート実施, 2006年10月21日, 企画・調整.

湖人館長対談(小菅正夫氏), 2006年9月, 企画・司会.

JICA 博物館集中コース受け入れ, 担当者, 2006年4月26日～4月28日, 5月10日～5月13日, 7月10日～7月14日.

【研究部関連事業】

研究部代表者会議, 委員, 2006年4月1日～2007年3月31日.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2006年度, 広報経営戦略会議, 委員長.

【海外渡航】

2006年4月17日～22日, フランス(パリ), ファールブル展関連会議出席.

2007年1月11日～13日, 大韓民国(ソウル), 韓国国立中央博物館での研究会出席.

【館外の活動】

2006 年 5 月 10 日～2007 年 3 月 31 日，人間文化研究機構国立歴史民俗博物館，共同研究員。
2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，人間文化研究機構国立民族学博物館，共同研究員。
2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，国立民族学博物館展示評価委員会，委員。
2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，兵庫県立考古博物館設立準備委員会，委員。
2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，日本博物館協会常務委員会委員，e-mail 委員。
2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，琵琶湖小北地域ヨシ原群落自然再生協議会、委員。
2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，琵琶湖流域水ビジョン策定小委員会，委員。
2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，野洲川歴史公園田園空間博物館運営協議会委員，委員。
2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，天然記念物和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会，委員長代理。
2006 年 11 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，JICA 博物館集中コース企画委員会委員，委員。
2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，琵琶湖小百科事典企画編集委員会，委員。
2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，ミュージアムと学校との連携事業研究会，委員。
2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，滋賀県生き物総合調査委員会，植物部会会長。
2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，滋賀県棚田等保全検討委員会，委員。
2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，関西自然保護機構，理事。
2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日，日本自然保護協会自然観察指導員講習会，講師。

Starting in April of 2006 I led a new comprehensive research project on taxonomic and phylogenetic exploration of Lake Biwa and surrounding waters. This involved administration as well as participation in various field surveys aboard ship, but provided little material for my own research. Accordingly, this past year I concentrated more on preparation of publications (alone, or with up to three co-authors) than on new original research.

Works newly submitted or revised for resubmission pertained to three subjects:

I) Parasitology - 1) a faunistic report on Acanthocephala parasitizing Lake Biwa area fishes; 2) an evaluation of certain parasites as potential markers for stocked “ayu” of Lake Biwa origin throughout Japan

II) Biology of large branchiopod crustaceans - 1) a summary of evidence for regional faunal replacement of one kind of tadpole shrimp or clam shrimp with another in Japan; 2) a list of species included in Japanese “Red Data Books” and their reported conservation status.

III) Taxonomy and larval development of marine crustaceans - 1) a largely SEM-based description of a new genus of monstrilloid copepods; 2) an SEM-based description of the bivalved larval stages of the ascothoracidan genus *Dendrogaster*; 3) an SEM-based description of a new species of Facetotecta (“cypris y”); 4) a report on the discovery, by artificial inducement of molting, of the slug-like “ypsigon” stage following the planktonic “cypris y” stage in the Facetotecta.

My original research was largely confined to the identification of collections of large brachiopods made in Nara and Osaka Prefectures in 2006 for “Project Y” at the Osaka Museum of Natural History, and the preparation of SEM photo plates for two other planned papers on the morphology of Ascothoracida. In August I was elected to the International Commission on Zoological Nomenclature.

今年度は、総合研究「分類学」の研究代表者として、琵琶湖のフィールド調査への参加や事務的活動が行ったが、自分の研究活動より共著者との論文の執筆の方が多かった。新しく投稿した原稿と校正再投稿した原稿は、下記の分野である：

I) 寄生虫学：琵琶湖とその集水域の魚類に寄生する頭鉤虫相および琵琶湖産の全国に放流されるアユのマーカーとして使用される寄生虫に関する定義

II) 大型鰓脚類（甲殻類）の生物学：日本の地域で起ったと考えられるカブトエビまたはカイエビの種の入替わりの証拠のまとめおよび各県の「レッドデータブック」で登録された種類とその保全カテゴリーのリストの作成

III) 海洋甲殻類の分類学と幼生発生学（操作電子顕微鏡による記載が多い）：カイアシ類モンストリラ目の新属の記載論文、囊胸類シダムシ属の二枚殻を持つ幼生の記載、彫甲類のキプリス Y 幼生の新種の記載、そして人工的に脱皮させたキプリス Y のあとの段階（イプシゴン幼体）の発見に関する論文

自分の研究では、大阪市立自然史博物館第 35 回特別展の協力者として、2006 年に奈良県・大阪府で採集された大形鰓脚類を同定した。また、囊胸類の形態学に関する論文の原稿 2 件のための写真プレートを製作した。日本動物分類学会特別功労賞を 6 月に授賞し、8 月に動物命名法国際審議会の委員に任命された。

印刷物

【学術論文】

Obregón-Barboza, H. , Maeda-Martínez, A. M. , Murugan, G. , Timms, B. V. , Grygier, M. J. , Rogers, D. C. , Rodríguez-Almaraz, G. and Dumont, H. J. (2007) Morphology and systematic significance of the mystax, a hitherto undescribed cephalic structure of males in certain Notostraca (Branchiopoda). *Journal of Crustacean Biology*, 27 (1) : 18-23.

【専門分野の著作】

Grygier, M. J. , Yamanishi, Y. and “Project Y” Survey Team (2006) Suspected regional species replacement of large branchiopods in Japanese rice paddies. *Anostracan News*, 12 (2) : 1-3.

Grygier, M. J. (2006) Status of large branchiopods in Red Data Books issued by Japanese prefectural governments. *Anostracan News*, 12 (2) : 4.

マーク J グライガー・西野麻知子 (2006) ヒメカイエビ属の一種. 滋賀県生きもの総合調査委員会編, 滋賀県大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2005 年版, サンライズ出版, 彦根 : 538.

Timoshkin, O. A. , Grygier, M. J. , Nishino, M. , Wada, E. , Genkal, S. I. , Biserov, V. I. , Gagarin, V. G. , Semernoy, V. P. , Jankowski, A. W. , Stepanjants, S. D. , Tsalolikhin, S. Y. , Starobogatov, Y. I. , Alexeev, V. R. , Sitnikova, T. Y. , Tuzovskij, P. V. , Okuneva, G. L. , Sheveleva, N. G. , Pomazkova, G. I. , Arov, I. V. , Mazepova, G. F. , Janz, H. , Obolkina, L. A. , Chernyshev, A. V. , Morino, H. , Nakai, K. , Matsuda, M. , Ohtsuka, T. , Kawakatsu, M. , Maehata, M. , Masuda, Y. , Takemon, Y. , Tanida, K. , Kusuoka, Y. , Yahiro, K. , Hirasawa, R. , Tuji, A. , Kameda, K. , Ishida, T. , Itoh, T. , Ichise, S. , Wakabayashi, T. , Okubo, I. , Seki, S. , Nagasawa, K. , Ogawa, K. and Masunaga, K. (2006) Biodiversity of Lake Biwa : New discoveries and future potential. *Berliner Palaobiologische Abhandlungen*, 9 : 61.

【一般向けの著作】

楠岡 泰・マーク J グライガー (2006) はしかけによる「田んぼの生きもの調査」マニュアル. 琵琶湖博物館, 草津 : 4p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表など】

マーク J グライガー・山西良平・大和川水域調査グループ・プロジェクトY (2006年11月17日) Suspected regional replacement of large branchiopods in Japanese rice paddies. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

嶋津 武・平澤理世・Mark J. Grygier (2006年12月16日) 琵琶湖産魚類に寄生する吸虫および線虫の宿主・寄生虫関係. 第11回琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

Omar M. Amin・Mark J. Grygier・長澤和也 (2006年12月16日) 琵琶湖とその集水域における魚類に寄生する鉤頭虫相と Quadrigyridae 科の日本初記録 *Acanthosentis* 亜属の2新種について. 第11回琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

マーク J グライガー (2007年1月20日) 博物館学の考え方、活動の紹介、比較と評価. 第12回琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【インターネットページでの公表】

Grygier, M. J. (2006) Commissioners. Dr. Mark J. Grygier. http://www.iczn.org/Commissioners_Grygier.html, Internatipnal Commission on Zoological Nomenclature.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」（研究代表者：マーク J グライガー），研究代表者（2006～2010 年度）。

琵琶湖博物館総合研究「水田における水域ネットワークの構造と生物群集の関係性に関する研究」（研究代表者：前畑政善），研究協力者（2006 年度）。

琵琶湖博物館専門研究「鰓脚類と顎脚類（甲殻類）の分類学や固体発生学に関する研究」，（2005～2006 年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

The Crustacean Society, Journal of Crustacean Biology. Associate Editor, 査読, 7 件。

日本動物分類学会, Species Diversity, Editorial Consultant.

日本ベントス学会, Japanese Journal of Benthology (日本ベントス学会誌), 編集委員 (English editor).

日本付着生物学会, Sessile Organisms, 編集委員 (English editor).

Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, Zoosystematica Rossica, International Advisory Board.

日本動物学会, Zoological Science, 査読, 1 件。

Large Branchiopod Working Group, Anostracan News, 査読, 1 件。

Gesellschaft für Biologische Systematik, Organisms Diversity & Evolution, 査読, 1 件。

Journal of Zoological Systematics and Evolutionary Research, 査読, 1 件。

【受賞など】

日本動物分類学会特別功労賞, 2006 年 6 月 3 日。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 10 件。

はしかけ運営, 田んぼの生き物調査グループ, 副担当。

中島経夫・水野敏明・甲斐朋子・北村明子(編) (2007) 琵琶湖お魚ネットワーク報告書. WWF ジャパン東京・琵琶湖博物館うおの会, 草津: 95p (英文翻訳)。

2006 年 5 月 10 日, 平成 18 年度 JICA 博物館学集中コース, 博物館と研究, 「講師」。

視察対応

2006 年 4 月 6 日, (財) 滋賀陶芸の森ゲスト・アーティスト一行。

2006 年 5 月 1 日, JTB 西日本大津支店 (オーストラリア) North Sydney Boys High School。

2006 年 5 月 18 日, 上智大学アジア人材養成研究センター2005 年 ACCU・ユネスコ青年交流信託基金事業専門家交流プログラム。

2006 年 6 月 28 日, ミシガン州立大学連合日本センター2006 年度「Environmental Sciences in Japan」コース。

2006 年 7 月 25 日, 関西広域連携協議会 JICA 留学生セミナー研修員。

2006 年 7 月 28 日, (財) 北九州国際技術協力協会第 8 回 JICA 国別特設フィリピン環境管理コース。

2006 年 8 月 31 日, (財) 国際エメックスセンター JICA 「閉鎖性海域の水環境技術 II」コース。

2006 年 9 月 12 日, タイ王国 National Discovery Museum Institute。

2006 年 10 月 11 日, (財) 全国建設研修センター JICA 「建設事業における環境保全対策」コース。

2006 年 10 月 20 日, (財) 日本環境衛生センター平成 18 年度 JICA 研修「水環境モニタリング II」コース.
2006 年 10 月 22 日, 第 4 回国際窒化物パルケ国際シンポジウム.
2006 年 10 月 26 日, 北九州国際技術協力協会平成 18 年度第 7 回「生活排水技術 II」研修コース.
2006 年 11 月 2 日, ロシア科学アカデミーシベリア支所陸水学研究所.
2006 年 11 月 16 日, 北九州国際技術協力協会 JICA 平成 18 年度産業廃水処理技術研修コース.
2007 年 2 月 20 日, 在大阪・神戸フランス総領事とフランス大使館科学技術参事官.
2007 年 3 月 6 日, 日本旅行関西法人営業部オーストラリアの旅行会社の教育旅行担当者.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

標本受入, 無脊椎動物 (昆虫、貝類以外) 25 件 (993 点) カイアシ類 5 種、カイミジンコ類 2 種のホロタイプ、アロタイプ、パラタイプ標本を含む.
仮データ入力・ラベル付け, 海綿類 7 点、渦虫類 19 点、苔虫類 1 点、ヒル類 3 点、甲殻類 1,234 点.
研究依頼, 北九州市立自然史・歴史博物館, エビノコバン 3 点.
研究依頼, 高知大学海洋生物教育研究センター, カイアシ類 16 点.
研究依頼, 酪農学園就医学部寄生虫学教室, 鉤頭虫 2 点.
特別観覧, 東北大学東北アジア研究センター, 鉤頭虫 4 点.

他博物館・機関の活動

大阪市立自然史博物館, 大形鰓脚類 (カブトエビ・ハウネンエビ・カイエビ類) 202 点の同定確認, 大和川水系調査グループ「プロジェクト Y」.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」, パネル更新, 2 件.
第 18 回水族企画展示「水辺の生き物」, 館内協力、パンフレットの英訳.
第 14 回企画展示「湖近 一水、魚、そして人ー 東アジアの中の琵琶湖」, 展示ガイドブックの英語翻訳.
ギャラリー展示「企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年」, 国際交流、覚書展示コーナー.

他博物館・機関の展示活動

大阪市立自然史博物館第 35 回特別展「大和川の自然-きたない川? にもこんなんいるで-」, (協力者、特にハウネンエビ、カブトエビ、カイエビの同定).
大阪市立自然史博物館, 常設展示「生き物のくらし」, 英文説明の翻訳.

【企画調整活動】

2006 年 6 月 28 日, 資料提供, 日本動物分類学会特別功労賞の受賞について.
2006 年 9 月 12 日, 資料提供, 琵琶湖博物館の学芸員が動物命名国際審議会の委員に任命されました.
2006 年 10 月 21 日, 琵琶湖博物館開館 10 周年式典, 受付.

【研究部関連事業】

2006 年度研究報告会, タイムキーパー, 2006 年 6 月 24・25 日.

館内人事、館外活動等に関すること

【館外の活動】

(米国) スミソニアン研究所国立自然史博物館，協力研究員．

2006 年 6 月 29 日更新，(米国) ロサンゼルス郡立自然史博物館資料・研究部（無脊椎動物学研究科），協力研究員．

2006 年 8 月 21 日，動物命名法国際審議会，委員．

2006 年 12 月 1 日，生態学琵琶湖賞，選者委員会，委員．

総括学芸員

研究部博物館学研究担当
(兼) 事業部長

琵琶湖博物館での専門研究は、昨年から近江の前方後円墳を中心とする首長墓と中世山岳寺院研究を中心に行うようになった。

今年度は、特に古墳の研究を進めて、前方後方墳と前方後方形周溝墓との関係について論じたものを『淡海文化財論叢』に投稿し、また南湖東岸の首長墓と湖上交通を関係づけた論文を『考古学論究』に書いた。

これらを含めて、これまでの近江を中心とする古墳研究の諸論文を取りまとめて『琵琶湖をめぐる古墳と古墳群の考古学的研究』と題した学位論文をまとめた。これは滋賀県立大学に提出し、予備審査および本審査を経て、2006年度末に学位を授与された。この過程においては、滋賀県立大学で日本考古学を専門とする林博通先生、日本や中国考古学の菅谷文則先生、朝鮮古代史の田中俊明先生および古墳研究の第一人者、立命館大学和田晴吾先生の懇切丁寧な指導を受け、私個人の研究史にとっても貴重な経験となった。この論文をもとにした『琵琶湖をめぐる古墳と古墳群』と称する本は2007年7月に刊行した。

それ以外に、琵琶湖博物館10周年を記念するギャラリー展示の開催やその図録の編集・執筆、記念講演会の手配や講演者の館長対談などを企画・実施し、それらの成果も『うみんど』等に掲載しているところである。昨年度末に刊行した琵琶湖博物館資料目録の紹介等も『民具マンスリー』にのせ、広く資料目録が活用されるようになってきた。

今年度は、河川環境管理財団の助成を得て、野洲川や愛知川流域の弥生時代環濠集落研究を行うこととなり、主として下之郷遺跡や欲賀南遺跡、斗西遺跡や石田遺跡の水環境論を整理中であり、2007年5月から6月にかけて、その成果を琵琶湖博物館新空間において展示・公表、その後、共同研究者の所属する東近江市埋蔵文化財センターでも展示を行った。

滋賀県立大学大学院での日本考古学の講義は4年目を迎え、考古学を専門とする学生以外の受講も多く、研究の成果を広く次世代に伝えられるようになってきた。

その他、中国の新石器時代集落や墳丘墓の調査のため、アジア考古学研究機構の活動の一環として長江下流域を中心に2回踏査し、またロシアのモスクワやサンクトペテルブルグでの博物館調査も主だったところである。

一方、山岳寺院研究も「山の考古学研究会」で研究成果を発表し、ともに伊吹山を中心とする寺院跡の調査も行った。引き続き、近江における山岳寺院の歴史的展開の考古学的研究も進めていきたい。

印刷物

【学術論文】

用田政晴（2007）前方後方墳と前方後方形周溝墓-法勝寺 SDX23 号墓の再評価-, 淡海文化財論叢, 2, 淡海文化財論叢刊行会: 35-40.

用田政晴（2007）琵琶湖南部東岸の古墳と船津, 考古学論究, 小笠原好彦先生退任記念論集刊行会: 269-287.

【専門分野の著作】

用田政晴（2006）書籍紹介「琵琶湖博物館資料目録 民俗資料1・2（琵琶湖水系漁撈習俗資料）」, 民具マンスリー, 4（39）, 神奈川大学日本常民文化研究所: 23-24.

【一般向けの著作】

- 用田政晴（2006）企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年．うみんど，（40），琵琶湖博物館：2-3.
- 用田政晴（2006）県史編纂と山城．葛原さんを偲ぶ 葛原克人氏追悼集，葛原克人氏追悼集刊行会：105-106.
- 用田政晴（2006）琵琶湖博物館の10年の活動と企画展示．企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年，琵琶湖博物館：2-3.
- 用田政晴（2006）私とあなたの琵琶湖アルバム．企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年，琵琶湖博物館：10-11.
- 用田政晴（2006）湖の船．企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年，琵琶湖博物館：16-17.
- 用田政晴（2006）琵琶湖博物館の出版物．企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年，琵琶湖博物館：56-57.
- 琵琶湖博物館（2007）館長対談「ふるさと琵琶湖への想い」．うみんど，（42），琵琶湖博物館：4-5.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 用田政晴（2006）琵琶湖博物館・民具資料収集と保管への道．用田政晴（編），琵琶湖博物館資料目録，13，琵琶湖博物館：3-5.
- 用田政晴（2006）琵琶湖博物館企画展示『湖の船』での民具資料の活用．用田政晴（編），琵琶湖博物館資料目録，13，琵琶湖博物館：18-21.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 用田政晴（2006年7月15日）近江山岳寺院研究-敏満寺と湖東三山を中心に-．多賀町立文化財センター文化財講座，多賀町文化財センター，多賀町立文化財センター（多賀町），[口頭発表].
- 用田政晴（2006年10月20日）安土瓢箪山古墳における土器と「埴輪」．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].
- 用田政晴（2006年11月25日）伊吹山・霊山を中心とした近江の山岳寺院．山の考古学研究会，伊吹山文化資料館（滋賀県米原市），[口頭発表].
- 用田政晴，（2007年1月20日）琵琶湖水系漁撈習俗資料の収集、整理、保管そして利用への道のり．第12回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「近江の首長墓と寺院に見る歴史的特質と地域性に関する考古学的研究」，（2006年度）．アジア考古学研究機構「アジアの遺跡と民俗」（研究代表者：用田政晴），研究総括（2006年度）．
- 河川環境管理財団「琵琶湖水系野洲川・愛知川流域における弥生時代環濠集落の水環境論研究と政課展示への試み」（研究代表者：用田政晴），研究総括（2006年6月～2007年5月）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- アジア考古学研究機構，代表．

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2006年度前期，滋賀県立大学大学院人間文化科学研究科，日本考古学．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，12 件。

視察対応

2006 年 5 月 10 日，博物館案内，JICA 研修生。
2006 年 6 月 13 日，博物館資料案内，安土城考古博物館。
2006 年 7 月 23 日，展示案内，中国・韓国研修生。
2006 年 8 月 23 日，展示案内，熊本県河浦町商工会。
2006 年 9 月 12 日，展示案内，台湾・学生団体。
2006 年 9 月 23 日，展示案内，辰馬考古資料館。
2006 年 10 月 5 日，展示案内，滋賀県国際協会。
2006 年 12 月 19 日，展示案内，中国・湖南省政府。

メディアへの協力

2006 年 11 月，韓国 KBS，湿地の保全，展示解説，（2006 年 6 月 10 日・11 日取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館個人ページ「マッピーの考古学への道」，管理運営。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

考古資料整理，管理運営。
民俗資料整理，写真撮影，200 点。
環境資料整理，収蔵庫管理。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006 年 12 月 23 日～2007 年 2 月 18 日，ギャラリー展示「企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年」，図録・展示担当。
モーニングレクチャー，講演，2 回。

他博物館・機関の活動

安土城考古博物館，2006 年度，展示企画検討会，委員。

【企画調整活動】

滋賀県博物館協議会総会，事務局次長として出席，2006 年 6 月 15 日，大津市歴史博物館。
ハン六文化財団文化賞表彰式，滋賀県博物館協議会会長代理（事務局次長），2006 年 8 月，琵琶湖ホテル。
10 周年記念事業講演会，講演会・うみんど対談担当，2006 年 10 月 21 日。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2006 年度，滋賀県博物館協議会，事務局次長.

【海外渡航】

2006 年 7 月 10 日～13 日，中国，上海博物館調査.

2006 年 7 月 31 日～8 月 5 日，ロシア，帝政ロシア関係博物館・城郭遺跡調査.

2007 年 2 月 4 日～8 日，中国，新石器時代墳丘墓・環濠集落遺跡調査.

【館外の活動】

2006 年度，金山城調査検討委員会，委員.

2006 年度，東近江市史「能登川の歴史」編纂委員会，委員.

専門学芸員

研究部博物館学研究担当
(兼) 事業部資料活用担当

総ての人に、役に立つ博物館資料作りを目標にしています。また、自然の神秘、巧妙さに惹かれ、様々な事柄に興味を持つ人を少しでも増やしてゆきたいと考えています。そこで普通は余り考えられていない魚の鳴き声を調べたり、更に、できるだけ多くの人に水生生物に対する正しい知識を持って欲しく、有志を集め県内河川の魚類や水生昆虫など水生生物の調査を行っています。この瞬間の生き物の姿や自然を出来る限り映像記録として後世に残して行きたいとも思っています。

本年度は、企画展示の担当となり湧き水を源流とする針江大川の集落における水と魚と人の暮らしに関する展示を行いました。企画展示は琵琶湖博物館総合研究の成果の発表との位置づけから、共同研究者である今森光彦氏の写真を多用する展示となりました。

また、琵琶湖博物館の開館 10 周年記念として、博物館学研究系の 10 年のまとめを研究報告会にて発表しました。映像資料については、激しい IT 化の波の中でデジタル画像の保存性について検討がなされてきました。デジタルは不変との誤解の中で、メディアの耐久性について、あるいは機器、OS やアプリケーションの変更や陳腐化によるアクセス不能の議論が木霊のように置き去りにされています。不可視なこれら電子データに対しヒューマンリーダブルなアナログメディアは、保存性の有利さよりも利便性に優れるデジタル画像に圧倒されています。さて博物館資料としての画像は、100 年後にどちらが残ることになるのでしょうか。10 年前のデジタルメディアのおよそ 7 割弱がアクセス不能であるとの国会図書館の報告に寒気を覚えるのは、私だけでしょうか。

今年度の研究成果については、企画展示などの業務のためほとんど進捗はありませんでしたが、展示絡み、映像絡みで写真・画像に関して得るところの多い一年でした。

印刷物

【専門分野の著作】

秋山廣光 (2006) 魚類. 滋賀県生きもの総合調査委員会(編), 滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック 2005 年版-, サンライズ出版, 彦根市.

【一般向けの著作】

秋山廣光 (2006) アユモドキについて. 宍道湖自然館第 11 回特別展「日本のどじょうたち」展示解説書, 島根県立宍道湖自然館ゴビウス, 島根県: 28-33.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

伊藤尚史・大迫典久・三輪 理・栗田 潤・湯浅 啓・秋山廣光・久米弘人・吉岡 剛・佐野元彦・飯田貴次(2006 年 3 月 29 日~4 月 2 日)野生型および飼育型コイのコイヘルペスウイルス(KHV)に対する感受性の比較. 平成 18 年度日本水産学会大会, 高知大学(高知市), [口頭発表].

秋山廣光(2007 年 1 月 20 日)琵琶湖博物館の映像資料とその利用の可能性について. 第 12 回琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖集水域における人や生き物の活動の映像記録（写真撮影、録音など）に関する研究
ならびに博物館的表現・伝達方法・利用に関する研究」, (2006 年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館水族展示室, 10 件.

2006 年度, はしかけ「温古写真」, 担当, 18 件.

2006 年 6 月 24 日, 投網に挑戦, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 講師.

2006 年 7 月 31 日, 生き物飼い方講座, 講座, 琵琶湖博物館.

2006 年 8 月 1 日, 先生のための川の生き物調査, 講座, 琵琶湖博物館,

2006 年 8 月 7・10 日, 琵琶湖博物館の資料活用の概要, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師, 2 件.

2006 年 8 月 21・27 日, 水族バックヤードツアー, 琵琶湖博物館夏休み企画, 2 件.

2006 年 9 月 10 日, カバタを見に行こう, 観察会, 高島市新旭町, 講師.

2007 年 1 月 27 日, 指導者のための淡水魚類講座 2, 講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2007 年 3 月 4 日, 水族展示の舞台裏, 琵琶湖博物館観察会, 琵琶湖博物館, (水族担当学芸員、水族飼育員共同).

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 4 月 23 日, びわこの魚を食べよう, ぼてじゃこトラスト, ウォーターステーション (大津市), 講師.

2006 年 5 月 11 日, 外来魚の解剖と調理, 理科教育講座・中学校理科教育部会総会, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 5 月 13 日, 川の生き物調査, おさかなネットワーク, ウォーターステーション (大津市), 講師.

2006 年 6 月 12 日, 魚解剖, 滋賀大学学生、琵琶湖博物館, 指導.

2006 年 7 月 10 日, 映像資料整理, JICA 研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 7 月 11 日, 川の生き物調査, ぼてじゃこトラスト、ウォーターステーション (大津市), 講師.

2006 年 7 月 12 日, 水生動物と水生植物について, シニア自然大学, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 7 月 25 日, 琵琶湖の魚について, 石部高校ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師, 3 件.

2006 年 7 月 29 日, ピンホール写真について, 佐川キッズミュージアム, 琵琶湖博物館・佐川美術館共催, 佐川美術館, 講師.

2006 年 8 月 3 日, 琵琶湖の魚について, 滋賀県中学校教育研究会理科部会, 第 10 回自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 8 月 7 日, ピンホール写真について, 教員研修会全国大会, MIHO MUSEUM (甲賀市), 講師.

2006 年 8 月 9 日, 企画展示の展示解説, 滋賀県平成 18 年度環境教育研究協議会, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 8 月 22 日, 川の魚と生態系, 伊川を愛する会(神戸)子供淡水魚教室, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 8 月 28 日, ピンホール写真について (美・博連携事業), 草津市立老上小学校, 講師.

2006 年 8 月, 外来魚駆除, 草津クリーンウォーク, 草津市, 烏丸半島 (草津市), 講師.

2006 年 9 月 9 日, 川の生き物調査, ほたるの学校, 南郷水産センター (大津市), 講師.

2006 年 9 月 18 日, 小川の生き物調査, 福寿土曜学校 (お魚ネットワーク), 西方寺 (大津市), 講師.

2006 年 10 月 14 日, 大人の川遊びトレーニング, お魚ネットワーク, ウォーターステーション (大津市), 講師.

2006 年 10 月 29 日, 琵琶湖の魚の話, 針江イベント, 高島市新旭町, 講師.

2006 年 11 月 14 日, いただきますプログラム(外来魚を食そう), 伊香立小学校 (大津市), 講師.

2007 年 1 月 23 日, 琵琶湖の魚について、いただきますプログラム(外来魚を食そう)、外来魚と在来魚の伝統料理、草津第二小学校 PTA, 講義・調理指導.

2007 年 3 月 3 日, 魚類の研究について, 立命館高校, 琵琶湖博物館, 講義.

視察対応

2006 年 5 月 16 日, 琵琶湖の外来魚問題ほか, 近畿弁護士連合会 (公害・環境委員会).

2006 年 6 月 29 日, イタセンパラの撮影下見, 大阪府水道記念館.

2006 年 7 月 28 日, 琵琶湖博物館概要, 韓国からの視察.

2006 年 10 月 0 日, ハリヨについて, 野洲市環境課.

2007 年 1 月 25 日, 琵琶湖博物館水族展示について, 鹿児島水族館.

2007 年 3 月 27 日, 映像資料保存管理について, 養魚飼料協会.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2006 年度, 映像資料貸出, 68 件.

2006 年 7 月 11 日, 水族資料貸出, ゴビウス.

2006 年度, 水族飼育・管理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006 年度, 第 14 回企画展示, 主担当.

2006 年 7 月, 企画展示解説, 展示交流員研修 (今森氏共同).

モーニングレクチャー, 講演, 6 回.

展示交流員と話そう (オオサンショウウオ、ムグツクとドンコ), 内容指導.

【企画調整活動】

新任職員研修, 琵琶湖の水族と博物館の展示手法, 2006 年 7 月 3 日.

学校への説明訪問, 県内小・中学校, 5 件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

日本動物園水族館協会, 動物名検討委員会, 委員.

Nets 滋賀の水生生物調査グループ, 実行委員.

ぼてじゃこトラスト, 顧問.

お魚ネットワーク大津, 顧問.

専門学芸員

研究部博物館学研究担当
(兼) 事業部交流担当グループリーダー

オサムシ科を中心に昆虫の系統進化、生物地理を明らかにすることを研究目標としている。また、異分野の研究者と総合研究「資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」を行っている。

今年度の研究活動の中心となったのは、滋賀県生きものの総合調査委員会が編集・発行した「滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック 2005 年版-」の昆虫類全体のとりまとめおよび甲虫類の選定種の記述の作業である。この出版物において昆虫・クモ類概要を記述するとともに選定種 16 種について記述を行った。学術論文としては、共著で「伊吹山南麓に分布する中部更新統寺林層の植物化石および昆虫化石に基づく古環境復元」（山川ら, 2007）が印刷された。この論文で昆虫化石を担当した。一般向けの著述としては、あいあいAI 滋賀の「湖国の昆虫」シリーズで 41 種の昆虫類について記述し、現在も連載中である。その他の一般向けの著述を合計すると 45 におよぶ。学会講演として鹿児島大学で行われた日本昆虫学会第 66 回大会において八尋・亀田・近の共同で「カワウの営巣による森林の甲虫群集の変化」を口頭発表した。一般の人に向けての発表として、琵琶湖博物館研究発表会（第 3 回目）において「なぜたくさんの虫を集めるのか-地域の人たちとの調査研究から企画展へ-」というタイトルで講演を行い、調査研究活動および資料整備活動が基礎になって 2 つの昆虫をテーマとする企画展が実施されたことを紹介した。投稿中の学術論文としては、林・八尋・北林の共著で「広島県東広島市の西条層から産出した中期更新世の昆虫化石」を瑞浪市化石博物館研究報告に、単著で「滋賀県の南東平野部水田のライトトラップで採集された昆虫類の種構成」を日本環境動物昆虫学会の雑誌に投稿し、受理されている。その他の話題としては滋賀県の内湖の昆虫相調査で、私が採集した昆虫類が 1 新種として命名記載された（昆虫類コウチュウ目：ヤヒロミドリトビハムシ *Crepidodera yahiroi* Suzuki, 2006 [Elytra. 34(1):189-198]）。

印刷物

【学術論文】

山川千代美・此松昌彦・八尋克郎・里口保文・石田志朗（2007）伊吹山南麓に分布する中部更新統寺林層の植物化石および昆虫化石に基づく古環境復元. 第四紀研究, 46（1）：1-18.

【専門分野の著作】

遠藤真樹・八尋克郎・吉田 真（2006）昆虫・クモ類概要. 滋賀県生きものの総合調査委員会（編），滋賀県で大切にすべき野生生物滋賀県レッドデータブック 2005 年版，サンライズ出版，彦根市：364.

八尋克郎（2006）ゲンゴロウ，コガタノゲンゴロウ，シャープゲンゴウモドキ，オオイチモンジシマゲンゴロウ，オオクワガタ，クロゲンゴロウ，クロカタビロオサムシ，セアカオサムシ，オオヒョウタンゴミムシ，オオヨツボシゴミムシ，ヒメボタル，アキオサムシ，シガラキオサムシ，イシダメクラチビゴミムシ，ゲンジボタル，ヘイケボタル. 滋賀県生きものの総合調査委員会編，滋賀県で大切にすべき野生生物滋賀県レッドデータブック 2005 年版，サンライズ出版，彦根市：373, 372, 373, 373, 386, 384, 406, 407, 407, 407, 415, 430, 430, 431, 551, 551.

八尋克郎（2006）野洲川中・下流域の河辺林の昆虫群集. 滋賀県生きものの総合調査委員会編，滋賀県で大切にすべき野生生物滋賀県レッドデータブック 2005 年版，サンライズ出版，彦根市：446.

八尋克郎（2006）琵琶湖岸ヨシ帯の昆虫群集. 滋賀県生きものの総合調査委員会編，滋賀県で大切にすべき野生生物滋賀県レッドデータブック 2005 年版，サンライズ出版，彦根市：446.

八尋克郎 (2006) オサムシ科. 日本応用動物昆虫学会 編集・発行, *農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版*, 東京 : 60.

Timoshkin, O. A. , Grygier, M. J. , Nishino, M. , Wada, E. , Genkal, S. I. , Biserov, V. I. , Gagarin, V. G. , Semernoy, V. P. , Jankowski, A. W. , Stepanjants, S. D. , Tsalolikhin, S. Y. , Starobogatov, Y. I. , Alexeev, V. R. , Sitnikova, T. Y. , Tuzovskij, P. V. , Okuneva, G. L. , Sheveleva, N. G. , Pomazkova, G. I. , Arov, I. V. , Mazepova, G. F. , Janz, H. , Obolkina, L. A. , Chernyshev, A. V. , Morino, H. , Nakai, K. , Matsuda, M. , Ohtsuka, T. , Kawakatsu, M. , Maehata, M. , Masuda, Y. , Takemon, Y. , Tanida, K. , Kusuoka, Y. , Yahiro, K. , Hirasawa, R. , Tuji, A. , Kameda, K. , Ishida, T. , Itoh, T. , Ichise, S. , Wakabayashi, T. , Okubo, I. , Seki, S. , Nagasawa, K. , Ogawa, K. and Masunaga, K. (2006) Biodiversity of Lake Biwa : New discoveries and future potential. *Berliner Palaobiologische Abhandlungen*, 9 : 61.

亀田佳代子・保原 達・大園享司・木庭啓介・石田 朗・八尋克郎 (2007) カワウによる水域から陸域への物質輸送と環境変化の影響. *国際湿地再生シンポジウム 2006 報告書* : 358-365.

【一般向けの著作】

八尋克郎 (2006) チョウトンボ. *私たちの自然*, 517, 日本鳥類保護連盟 : 16.

八尋克郎 (2006) ギフチョウ. *あいあいAI 滋賀*, 290, 朝日新聞 : (2006 年 5 月 17 日).

八尋克郎 (2006) メガネサナエ. *あいあいAI 滋賀*, 291, 朝日新聞 : (2006 年 5 月 24 日).

八尋克郎 (2006) モンシロチョウ. *あいあいAI 滋賀*, 292, 朝日新聞 : (2006 年 5 月 31 日).

八尋克郎 (2006) オオセンチコガネ. *あいあいAI 滋賀*, 293, 朝日新聞 : (2006 年 6 月 7 日).

八尋克郎 (2006) ゲンジボタル. *あいあいAI 滋賀*, 294, 朝日新聞 : (2006 年 6 月 14 日).

八尋克郎 (2006) ムカシトンボ. *あいあいAI 滋賀*, 295, 朝日新聞 : (2006 年 6 月 21 日).

八尋克郎 (2006) アゲハチョウ. *あいあいAI 滋賀*, 296, 朝日新聞 : (2006 年 6 月 29 日).

八尋克郎 (2006) タガメ. *あいあいAI 滋賀*, 298, 朝日新聞 : (2006 年 7 月 12 日).

八尋克郎 (2006) オオムラサキ. *あいあいAI 滋賀*, 299, 朝日新聞 : (2006 年 7 月 19 日).

八尋克郎 (2006) ミイデラゴミムシ. *あいあいAI 滋賀*, 300, 朝日新聞 : (2006 年 7 月 26 日).

八尋克郎 (2006) ヒメボタル. *あいあいAI 滋賀*, 301, 朝日新聞 : (2006 年 8 月 2 日).

八尋克郎 (2006) カブトムシ. *あいあいAI 滋賀*, 302, 朝日新聞 : (2006 年 8 月 9 日).

八尋克郎 (2006) アブラゼミ. *あいあいAI 滋賀*, 303, 朝日新聞 : (2006 年 8 月 23 日).

八尋克郎 (2006) クマゼミ. *あいあいAI 滋賀*, 304, 朝日新聞 : (2006 年 8 月 30 日).

八尋克郎 (2006) ヒサマツミドリシジミ. *あいあいAI 滋賀*, 305, 朝日新聞 : (2006 年 9 月 6 日).

八尋克郎 (2006) ツマグロヒョウモン. *あいあいAI 滋賀*, 306, 朝日新聞 : (2006 年 9 月 13 日).

八尋克郎 (2006) ハッチョウトンボ. *あいあいAI 滋賀*, 307, 朝日新聞 : (2006 年 9 月 20 日).

八尋克郎 (2006) カワラハンミョウ. *あいあいAI 滋賀*, 308, 朝日新聞 : (2006 年 9 月 27 日).

八尋克郎 (2006) カワラバタ. *あいあいAI 滋賀*, 309, 朝日新聞 : (2006 年 10 月 4 日).

八尋克郎 (2006) オニヤンマ. *あいあいAI 滋賀*, 310, 朝日新聞 : (2006 年 10 月 18 日).

八尋克郎 (2006) カワムラナベブタムシ. *あいあいAI 滋賀*, 311, 朝日新聞 : (2006 年 10 月 25 日).

八尋克郎 (2006) アキアカネ. *あいあいAI 滋賀*, 312, 朝日新聞 : (2006 年 11 月 1 日).

八尋克郎 (2006) ゲンゴロウ. *あいあいAI 滋賀*, 313, 朝日新聞 : (2006 年 11 月 8 日).

八尋克郎 (2006) スズムシ. *あいあいAI 滋賀*, 314, 朝日新聞 : (2006 年 11 月 15 日).

八尋克郎 (2006) シガラキオサムシ. *あいあいAI 滋賀*, 315, 朝日新聞 : (2006 年 11 月 22 日).

八尋克郎 (2006) ヒメハルゼミ. *あいあいAI 滋賀*, 316, 朝日新聞 : (2006 年 11 月 29 日).

八尋克郎 (2006) ヒラサナエ. *あいあいAI 滋賀*, 317, 朝日新聞 : (2006 年 12 月 6 日).

八尋克郎 (2006) ビワコエグリトビケラ. *あいあいAI 滋賀*, 318, 朝日新聞 : (2006 年 12 月 13 日).

八尋克郎 (2006) ヤヒロミドリトビハムシ. *あいあいAI 滋賀*, 319, 朝日新聞 : (2006 年 12 月 20 日).

八尋克郎（2007）昆虫の楽しみ方．あいあいAI 滋賀，320，朝日新聞：（2007 年 1 月 3 日）．

八尋克郎（2007）アカムシユスリカ．あいあいAI 滋賀，321，朝日新聞：（2007 年 1 月 17 日）．

八尋克郎（2007）ビワコシロカゲロウ．あいあいAI 滋賀，322，朝日新聞：（2007 年 1 月 24 日）．

八尋克郎（2007）ヒイラギハマキワタムシ．あいあいAI 滋賀，323，朝日新聞：（2007 年 1 月 31 日）．

八尋克郎（2007）セッケイカワゲラ．あいあいAI 滋賀，324，朝日新聞：（2007 年 2 月 7 日）．

八尋克郎（2007）ミノムシ．あいあいAI 滋賀，325，朝日新聞：（2007 年 2 月 15 日）．

八尋克郎（2007）カイコ．あいあいAI 滋賀，326，朝日新聞：（2007 年 2 月 21 日）．

八尋克郎（2007）ベニイトトンボ．あいあいAI 滋賀，327，朝日新聞：（2007 年 2 月 28 日）．

八尋克郎（2007）キマダラルリツバメ．あいあいAI 滋賀，328，朝日新聞：（2007 年 3 月 7 日）．

八尋克郎（2007）チョウトンボ．あいあいAI 滋賀，329，朝日新聞：（2007 年 3 月 14 日）．

八尋克郎（2007）オオカマキリ．あいあいAI 滋賀，330，朝日新聞：（2007 年 3 月 21 日）．

八尋克郎（2007）チャイロスズメバチ．あいあいAI 滋賀，331，朝日新聞：（2007 年 3 月 28 日）．

八尋克郎（2006）近江はトンボの宝庫．企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年，琵琶湖博物館：12-13．

八尋克郎（2006）歩く宝石オサムシ-飛ばない昆虫のふしぎ発見-．企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年，琵琶湖博物館：28-29．

八尋克郎（2006）博物館資料に関する研究．琵琶湖博物館研究部 10 年のあゆみ，琵琶湖博物館：107-108．

八尋克郎（2006）冬の昆虫観察の目のつけどころ．初等理科教育，農山漁村文化協会：50-51．

八尋克郎・南堀貞雄・戸田 孝・芳賀裕樹・大塚泰介（編）（2007）うみんど．（41），琵琶湖博物館：8p．

八尋克郎・南堀貞雄・戸田 孝・芳賀裕樹・大塚泰介（編）（2007）うみんど．（42），琵琶湖博物館：8p．

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

八尋克郎（2006 年 7 月 21 日）大分県杵築市の平原層から産出した中期更新世の昆虫化石．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

八尋克郎・亀田佳代子・近 雅博（2006 年 9 月 17 日）カワウの営巣による森林の甲虫群集の変化．日本昆虫学会第 66 回大会，日本昆虫学会，鹿児島大学農学部（鹿児島市），[口頭発表]．

八尋克郎（2006 年 7 月 4 日）濁水が河川生態系に及ぼす影響．琵琶湖博物館特別研究セミナー，琵琶湖博物館，[運営]．

八尋克郎（2006 年 10 月 29 日）日本昆虫学会近畿支部の活動紹介．里山保全特別講演会，日本昆虫学会近畿支部・日本鱗翅学会近畿支部・琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

八尋克郎（2006 年 10 月 29 日）里山保全特別講演会，琵琶湖博物館，[運営]．

八尋克郎（2007 年 1 月 20 日）なぜたくさんの虫を集めるのか-地域の人たちとの調査研究から企画展へ-．第 12 回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「近畿地方におけるオサムシ類の系統進化」，（2006 年度）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本昆虫学会近畿支部，自然保護委員，2003 年度～．

滋賀オサムシ研究会，事務局，1997 年度～．

地表性甲虫談話会会報，編集幹事，2004 年度～．

第 67 回日本昆虫学会大会実行委員会，委員，2006 年度～．

蜻蛉研究会総会，運営．

日本昆虫学会，Entomological Science，論文の査読，1 件．

【受賞など】

ディスプレイデザイン賞，第 13 回琵琶湖博物館企画展示「歩く宝石オサムシ-飛ばない昆虫のふしぎ発見-」，2006 年 7 月 17 日，入選．

新種の記載での氏名の使用，昆虫類コウチュウ目ヤヒロミドリトビハムシ *Crepidodera yahiroi* Suzuki, [*Elytra*, 34 (1) : 189-198]．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，11 件．

2006 年 6 月 11 日，ホテルを観察しよう，フィールド観察会，大津市千丈川，講師．

2006 年 7 月 23 日，夏休み自由研究講座，フィールド観察会，琵琶湖博物館，講師，（武田 滋・南 尊演・佐々木 剛氏と共同）．

2006 年 7 月 29 日，生き物飼いか講座，講座，琵琶湖博物館．

2006 年 8 月 5 日，琵琶湖博物館の交流事業の概要，博物館実習，琵琶湖博物館，講師，

2006 年 8 月 27 日，ミドリセンチコガネを探しに行こう，フィールド観察会，栗東市荒張，講師．

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 7 月 12 日，琵琶湖とそのまわりの昆虫たち，シニア自然大学，琵琶湖博物館，講師．

2006 年 7 月 29 日，琵琶湖とそのまわりの昆虫たち，JAF，琵琶湖博物館，講師．

2006 年 7 月 30 日，雑木林の昆虫たち，ホテルの森資料館，ホテルの森の観察会，ホテルの森資料館（守山市），講師．

2006 年 8 月 2 日，野菜畑の昆虫，コープ滋賀，野菜畑へ行こう，コープ滋賀（近江八幡市），講師．

2006 年 8 月 3 日，博物館周辺で昆虫採集をしよう，滋賀県中学校教育研究会理科部会，第 10 回自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師．

2006 年 8 月 5 日，雑木林の昆虫，真野北公民館，八幡神社周辺（大津市），講師．

メディアへの協力

2006 年 7 月 17 日，KBS 京都滋賀放送局，松井桂三のさんさんワイド・「京・近江 新新！」，「むしがおならを・・・」ミイデラゴミムシの謎，（2006 年 7 月 17 日取材）．

2006 年 7 月 21 日，京都新聞，高島にハムシの新種，新種について，（2006 年 7 月 20 日取材）．

2006 年 7 月 21 日，中日新聞，ハムシの新種 湖周辺で発見，新種について，（2006 年 7 月 20 日取材）．

2006 年 8 月 5 日，朝日新聞，ハムシの新種発見，新種について，（2006 年 8 月 2 日取材）．

2006 年 8 月 19 日，産経新聞，高島で採集ハムシの新種，新種について，（2006 年 8 月 5 日取材）．

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館個人管理ページ（八尋），管理・運営，更新多数．

クエリーの質問対応，昆虫に関する質問への回答，6 件．

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料の寄贈受け入れ，3件.

他博物館・機関の活動

2006年度，西日本自然史系博物館ネットワーク事業，蜻蛉研究会トンボ類コレクションの整備，4244点.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回.

展示交流員と話そう（琵琶湖の固有種の昆虫），内容指導，

C展示室「オサムシの分布調査」，展示更新.

2006年7月20日，C展示室「生き物コレクション」（ハムシの新種），展示更新.

2006年7月26日，図書閲覧室「ハムシの新種」，展示更新.

2006年8月10日，研究最前線，展示更新.

2006年12月23日～2007年2月18日，ギャラリー展示「企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年」，「近江はトンボの宝庫」、「歩く宝石オサムシ」の展示コーナーの作成.

【企画調整活動】

新任職員研修，C展示室生き物コレクション概要，2006年4月19日.

ショップ会議，レストラン・ショップとの連携，12件，応接室.

学校への説明訪問，県内小・中学校，6件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2006年度，うみんど編集委員.

【海外渡航】

2006年10月1日～9日，フランス，ファーブル100年展にかかる資料収集.

【館外の活動】

2003年7月1日～，滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，昆虫類部会長、専門委員長.

主任学芸員

研究部博物館学研究担当サブグループリーダー
（兼）総務部企画調整課

本年度の前半は比較的好調であった。ここ数年、教育学会に関わる中で自分自身の博物館学の研究にどのような方向性を定めていくかを模索している。8月の学会において、環境教育に関わるセッションが企画され、その中で博物館教育の立場から発言するよう求められて、5月ごろから頻繁に打ち合わせを行って準備することによって、相応の見聞と人的関係が獲得できたと思う。しかし、企画が詰まるにつれて、自身が当面目指している方向性とのズレが感じられ、最終的には不完全燃焼に終わった気分なのが残念である。

年度後半は、10周年記念事業の負担が予想以上に重く、思うに任せなかったというのが正直なところである。確かに10周年に絡んで、特に博物館情報に関連して歴史的経緯を踏まえた整理ができたことは大きな成果である。しかし、それ以外の部分、特にリモートセンシングを中心とする過去の成果を総括公表するという部分については、予想外の停滞を余儀なくされている。

そのような中で、博物館学分野の研究テーマの1つとしている「機関連携」に関わる事業が来年度末に向けて進行中である。この事業について、事業成果だけでなく研究成果としても価値あるものを如何にして残すかが当面の課題となろう。

印刷物

【専門分野の著作】

戸田 孝（2006）鉛直拡散，鉛直混合，回転流体，観測指針，散乱係数，湿度，湿度計，静水圧平衡，塑性流動，ブラント・パイサラ振動数，吹寄せ，流程．日本陸水学会編，*陸水の事典*．講談社：39, 39-40, 56, 103, 189, 204, 263, 293, 426, 414, 499-500.

【一般向けの著作】

戸田 孝（2006）電子の仮想空間も「フィールド」．*うみんど*，(40)，琵琶湖博物館：7.

戸田 孝（2006）博物館情報に関する研究．*琵琶湖博物館研究部 10 年の歩み*，琵琶湖博物館：106-107.

戸田 孝（2006）もうひとつの博物館-琵琶湖博物館インターネット・ミュージアム．*企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年*，琵琶湖博物館：54-55.

戸田 孝・八尋克郎・南堀貞雄・芳賀裕樹・大塚泰介（編）（2007）*うみんど*．(41)，琵琶湖博物館：8p.

戸田 孝・八尋克郎・南堀貞雄・芳賀裕樹・大塚泰介（編）（2007）*うみんど*．(42)，琵琶湖博物館：8p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

戸田 孝・亀田佳代子・島田拓哉・釈 慶樹・板倉安正（2006 年 4 月 21 日）常設赤外カメラによる琵琶湖赤野井湾の観測結果-冬季の水鳥の去就と夏季の水草域の消長-．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

戸田 孝（2006 年 8 月 20 日）「環境を見つめる活動」としての博物館活動．日本科学教育学会第 29 回年会，日本科学教育学会，筑波学院大学（茨城県つくば市），[口頭発表]．

戸田 孝（2007 年 1 月 20 日）琵琶湖博物館の電子情報—世界情勢の中での立ち回り—。第 12 回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「博物館事業における水理学分野の位置付けに関する研究」，（2006 年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本海洋学会，Journal of Oceanography，査読，1 件。

日本科学教育学会，科学教育研究，査読，5 件。

日本陸水学会，広報幹事技術顧問，2003～2005 年度。

陸水物理研究会，運営委員。

日本科学教育学会，編集委員，2006～2007 年度。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館各展示室，11 件。

2006 年 8 月 1 日，回転実験室で水槽実験を！，博物館講座，琵琶湖博物館，主担当。

メディアへの協力

ティーヴィボックス，TBS テレビ，マラウイ湖取材の事前情報収集の一環として，1997 年に当館で開催した ICAL の関連資料を提供，（2007 年 2 月 20 日取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

情報システム整備および電子情報発信活動の総括。

インターネット発信情報英語版全面更新，副担当。

全館員向けメールメッセージの館内公開。

質問メールの受付・振り分け・回答進捗状況管理，副担当。

琵琶湖博物館個人管理ページ（戸田），管理・運営，更新多数。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006 年度，気象に関する展示の更新および維持管理。

2006 年度，水理に関する展示の更新および維持管理。

2006 年度，2007 年度ギャラリー展示の企画および共催予定者との調整。

モーニングレクチャー，実習，3 回。

【企画調整活動】

滋賀県博物館協議会，協議会ページの運営（各加盟館紹介ページの更新など）。

学校への説明訪問，県内小・中学校，9 件。

【研究部関連事業】

研究発表会担当，年間計画の全体調整・進捗管理．

研究調査報告書担当，号数管理・体裁統一のための連絡調整．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2006 年度，うみんど編集委員．

2006 年度，琵琶湖博物館広報経営戦略会議メンバー．

2006 年度，滋賀県博物館協議会，広報委員会，広報委員．

2006 年度，滋賀県博物館協議会，企画委員会，企画委員．

主査

研究部博物館学研究担当
(兼) 事業部交流担当

本来、博物館での「学び」は、利用者が主体的に参加し関わりながら学ぶ、「自由な学び」である。それに対し、学校での「学び」はそのときその時の目標が設定され、計画的に進められる「統制的な学び」である。このような、まったく相反する「学び」をめざしている博物館と学校とがどのように連携をしていくのか。琵琶湖博物館が考えているのが以下の3点である。

- ・学校との連携は、子どもたちが将来にわたって楽しく学べる場所として博物館の利用のしかたを経験し、気軽に博物館を活用できる芽を育成する。

- ・学校との連携は、一方的な働きかけや受け入れでなく、お互いの特性を最大限に生かしていくなかで実行されなければならない。特に、博物館と学校との相互の利用開発が大切である。

- ・学校との連携内容は、固定的なものではなく、実践の積み重ねや学校の要望または博物館の体制などによって改善や変更がなされるものであり、さらに事業を拡大することもできる。

このような考えのもと、博物館と学校との連携の分野において、常に高い評価をいただいている当館であるが、開館以来、順調に増えていた学校団体の入館者数が平成16年度の1,055校、88,481人をピークに下降線を描き出した。平成17年度は、995校、80,105人、平成18年度は、890校73,635人となっている。社会からは「基礎学力の充実」「授業時数の確保」、保護者からは義務教育での経費削減が望まれている昨今、博物館を利用した学習の機会が今後、減少していくことも予想される。博物館は繰り返し利用されることで、その教育効果が発揮されると考えるが、このような状況の中、次代を担う子どもたちが、よき博物館の利用者となるように、より効果的な学校連携のあり方をさぐる必要がある。そこで、滋賀県内および琵琶湖淀川流域学校へのアンケート調査や他館のワークシート・学校団体利用の手引き収集ならびに博物館教員・ミュージアムティーチャーの在籍する他園館との情報交換、博物館・動物園・水族館教育関係研究会・シンポジウムへの参加を行った。事業面では、昨年度試行した「教員のための博物館利用講座」を本格的に事業化し、年間6回の計画で実施した。開催時期により、参加者がなく、5回の開催となったが、参加者には、たいへん好評で、次年度もぜひ続けて欲しいという要望があった。昨年度より引き続き開催した他の教員・地域指導者向け講座も好評で、定員をオーバーしたものもあった。

学校教員対象のアンケート調査については、以前にも行われてきたが、今回初めて県外の学校にもアンケートを依頼した。当館にどのようなサービスを期待するか、という設問では、昼食場所、交通手段などのハード面と体験学習やワークシートなどのソフト面に分けられるが、ソフト面では、意外とワークシートの要望は少なく、事前指導資料の提供が求められている。また、体験学習について、内容は高い評価をいただいているが、受け入れ人数の拡充の要望など、ハード面がネックとなっている。今後は琵琶湖博物館の理念に基づいた、短時間（例えば30分）の体験学習プログラムの開発も必要なのではないかと考える。

どのような知識を深めて欲しいか、という設問では、小学校は多様な教科での学習目標が設定されるが、中・高等学校は、教科担任制のためか、学習目標が特化することがわかる。環境・生き物をキーワードに当館を利用される学校が多い。C 展示室「環境とは何だろう」の展示について、よく博物館を利用する先生方には高い評価をいただいているが、素通りしてしまう生徒も多い。うまく誘導するようなワークシートの開発も必要である。

今年度まで築いてきた、他の園館の博物館教員・ミュージアムティーチャーとのネットワークをさらに拡大し、研修会をひらけるような組織にしていきたい。

印刷物

【専門分野の著作】

中村公一（2007）琵琶湖博物館の10年．*滋賀科学*，滋賀県高等学校理科教育研究会：1-2．

【一般向けの著作】

中村公一（2006）学校と博物館との連携．*琵琶湖博物館研究部10年の歩み*，琵琶湖博物館：105-106．

中村公一（2006）つながる・ひろがる博物館 地域社会・学校教育との連携．企画展でふりかえる琵琶湖博物館の10年，琵琶湖博物館：48-49．

中村公一（2006）化石をさわってみよう．*2006年青少年のための科学の祭典「滋賀大会ハンドブック」*，2006年青少年の科学の祭典滋賀大会実行委員会：89．

中村公一（2006）指導者がまず体験．*うみんど*，41，琵琶湖博物館：1-3．

中村公一（2007）プログラム集発行に際して．森永紗江子・肥山陽子・青木伸子（編），*体験プログラム集「びわたん」からの招待状*，琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」：55．

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中村公一（2006年5月27日）野外教育・環境教育が育むところとからだ．「自然体験で人・地域の活性化を考える」びわこフォーラム，びわこ成蹊スポーツ大学 NPO 法人比良比叡自然学校，びわこ成蹊スポーツ大学（滋賀県大津市），[口頭発表・パネリスト]．

中村公一（2006年11月16日）琵琶湖博物館でのプランクトン観察体験学習について．滋賀県中学校理科研究発表大会・滋賀県総合教育センター第4回理科教育講座，滋賀県中学校教育研究会・滋賀県総合教育センター，彦根南中学校（滋賀県彦根市），[口頭発表]．

中村公一（2007年1月20日）学校と博物館との連携について．第12回琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館 [口頭発表]．

中村公一（2007年2月16日）博物館と学校とのよりよい連携のあり方を求めて．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館 [口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

滋賀県総合教育センター平成18年度環境教育に関する研究II「エネルギーについて主体的に考える指導法の工夫（研究担当：中川浩伸）」，研究委員（2006年5月19日～2007年5月）．

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006年9月～2007年2月，木下裕也（滋賀大学教育学部生），卒業論文「ようこそゲストティーチャー！！～琵琶湖博物館と連携した体験学習プログラムの実践～」助言指導．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2006年4月～2007年3月，「紙すきをしよう」等12講座，「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（毎月第2第4土曜日開催），琵琶湖博物館，担当，21件，（平山一造氏、武田 繁氏、はしかけグループと共同）．

2006年4月～2007年1月，指導者のための博物館利用講座，教員・地域活動指導者向け博物館講座，琵琶湖博物館，

担当, 5 件.

2006 年 7 月 27 日～28 日, 先生のための湖沼学基礎講座, 教員・地域活動指導者向け博物館講座, 琵琶湖博物館, 担当, 2 件.

2006 年 7 月 29 日・31 日, 夏休み「生き物飼いか講座」, 教員向け博物館講座, 琵琶湖博物館, 担当, 2 件.

2006 年 8 月 1 日, 先生のための川の生き物調査, 教員・地域活動指導者向け博物館講座, 館外, 担当.

2006 年 4 月～2007 年 3 月, びわたん, はしかけ活動, 博物館および館外, グループ担当, 45 件.

2006 年 4 月～2007 年 3 月, 学校等標本貸出事業, 標本貸し出し, 琵琶湖博物館, 担当, 6 件.

2006 年 5 月 12 日, 学校連携について, JICA 博物館学研修集中コース, 琵琶湖博物館, 事業説明.

2006 年 5 月 13 日, 琵琶湖博物館わくわく探検隊事業について, JICA 博物館学研修集中コース, 琵琶湖博物館, 事業説明・体験.

2006 年 11 月 15 日, 学校連携について, JICA 博物館学研修集中コース, 琵琶湖博物館, 体験学習説明.

2006 年 8 月 5 日・10 日, 学校連携の実際業務, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 指導, 2 件.

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 4 月～2007 年 3 月, 学校団体向け体験学習, 県内県外各小中高等学校障害児教育諸学校, 学校団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, 360 件 (142 校) 11,381 名.

2006 年 4 月～2007 年 3 月, 一般団体向け体験学習, 各団体, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, 43 件 (32 団体) 1,250 名.

2006 年 4 月～2007 年 3 月, ふるさとの自然探検, こどもエコクラブ「伯母Q五郎」, 草津市志津地域との連携活動, 草津市内の河川および琵琶湖, アドバイザー, 10 件.

2006 年 5 月 11 日, 博物館と学校との連携について, 滋賀県中学校理科部会, 滋賀県中学校理科部会研究委員総会, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 5 月 11 日, 博物館と学校との連携について, 滋賀県総合教育センター, 第 1 回理科教育講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 5 月 12 日, 琵琶湖の水環境について, 滋賀県大津市生涯学習課, 現地研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 6 月 29 日, 琵琶湖の水環境について, 愛知県大府市教育委員会, 社会教育研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 7 月 13 日, 博物館と学校との連携について, 大阪府豊中市教育委員会, 中学校理科技術職員等研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 7 月 23 日, ペタペタ探検隊, 佐川美術館, SAGAWA キッズミュージアム, 佐川美術館 (守山市), 講師.

2006 年 8 月 2 日, 博物館と学校との連携について, 滋賀県小学校教育研究会, 生活科部会研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 8 月 3 日, 琵琶湖博物館での体験学習, 滋賀県中学校理科部会, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, アドバイザー.

2006 年 8 月 9 日, 博物館と学校との連携について, 滋賀県教育委員会, 平成 18 年度環境教育研究協議会, 琵琶湖博物館, アドバイザー.

2006 年 8 月 11 日, プラント観察・琵琶湖の概要, 滋賀県環境学習支援センター, 企画者のための環境学習体験講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 8 月 22 日, 博物館と学校との連携について, 守山市教育委員会, 理科部会研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 8 月 24 日, 博物館と学校との連携について 琵琶湖の概要, 滋賀県総合教育センター, 環境科学講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 8 月 25 日, 博物館と学校との連携について 化石レプリカづくり, 滋賀県教育委員会, 理数大好きモデルスクール研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 8 月 28 日, 琵琶湖博物館での体験学習, 滋賀県草津市老上小学校, 校内研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 9 月 12 日, 博物館と学校との連携について, VJC, VJC 台湾教育関係者招請旅行団, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 9 月 21 日, 博物館と学校との連携について, 愛知県豊橋市教育委員会, 社会教育委員連絡協議会研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 9 月 28 日, 博物館と学校との連携について プラクトン模型づくり, 滋賀県総合教育センター, 10 年経験者研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 10 月 12 日, 博物館と学校との連携について, 滋賀県草津市教育委員会, 中国上海市教育代表団研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 10 月 24 日, 博物館と学校との連携について プラクトン模型づくり, 滋賀県総合教育センター, 10 年経験者研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 11 月 8 日, 博物館と学校との連携について, モンゴル教育視察団, モンゴル教育視察団, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 11 月 7 日, 博物館の仕事について, 草津市立新堂中学校, 職場体験, 琵琶湖博物館, 受け入れ側担当.

視察対応

2007 年 1 月 10 日, 教育普及活動について, 美濃加茂市民ミュージアム.

2007 年 1 月 18 日, 教育普及活動について, 山口県立山口博物館.

2007 年 2 月 1 日, 教育普及活動について, 静岡県環境衛生科学研究所.

2007 年 2 月 2 日, 教育普及活動について, ふくしま海洋科学館.

2007 年 3 月 1 日, 教育普及活動について, ふくしま海洋科学館.

2007 年 3 月 16 日, 教育普及活動について, 群馬県立自然史博物館.

メディアへの協力

2006 年 6 月 21 日, あいあい AI 滋賀, わくわく探検隊, (2006 年 6 月 10 日取材).

2006 年 7 月 2 日, 読売新聞, 夏休み期間中の学校・園教員地域活動指導者対象博物館講座の開催について, (2006 年 6 月 30 日取材).

2006 年 7 月 15 日, 朝日新聞, 夏休み期間中の学校・園教員地域活動指導者対象博物館講座の開催について, (2006 年 7 月 11 日取材).

2006 年 9 月 6 日, あいあい AI 滋賀, わくわく探検隊について, (2006 年 8 月 31 日取材).

2006 年 12 月 1 日, KBS 京都ラジオ, 知っとこ滋賀, わくわく探検隊について, 生放送電話出演.

2006 年 12 月 8 日, びわ湖放送, わくわく探検隊について, (2006 年 12 月 7 日取材).

2007 年 1 月 9 日, 読売新聞, わくわく探検隊について, (2006 年 12 月 14 日取材).

2007 年 4 月 3 日, 読売新聞, わくわく探検隊について, (2007 年 3 月 23 日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006 年 10 月 3 日～15 日 新空間「はしかけ・フィールドレポーター 九博へ行く!」, 調整・展示・管理.

2006 年 12 月 3 日～12 月 5 日, 平成 18 年滋賀県県民環境学習のつどい, 企画・調整・展示.

2006 年 12 月 23 日～2007 年 2 月 18 日, ギャラリー展「企画展でふりかえる琵琶湖博物館 10 年のあゆみ」, 企画・調整・展示・管理.

2007 年 3 月 25 日～4 月 8 日, 新空間「はしかけ・フィールドレポーター紹介」, 企画・調整・展示・管理.

モーニングレクチャー, 講演, 3 回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006 年度，理数大好きモデル地域推進事業，推進委員．

2006 年度，琵琶湖博物館子ども体験教室実行委員会，副実行委員長．

主査

研究部博物館学研究担当
(兼) 事業部交流担当

子どもたちは、かつて身近な自然のなかで環境をありのままに認識し、豊かな感性を身につけてきた。しかし、近年、子どもたちを取り巻く環境が変化し、環境学習の礎となる様々な自然体験だけでなく、人々とのふれあひなどが希薄化している。そうしたなか、科学技術・理科大好きプラン関連施策に環境学習推進「グリーンプラン」(文部科学省、環境省連携施策)が取り上げられ、社会的関心が高まりつつある。

琵琶湖博物館に赴任し、自らの研究活動として、まずは環境学習を取り巻く現状をレビューした。そのなかで、ベオグラード憲章では、次のことが明記されている。環境学習の目的は、「今日的な課題の解決と新たな課題の防止に向けて、個人的・集団的に活動する上で必要な知識、技能、態度、実行力を身につけた人々を世界中で育成すること」である。一方、日本では、国立教育政策研究所(2007)が「持続可能な社会の構築を目指して、よりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境への責任ある行動をとることができる態度を育成すること」を、また、冒頭の「グリーンプラン」でも「リサイクル活動など責任をもって環境を守るための行動がとれる」ことを目的としている。したがって、これからの環境学習は、体験的・課題解決的であることはもちろん、子どもたちの実行力すなわち環境に配慮した行動を進んでとろうとすることを促す学習が求められる。つまり、こうした児童生徒の環境配慮行動を促す環境学習を開発・推進するためには、子どもの環境保全に対する実行力が、どんな認知や自己評価にもとづいているのかということさをさぐる必要があり、それら検証のものさしとなる心理尺度を構成しようとした。

琵琶湖博物館の研究としては、日本理科教育学会等の知見をベースに小学校高学年から中学生を対象とした環境学習における心理尺度の構成を試みている。これは、広瀬(1995)が提示したモデルに、小池ら(2003)の示したメタ認知的要因(古屋・戸松, 2006)がどのように関わるかをさぐろうとしたものである。

本年度は、その予備調査として、県内の小中学校7校(n=796)を対象にデータ収集し、原尺度の妥当性ならびに信頼性を確かめた。環境認知、行動評価両原尺度に対する回答に基づいて、それぞれに因子分析を行った。固有値のプロットも参考にしながら、ふさわしい因子解でそれぞれ試み、その中で比較的適切かと思われる因子解について検討した。その結果、どの因子にも高い負荷量を示さない項目などがそれぞれ数項目あった。そこで、それらを除いた上で再度分析を行った。固定値の開きを参考にした上で、各々3因子解を採用し、バリマックス回転を行った。単一因子に.41以上の因子負荷量を示すことを基準に項目を検討した結果、該当の因子解を採用した。

さて、行動評価原尺度について先行研究では、発達段階が進むにしたがい、因子構造が変わる可能性が示唆されている。そこで、小中学校における違いを明らかにするために、前述と同じ手続きをとった。その結果、それぞれの原尺度は、因子妥当性を有するとともに、先の分析結果との比較から基準関連妥当性を有する尺度であることが確認された。他方、各原尺度の質問項目について、Item-Remainder 相関ならびにCronbachの α 係数を求めた。さらに、各項目の弁別力を検討するために、各々G-P分析を行った。その結果、各原尺度のいずれも内的整合性が確認され、弁別力を有することが確かめられた。また、再検査法による信頼性係数を算出した結果、いずれの原尺度も係数が高く、時間的な安定が確かめられた。以上の尺度において、性、学校を独立変数とする2要因分散分析ならびに学年を独立変数とする分析を行った。その結果、いずれの群間でも有意な差は見られず、個々の要因分析につながる分析対象の等質性が確認された。

次に、児童の環境配慮行動をうながす要因分析を行った。ここでは、広瀬、小池らの研究を参考としながらも、対象を小中学生とし、さらに一般的かつ具体的な環境配慮行動にいたる認知要因の関わりを明らかにしながら、小池モデルの「知っている」という認識を広瀬モデルへも対応させた形での検証を行った。具体的には、前述の研究で得られた尺度要因それぞれの関わりを重回帰分析等で検討した。その結果、広瀬モデルがサンプル対象年代でも、概ね成り立つこと、環境認知・行動評価要因とメタ認知的要因との関わりが示唆されること、児童の規範感が環境保全態度の形成に関わる、つまり大人の期待や行動が子どもへと影響することが明らかとなった。加えて、小中学

生とともに環境配慮行動に直接影響する規定因として行動評価が挙げられた。このことから環境問題に対する子どもの実行可能感などをより望ましい方向へと導く学習の工夫が求められることがわかった。今後は、琵琶湖博物館に訪れる児童生徒の半数以上が県外であることを踏まえ、より高い妥当性を得るために、対象サンプルを淀川集水域などへ広げることも検討したい。

最後に、琵琶湖博物館基本理念を反映した尺度の構成を試みた。調査の属性や手続きについては、前述の研究にほぼ準ずる。分析の結果、原尺度の妥当性と信頼性が確かめられた。ただ、今後、より高い信頼性を得るために、データ収集地域や時期を適宜変えながら分析を進めていきたいと考えている。

(引用文献)

古屋光一・戸松一美 (2006) 自己評価と科学的概念形成の関係に関する基礎的研究. 理科教育学研究, 46 (3) :65-73.

広瀬幸雄 (1995) 環境と消費の心理学. 名古屋大学出版会.

小池俊雄・吉谷崇・白川直樹・中央学術研究所/環境問題研究会 (2003) 環境問題に関する心理プロセスと行動に関する基礎的考察. 水工学論文集, 47 : 361-366.

国立教育政策研究所 (2007) 環境教育指導資料 (小学校編) : 3-6.

印刷物

【一般向けの著作】

中野正俊 (2007) プログラム集発行に際して. 森永紗江子・肥山陽子・青木伸子(編), 体験プログラム集「びわたん」からの招待状, 琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」: 54.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

中野正俊 (2005) 理科好きへ学びに手応えをー発展的・補充的理科学習指導の工夫ー. 第20回東書教育賞入賞論文集, 東京書籍 : 16-18.

中野正俊 (2005) 瀬田・宇治・淀川水系をメディアでつなぐ学びの共同化ー理科の基礎・基本から総合的な学習へー. 松下教育研究助成成果報告集, 松下教育財団 : 47-49.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中野正俊 (2006 年 5 月 23 日) 教員の資質向上をめざした研修体制の確立. 理数大好きモデル地域事業研修会, 滋賀県教育委員会, 滋賀合同ビル (滋賀県大津市), [口頭発表].

中野正俊 (2006 年 8 月 4 日) 教材開発「ピンホールカメラで撮影しよう」. 夏期教員研修会-きっかけは本物との出会い-, 滋賀県教育委員会, MIHO MUSEUM (滋賀県甲賀市), [口頭発表].

中野正俊 (2007 年 2 月 17 日) 環境学習における児童生徒の心理過程にかかる考察. 滋賀大学大学院学校教育専修教育心理学教室修士研究交換会, 滋賀大学教育情報学教室 (滋賀県大津市), [口頭発表].

中野正俊 (2007 年 3 月 16 日) 琵琶湖博物館と学校の交流・連携に関わる実践的研究. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

滋賀県総合教育センター平成 18 年度環境教育に関する研究「森林とその保全の重要性を学ぶ環境学習・森林のはたらきを実感できる教材・教具の工夫を中心にー」(研究担当: 井野勝行), 研究委員 (2006 年 5 月 19 日ー2007 年 5 月).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006年9月～2007年2月、木下裕也（滋賀大学教育学部生）、卒業論文「ようこそゲストティーチャー！！－琵琶湖博物館と連携した体験学習プログラムの実践－」助言指導。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2006年4月～2007年3月、「紙すきをしよう」等12講座、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（毎月第2第4土曜日開催）、琵琶湖博物館、担当、21件、（平山一造氏、武田繁氏、はしかけグループと共同）。

2006年4月～2007年1月、指導者のための博物館利用講座、教員・地域活動指導者向け博物館講座、琵琶湖博物館、担当、5件。

2006年7月27日～28日、先生のための湖沼学基礎講座、教員・地域活動指導者向け博物館講座、琵琶湖博物館、担当、2件。

2006年7月29日・31日、夏休み「生き物飼いか講座」、教員向け博物館講座、琵琶湖博物館、担当、2件。

2006年8月1日、先生のための川の生き物調査、教員・地域活動指導者向け博物館講座、琵琶湖博物館、担当。

2006年4月～2007年3月、びわたん、はしかけ活動、琵琶湖博物館、グループ担当、21件。

2006年4月～2007年3月、学校等標本貸出事業、標本貸し出し、琵琶湖博物館、担当、6件。

2006年5月12日、学校連携について、JICA博物館学研修集中コース、琵琶湖博物館、事業説明。

2006年5月13日、琵琶湖博物館わくわく探検隊事業について、JICA博物館学研修集中コース、琵琶湖博物館、事業説明・体験。

2006年11月15日、学校連携について、JICA博物館学研修集中コース、琵琶湖博物館、体験学習示範。

2007年3月14日～2007年3月20日、学校サテライト博物館の実験、学校サテライト博物館のパイロット実践、野洲市立野洲北中学校理科室、企画、運営。

他の博物館・機関等主催行事

2006年4月～2007年3月、学校団体向け体験学習、県内県外各小中高等学校障害児教育諸学校、学校団体向け体験学習、琵琶湖博物館、講師、360件（142校）11,381名。

2006年4月～2007年3月、一般団体向け体験学習、各団体、団体向け体験学習、琵琶湖博物館、講師、43件（32団体）1,250名。

2006年4月～2007年3月、ふるさとの自然探検、こどもエコクラブ「伯母Q五郎」、草津市志津地域との連携活動、草津市内の河川および琵琶湖（草津市）、アドバイザー、10件。

2006年5月11日、博物館と学校との連携について、滋賀県中学校理科部会、滋賀県中学校理科部会研究委員総会、琵琶湖博物館、講師。

2006年5月11日、琵琶湖の魚を活用した理科学習・・・外来魚調理実習・・・、滋賀県総合教育センター、第1回理科教育講座、琵琶湖博物館、講師。

2006年6月29日、琵琶湖の水環境について、愛知県大府市教育委員会、社会教育研修、琵琶湖博物館、講師。

2006年7月13日、博物館と学校との連携について、大阪府豊中市教育委員会、中学校理科技術職員等研修、琵琶湖博物館、講師。

2006年8月2日、博物館と学校との連携について、滋賀県小学校教育研究会、生活科部会研修会、琵琶湖博物館、講師。

2006年8月3日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県中学校理科部会、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、アド

バイザー。

2006 年 8 月 9 日，博物館と学校との連携について，滋賀県教育委員会，平成 18 年度環境教育研究協議会，琵琶湖博物館，アドバイザー。

2006 年 8 月 11 日，プランクトン観察・琵琶湖の概要，滋賀県環境学習支援センター，企画者のための環境学習体験講座，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 8 月 22 日，博物館と学校との連携について，守山市教育委員会，理科部会研修，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 8 月 24 日，博物館と学校との連携について，琵琶湖の概要，滋賀県総合教育センター，環境科学講座，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 8 月 25 日，博物館と学校との連携について，化石レプリカづくり，滋賀県教育委員会，理数大好きモデルスクール研修会，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 9 月 12 日，博物館と学校との連携について，VJC，VJC 台湾教育関係者招請旅行団，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 9 月 21 日，博物館と学校との連携について，愛知県豊橋市教育委員会，社会教育委員連絡協議会研修会，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 9 月 28 日，博物館と学校との連携について，プランクトン模型づくり，滋賀県総合教育センター，10 年経験者研修，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 10 月 12 日，博物館と学校との連携について，滋賀県草津市教育委員会，中国上海市教育代表団研修，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 10 月 24 日，博物館と学校との連携について プランクトン模型づくり，滋賀県総合教育センター，10 年経験者研修，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 10 月 27 日，学校サテライト博物館展示物の構想について，野洲市立野洲北中学校，職場体験，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 11 月 8 日，博物館と学校との連携について，モンゴル教育視察団，モンゴル教育視察団，琵琶湖博物館，講師。

2006 年 11 月 9 日，展示キャプションづくりについて（実習を含む），草津市立新堂中学校，職場体験，琵琶湖博物館，講師。

2007 年 2 月 16 日，理数大好きモデル地域事業最終年度へ向けて，滋賀県総合教育センター，平成 18 年度理数大好きモデル地域事業研究協議会，滋賀県総合教育センター（野洲市），アドバイザー。

視察対応

2007 年 1 月 10 日，教育普及活動について，美濃加茂市民ミュージアム。

2007 年 1 月 14 日，教育普及活動について，埼玉医科大学。

2007 年 1 月 18 日，教育普及活動について，山口県立山口博物館。

2007 年 2 月 1 日，教育普及活動について，静岡県環境衛生科学研究所。

2007 年 2 月 2 日，教育普及活動について，ふくしま海洋科学館。

2007 年 3 月 1 日，教育普及活動について，ふくしま海洋科学館。

2007 年 3 月 16 日，教育普及活動について，群馬県立自然史博物館。

メディアへの協力

2006 年 6 月 21 日，あいあい AI 滋賀，わくわく探検隊，インタビュー，（2006 年 6 月 10 日取材）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006 年 4 月 1 日～2006 年 4 月 9 日，ギャラリー展「子どもが見つめるふるさとの川」，企画・調整・展示・管理。

2006 年 12 月 3 日～2006 年 12 月 5 日，平成 18 年滋賀県県民環境学習のつどい，企画・調整・展示。

2006 年 12 月 23 日～2007 年 2 月 18 日，ギャラリー展「企画展でふりかえる琵琶湖博物館 10 年のあゆみ」，企画・調整・展示・管理.

2007 年 3 月 25 日～2007 年 4 月 8 日，新空間「はしかけ・フィールドレポーター紹介」，企画・調整・展示・管理.
モーニングレクチャー，講演，3 回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006 年 4 月～2007 年 3 月，滋賀県総合教育センター専門研究委員会，研究委員.

2006 年 4 月～2007 年 3 月，琵琶湖博物館子ども体験教室実行委員会，委員.

民俗学部門担当の学芸員として、開館以来、民俗資料の収集・整理・利用、民俗分野に関する交流・情報・展示の各事業を担当している。ここ2～3年は、伝統的な日本の暮らしを探究して得られた成果をこれからの社会に大いに役立てられるのではないかという見通しをもって、はしかけグループ「近江はたおり探検隊」「展示室を楽しくする会」の活動を進めてきた。前者では、綿の栽培も3年目になり、道具も一とおり揃い、昔ながらの道具を使って綿から糸を紡いで布を織る技もみんなで高めあえてきた。そこで、今年度は、民俗資料整理担当、辻川囑託員を中心に琵琶湖南部地域特有の縞柄の木綿を織ることを目標にした「野良着部会」を立ち上げ、意欲のある会員とともに活動を進め、縦の縞や緋の反物を織り上げることができた。また、後者では、生活実験工房の田畑の管理を中心とする「工房に集う会」を毎月1回程度開催し、工房担当の北川囑託員指導のもと、例年の昔ながらの道具を使った田植え、草取り、稲刈り、脱穀、もちつき、わら細工づくりに加え、県内特産の「万木（ゆるぎ）カブ」の栽培・漬物づくりを行った。こうした研究成果を実践的に活かしていく活動を進めていくうちに、それが実際にどれほど人々に生きる力を与えるかを痛感している。

今年度は研究発表の機会は少なかったが、本館民俗資料の整備活動の10年を振り返ってまとめた論考「滋賀県民俗文化財の整理・活用と今後の可能性-琵琶湖博物館における民具資料の利用価値の再発掘-」を淡海文化財論叢に掲載することができた。

また、出身大学の研究室の会報に「博物館学芸員としての大きな志」と題した文章を掲載する機会を与えていただき、以下のように思いをつづった。

国立大学も独立法人化し、博物館・美術館といった文化施設も独立法人化・指定管理者制度が導入される近年、研究機関・文化施設の存在意義が問われている。そんな中、私は（博物館学芸員として）、地域の人々にとってなくてはならない存在となり、維持費を有志が負担してでも人々が残そうとする、そんな博物館を目指している。地域に残る財産を地域の人々が利用可能な状態できちんと保管しておくことこそが、博物館の基盤。さまざまな層の人々といっしょにその価値を次の世代へ伝え、将来へ役立てていく活動をこれからも続けていきたい。

事業部の所属は総務部企画調整課に移ったが、昨年度に引き続き、電子メールによる質問対応・来館者アンケートの担当として、外部から博物館に寄せられるさまざまなご意見を受け止め対応する業務を行った。対応といっても単なる質問回答で終わることがほとんどであるが、的確なご指摘を受けたときには速やかに柔軟に改善を行いたい。我々と共に博物館を創ってくれる利用者を発掘し協働することは、とても大切なことだからである。

これからしばらく出産で休職することになるが、その間、せいぜい、子どもをもつ母親の立場で地域のいろんな施設を利用してみるつもりである。そして、来年度復職後、その経験を活かして、気持ちも新たに、館内外の同じ志を持つ者とともに学芸員業務に邁進したい。

印刷物

【学術論文】

中藤容子（2007）滋賀県民俗文化財の整理・活用と今後の可能性-琵琶湖博物館における民具資料の利用価値の再発掘-。淡海文化財論叢，2，淡海文化財論叢刊行会：247-252。

【一般向けの著作】

中藤容子（2006）「竹の利用法調査」調査報告。フィールドレポーターだより，（26），琵琶湖博物館：1。

中藤容子（2006）博物館学芸員としての大きな志．京都大学地理学談話会会報，17，京都大学文学部地理学教室：8-11.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中藤容子（2006年12月13日）博物館の使命と民俗担当学芸員の挑戦．第27回近江はたおり研究会，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「博物館における民具資料の存在意義と利用価値の再発見」，（2004年度～）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館8件．

2006年4月15日～2007年3月14日，織姫の会・野良着部会，琵琶湖博物館，はしかけ活動，36回．

2006年4月12日～2007年2月5日，近江はたおり研究会（第22回～第28回），琵琶湖博物館など，はしかけ「近江はたおり探検隊」活動，7回．

2006年6月14日，はたおり探検，山城郷土資料館・奈良晒保存会，はしかけ「近江はたおり探検隊」活動．

2006年5月7日～2007年2月14日，工房に集う会など，琵琶湖博物館，はしかけ「展示室を楽しくする会」活動，18回．

2006年7月8・22日，青花を使って染めものをしよう，わくわく探検隊，琵琶湖博物館，はしかけ「近江はたおり探検隊」活動，2回．

2006年8月7日，博物館実習，民具資料の整理・保管と活用方法，琵琶湖博物館．

2006年8月10日・2007年1月27日，指導者のための博物館利用講座，琵琶湖博物館，副担当．

2006年9月8・22日，綿から糸をつくろう，わくわく探検隊，琵琶湖博物館，はしかけ「近江はたおり探検隊」活動，2回．

2006年12月9日，富江家発見ブックづくり，わくわく探検隊，琵琶湖博物館．

他の博物館・機関等主催行事

2006年6月13日，びわこの魚のとり方、食べ方，若鮎保育園（守山市），園外学習，琵琶湖博物館．

2006年8月9日，綿から糸を紡ぐ体験，県内教員研修，琵琶湖博物館．

2006年10月16日，湖の幸・畑の幸を楽しむ，NPO子どもネットワークセンター天気村，こんぺいとうクラブ親子遠足，琵琶湖博物館．

2006年11月4日・5日・11日，糸紡ぎ体験会（綿と機織りの会），守山市民交流センター，第2回もりやま市民活動屋台村，守山市民交流センター（守山市），はしかけ「近江はたおり探検隊」協力．

メディアへの協力

2006年6月号，染織と生活社，染織α，和綿普及に努める人々ー全国和綿活動MAP．

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗データベース（Web 公開版）の整備，主担当．

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗収蔵庫維持管理業務，主担当．

環境収蔵庫維持管理業務，副担当．

民俗・環境資料の収集・受入，主担当．

民俗・環境資料の整理・登録，主担当．

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3 回．

2006 年度，常設展示 B 展示室「湖に生きる人々」コーナー管理，主担当．

屋外展示生活実験工房の畑に綿・苧麻・藍・青花を栽培，はしかけ「近江はたおり探検隊」活動．

2007 年 3 月 25 日～4 月 8 日，集う、使う、創る 新空間「はしかけ・フィールドレポーター活動紹介」，近江はたおり探検隊・展示室を楽しくする会の担当．

他博物館・機関の活動

綿と機織りの会，2006 年 11 月 4 日～11 月 11 日，第 2 回もりやま市民活動屋台村，ポスターと機織り用具の展示・実演，はしかけ「近江はたおり探検隊」協力．

【企画調整活動】

新人職員研修，2006 年 4 月 18 日，琵琶湖博物館 B 展示室紹介．

電子メールによる質問対応，主担当，2006 年度．

来館者アンケート，主担当，2006 年度．

業績目録出版，主担当，2006 年度．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2006 年度，ショップ会議担当．

2007 年 1 月 31 日～，出産前・後休暇．

印刷物

【専門分野の著作】

青木伸子（2006）フォーラム4「まちに生きる博物館-地域文化の中核となるために-」報告．博物館研究，42（2），日本博物館協会：16.

【一般向けの著作】

青木伸子（編）（2006）フィールドに飛び出そう！．体験プログラム集「びわたん」からの招待状，琵琶湖博物館：33-34.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

青木伸子（2006年6月16日）「博物館における環境教育-琵琶湖博物館を事例に」についての検討．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

青木伸子（2006年7月30日）琵琶湖博物館わくわく探検隊と「びわたん」との協働について．文化ボランティア研修会，財団法人滋賀県文化振興事業団（しが文化芸術体験サポートセンター）他，滋賀会館（大津市），[口頭発表].

【受賞など】

平成18年度棚橋賞，青木伸子・北村美香，2006年11月16日，博物館研究41（2）掲載論文：琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」の活動紹介-博物館における協働モデルの提示-.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2006年4月～2007年3月，「紙すきをしよう」他10件，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，主担当，21件，（平山一造氏、武田 繁氏、はしかけグループ「びわたん」、「近江機織探検隊」、「うおの会」共同），

2006年4月～2007年3月，びわたん，はしかけ活動，琵琶湖博物館，担当，45件.

2006年4月～2007年3月，一般団体館内利用支援，琵琶湖博物館，主担当.

2006年4月～2007年3月，地域・一般団体館外利用支援，琵琶湖博物館，副担当.

2006年10月8日，魚のくらしにふれてみよう，企画展示関連行事観察会，守山市内の川，担当，（はしかけグループ「びわたん」「うおの会」共同）.

他の博物館・機関等主催行事

- 2006 年 4 月～2007 年 3 月，学校団体向け体験学習，県内外各小中高等学校障害児教育養護学校，学校団体向け体験学習，琵琶湖博物館，講師，360 件（142 校）11,381 名。
- 2006 年 4 月～2007 年 3 月，一般団体向け体験学習，各団体，団体向け体験学習，琵琶湖博物館，講師，43 件（32 団体）1,250 名。
- 2006 年 4 月 1 日，ヨシ笛作り，株式会社高島屋京都店，きっずさーかすクラブ，琵琶湖博物館，講師。
- 2006 年 5 月 28 日，ヨシ笛作り，葎屋子供育成会，子ども会行事，琵琶湖博物館，講師。
- 2006 年 7 月 15 日，化石のレプリカをつくろう，真野っ子土曜塾，体験学習，琵琶湖博物館，講師。
- 2006 年 6 月 4 日，ヨシ笛作り，杉浦 2 区子ども会，子ども会行事，琵琶湖博物館，講師。
- 2006 年 6 月 11 日，ヨシ笛をつくろう，社団法人栗東青年会議所，ひとづくりフェスタ 2006，コミュニティーセンター大宝東（栗東市），講師。
- 2006 年 6 月 25 日，化石のレプリカをつくろう，玉津小学校 PTA，体験学習，琵琶湖博物館，講師。
- 2006 年 7 月 30 日，ピンホールカメラで撮ろう，MIHO MUSEUM 他，平成 18 年学校教員向け夏季研修会，MIHO MUSEUM（甲賀市），講師。
- 2006 年 8 月 11 日，ヨシ笛作り，葉山東学童保育所ひよこくらぶ，体験学習，琵琶湖博物館，講師。
- 2006 年 8 月 26 日，草花を使ったしおりを作ろう，甲賀市岩上公民館，子ども公民館親子ふれあい塾，琵琶湖博物館，講師。
- 2006 年 10 月 28 日，交流事業紹介，第 7 回パワフル交流・市民の日実行委員会他，第 7 回パワフル交流・市民の日，草津市役所（草津市），副担当。
- 2006 年 10 月 29 日，ヨシ笛作り，南御蔵山子ども会，子ども会行事，琵琶湖博物館，講師。
- 2006 年 11 月 4 日，化石のレプリカをつくろう，三大字子ども会，子ども会行事，琵琶湖博物館，講師。
- 2006 年 11 月 5 日，化石のレプリカをつくろう，ボイススカウト京都連盟桂川地区長岡 4 団カブ隊，体験学習，琵琶湖博物館，講師。
- 2006 年 11 月 14 日，外来魚調理，伊香立中学校，体験学習，伊香立中学校（大津市），講師助手。
- 2006 年 12 月 16 日，ヨシ笛作り，ダイニックアストロパーク天究館，体験学習，琵琶湖博物館，講師。
- 2007 年 2 月 17 日，青写真を撮ろう，財団法人滋賀県文化振興事業団（しが文化芸術体験サポートセンター）他，平成 18 年度気軽にどこでもアート交流事業，滋賀会館（大津市），講師。
- 2007 年 3 月 28 日，化石のレプリカをつくろう，株式会社高島屋京都店，きっずさーかすクラブ，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

- 2006 年 12 月 10 日，琵琶湖博物館概要説明，近畿・中部東京事務所会。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- モーニングレクチャー，講義，2 回。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2006 年 4 月～2007 年 3 月、コイを作ろう！他 12 タイトル、ディスカバリールームカウンタープログラム、琵琶湖博物館、企画・実施、14 件。

2006 年 4 月 8 日、ギャラリー展示「博物館を楽しもう」、人形劇（はしかけ活動）、琵琶湖博物館、運営。

2006 年 5 月 20 日、ゲンタのたんじょうものがたり、紙芝居（はしかけ活動）、琵琶湖博物館、運営。

2006 年 7 月、七夕はどんな日？、紙芝居、琵琶湖博物館、企画・実施。

2006 年 7 月、世界の湖からこんにちは、カウンタープログラム、琵琶湖博物館、実施（JICA と共同）。

2006 年 8 月 1・8 日、ディスカバリールームの紹介、ガイドンス、制作、博物館実習、琵琶湖博物館、指導、2 件。

2006 年 10 月 5 日、博物館で働く人に会おう、スクールプログラム、琵琶湖博物館、企画・実施（交流担当と共同）。

視察対応

2007 年 1 月 23 日、ディスカバリールーム展示説明、佐川美術館。

メディアへの協力

2007 年 2 月 28 日、NHK、おうみ発 610、ディスカバリールーム紹介、(2007 年 2 月 28 日取材)。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義・分担、3 回。

展示交流員と話そう（影絵であそぼう）、指導。

展示交流員と話そう（折り紙で伝承遊び）、指導。

2006 年度、ディスカバリールーム維持管理・運営、分担。

2006 年 4 月、アリ飼育展示、分担。

2006 年 4 月、「音の部屋」アジアの楽器展示、分担。

2006 年 5 月、黄ナマズ飼育展示、分担。

2006 年 6 月～7 月、カイコ飼育展示、分担。

2006 年 6 月、カブトムシ蛹展示、分担。

2006 年 6 月、「世界の子どもたち、フィンランド」フィンランドの夏休み、企画・展示。

2006 年 7 月、「音の部屋」南米・北米の楽器展示、分担。

2006 年 7 月～2007 年 3 月、「石の下のいきもの・水の中のいきもの」補充用生物レプリカ制作、分担。

2006 年 7 月～2007 年 3 月、「にんぎょうげきじょう」パペット制作、分担。

2006 年 8 月、博物館実習生の作品展示、企画・展示。

2006 年 10 月、バッタ飼育展示、分担。

2006 年 10 月, 「音の部屋」アフリカの楽器展示, 分担.

2006 年 11 月, 「世界の子どもたち、フィンランド」動物のあしあと, 企画・展示.

2006 年 12 月, モリアオガエル飼育展示, 分担.

2007 年 1 月, 「音の部屋」日本の楽器展示, 分担.

2007 年 3 月, ディスカバリーボックス「むかしのどうぐ」リニューアル, 企画・展示.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の主催行事

2006年5月20日～9月30日、講座「古文書は面白い」全8回、奈良市生涯学習財団、平城公民館（奈良市）、講師。

メディアへの協力

2006年5月21日、NHK、たべもの新世紀 セタシジミ特集、セタシジミの和歌について。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料貸出情報の発信、準備、2件。

質問対応補助、琵琶湖博物館、1件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

小牧家資料の整理、指導・実施、約750点。

歴史資料修理保存処理委託、準備・指導、小牧家資料983点。

歴史資料撮影委託、準備・指導。

歴史資料写真・フィルムの整理、実施。

購入歴史資料調査、実施、2件。

受贈候補資料調査、実施。

館蔵資料の貸出（原本及び写真）、準備、2件。

pH測定（特別収蔵庫・映像収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室）、実施、11回。

パッシブインジケータによる環境調査（特別収蔵庫・映像収蔵庫・一時保管庫・器材倉庫）、実施。

温湿度記録計用紙交換（特別収蔵庫・映像収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室・B展示室）、実施、11回。

定期清掃（特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室）、実施、11回。

収蔵庫廊下の定期的清掃体制づくり、企画・調整・実施。

定期清掃（特別収蔵庫前廊下）、実施、3回。

定期清掃（B展示室清掃）、実施、36回。

低酸素濃度殺虫処理法、実施、2件。

防虫防黴調査委託、準備・指導・考察、3回。

結露による壁面カビへのアルコール処理対策、実施、4回。

収蔵庫の二重壁面間へのアルコール噴霧実験、実施、2回。

近江関係散逸古文書の一覧作成、作成。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006 年 4 月 11 日～5 月 7 日，トピック展示「近江の奇祭 鍋冠祭」，企画・調査・準備・実施.

2006 年 12 月 23 日～2007 年 2 月 18 日，ギャラリー展示「企画展でふりかえる琵琶湖博物館の 10 年」，準備.

2007 年 1 月 3 日～2 月 4 日，トピック展示「イノシシ」歴史資料の部，企画・調査・準備・実施.

2006 年度，B 展示室陳列替え，実施，5 件.

2007 年度企画展示準備，文献収集・コイ科魚類関連料理書調査，実施.

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

珪藻液浸標本整理及び仮登録，406 件.

珪藻プレパラート標本整理仮登録，268 件.

無脊椎動物標本仮登録，878 件.

無脊椎動物標本整理，734 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006 年 12 月 20 日，C 展示室生き物コレクション「プランクトン」，展示更新.

2007 年 3 月 22 日，C 展示室生き物コレクション「プランクトン」，展示更新.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2006年4月～2007年3月、コイを作ろう！他11タイトル、カウンタープログラム、琵琶湖博物館、企画・実施、18件。

2006年4月8日、ギャラリー展「博物館を楽しもう」、人形劇（はしかけ活動）、琵琶湖博物館、運営。

2006年5月20日、ゲンタのたんじょうものがたり、紙芝居（はしかけ活動）、琵琶湖博物館、運営。

2006年7月、七夕はどんな日？、紙芝居、琵琶湖博物館、企画・実施。

2006年7月、世界の湖からこんにちは、カウンタープログラム、琵琶湖博物館、実施（JICAと共同）。

2006年8月1・8日、ディスカバリールームの紹介、ガイドンス、制作、博物館実習、琵琶湖博物館、指導、2件。

2006年10月5日、博物館で働く人に会おう、スクールプログラム、琵琶湖博物館、企画・実施（交流担当と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2006年9月23・24日、ボランティアメッセ、九州国立博物館、はしかけ活動、九州国立博物館（福岡県太宰府市）、ポスター発表。

メディアへの協力

2007年5月1日、読売新聞、黄色ナマズについて、（2007年5月1日取材）。

2007年5月1日、NHK天津、黄色ナマズについて、（2007年5月1日取材）。

2007年5月1日、琵琶湖放送、黄色ナマズについて、（2007年5月1日取材）。

2007年5月2日、京都新聞、黄色ナマズについて、（2007年5月2日取材）。

2007年8月22日、京都新聞、博物館実習における実習生の作品について、（2007年8月21日取材）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、指導・分担、3件。

展示交流員と話そう（影絵であそぼう）、指導。

展示交流員と話そう（折り紙で伝承遊び）、指導。

2006年4月～2007年3月、ディスカバリールーム維持管理・運営、分担。

2006年4月、アリ飼育展示、分担。

2006年4月、「音の部屋」アジアの楽器展示、分担。

2006年5月、黄ナマズ飼育展示、分担。

2006年6月～7月、カイコ飼育展示、分担。

2006年6月、カブトムシ蛹展示、分担。

2006年6月、「世界の子どもたち、フィンランド」フィンランドの夏休み、企画・展示。

2006年7月、「音の部屋」南米・北米の楽器展示、分担。

2006 年 7 月～2007 年 3 月、「石の下のいきもの・水の中のいきもの」補充用生物レプリカ制作，分担.
2006 年 7 月～2007 年 3 月、「にんぎょうげきじょう」パペット制作，分担.
2006 年 8 月，博物館実習生の作品展示，企画・展示.
2006 年 10 月，バッタ飼育展示，分担.
2006 年 10 月，「音の部屋」アフリカの楽器展示，分担.
2006 年 11 月，「世界の子どもたち、フィンランド」動物のあしあと，企画・展示.
2006 年 12 月，モリアオガエル飼育展示，分担.
2007 年 1 月，「音の部屋」日本の楽器展示，分担.
2007 年 3 月ディスカバリーボックス「むかしのどうぐ」リニューアル，企画・展示.

特別研究員

印刷物

【学術論文】

北村美香（2006）博物館における広報活動の実態とその役割. *博物館学雑誌*, 2（32）, 全日本博物館学会：1-30.

【専門分野の著作】

北村美香（2006）マーケティング概念による視点からの来館者研究. *京都橘大学文化政策学研究論文集*, 創刊号, 京都橘大学：35-54.

北村美香（2006）博物館における協働モデルの提示. *京都橘大学文化政策学研究論文集*, 創刊号, 京都橘大学：207-218.

北村美香（2006）観覧動線調査の結果と分析, 佐々木 亨(編), *国立民族学博物館・常設展示場における観覧者行動追跡調査に関する報告書*, 国立民族学博物館：8-15.

【一般向けの著作】

北村美香(編)（2006）プログラム、編集後記. *博物館と美術館のワークショップ-SAGAWA キッズミュージアム報告書*, 琵琶湖博物館：58.

北村美香（2006）開発プログラム. *体験プログラム集-びわたんからの招待状*, 琵琶湖博物館：49-51.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

北村美香（2006年4月13日）びわたん活動報告. JICA 博物館学研修集中コース, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

北村美香（2006年9月23日）ボランティア・メッセ IN 九博, 九州国立博物館（太宰府市）, [コメンテーター].

北村美香（2006年10月27日）博物館における協働モデルの提示. 第2回キャリアデザイン学会大会, キャリアデザイン学会, 立命館大学（京都市）, [口頭発表].

北村美香（2006年12月15日）博物館のボランティア活動によるキャリア形成について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

国立民族学博物館常設展示改善プロジェクト「国立民族学博物館常設展示における来館者動向について」（研究代表者：佐々木 亨）, 研究協力者（2006年4月1日～7月1日）.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006年12月, 京都橘大学学部生, 博物館機能論.

【受賞など】

平成18年度棚橋賞, 青木伸子・北村美香, 2006年11月16日, 博物館研究41（2）掲載論文：琵琶湖博物館はしか

けグループ「びわたん」の活動紹介―博物館における協働モデルの提示―。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2006年4月～2007年3月、「紙すきをしよう」他10講座，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，20件。

2006年8月3日，「偏光スコープをつくろう」「ペットボトル顕微鏡をつくろう」，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師。

2006年8月5日，学校連携の実際業務，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2006年8月23日・10月1日，「歯の化石のレプリカをつくろう」，企画展関連イベント，琵琶湖博物館，講師。

2006年10月6日，秋の文様をつくろう，新空間展示関連イベント，琵琶湖博物館，講師。

2006年10月8日，魚のくらしにふれてみよう，観察会，守山市，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2006年7月23日，ぺたぺた探検隊，佐川美術館，SAGAWA キッズミュージアム，佐川美術館（滋賀県守山市），講師。

2006年7月29日，針穴写真を利用したワークショップ，佐川美術館，SAGAWA キッズミュージアム，佐川美術館（滋賀県守山市），講師。

2006年7月30日，プランクトンの模型をつくろう，佐川美術館，SAGAWA キッズミュージアム，佐川美術館（滋賀県守山市），講師。

2006年8月5日，プランクトンの模型をつくろう，ホテルの学校，ワークショップ実施，琵琶湖博物館，講師。

2006年8月6日，植物の形をみよう，佐川美術館，SAGAWA キッズミュージアム，佐川美術館（滋賀県守山市），講師。

2006年11月5日，ヨシ笛をつくろう，滋賀県立蒲生北小学校，環境学習の集い，滋賀県立蒲生北小学校（滋賀県湖南市），講師。

メディアへの協力

2006年11月14日，読売新聞，「師あり弟あり」，インタビュー，（2006年10月6日取材）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006年10月3～15日 新空間「はしかけ・フィールドレポーター 九博へ行く！」，展示，主担当。

特別研究員

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

安井謙介・高橋啓一・野嶋宏二・中嶋雅子（2007 年 2 月）中部更新統浜松累層ナウマンゾウ化石について．日本古生物学会第 156 回例会，日本古生物学会，徳島県立博物館（徳島県徳島市），[ポスター発表]．

野嶋宏二（2006 年 12 月）骨の形態に基づく日本列島産フナ属の種分類．第 15 回・浜名湖をめぐる研究者の会，東京大学大学院農学生命科学研究科附属水産実験所，[口頭発表]．

野嶋宏二（2007 年 3 月）浜松市引佐町谷下産中期更新世の新種フナ化石の模式標本と新種ヤゲワニ化石の生息環境．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]

特別研究員

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

堀田桃子（2006 年 8 月 19 日）マイクロサテライト DNA 分析によるトウヨシノボリ 4 色斑型の遺伝的特性. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講演, 3 回.

特別研究員

印刷物

【学術論文】

水野敏明（2006）外来生物リスク問題と社会的ガバナンスの条件-リスク情報源とリスクリテラシに関する社会調査より-. 環境科学会誌, 19（2）: 177-183.

【専門分野の著作】

水野敏明・中島経夫・琵琶湖博物館うおの会（2006）ラムサール条約登録基準による琵琶湖流域魚類の優先保全地域の評価. 国際湿地再生シンポジウム 2006-湿地の保全再生と賢明な利活用-報告書, 滋賀県水政課, 大津市: 349-350.

水野敏明（2006）外来生物リスクと社会的ガバナンスへの要件. 池田三郎（編）, 独立行政法人 科学技術振興機構 社会技術研究開発事業・公募型プログラム 研究担当「社会技術／社会システム」 平成14年度採択（2002年11月-2005年10月）「新規環境・技術リスクへの社会的ガバナンスの国際比較」研究成果報告書, 独立行政法人 防災科学技術研究所, つくば市: 44-53.

水野敏明（2006）琵琶湖における「人と生き物と湖」の伝統文化と登録湿地としての保全活動. 山口勝秀・古林敏彦・越川敏樹（編）, 宍道湖自然館第12回特別展「ラムサール条約と世界の湿地のいきものたち」展示解説 ラムサール条約と世界の湿地の生きものたち, 島根県立宍道湖自然館ゴビウス・（財）ホシザキグリーン財団, 出雲市: 40-43.

中島経夫・水野敏明・甲斐朋子・北村明子（編）（2007）琵琶湖お魚ネットワーク報告書. WWF ジャパン・琵琶湖博物館うおの会, 草津市: 96p.

佐久間維美・上原和男・水野敏明・小坂育子（2006）湖から陸域までの行政と住民連携による琵琶湖環境改善～コイ科魚類を注目種として～. 国際湿地再生シンポジウム 2006-湿地の保全再生と賢明な利活用-報告書, 滋賀県水政課, 大津市: 328-337.

上原和男・本田幹雄・佐久間維美・水野敏明（2006）湖辺の田んぼが果たす役割（スジシマドジョウ等の生きものの繁殖の場として）. 国際湿地再生シンポジウム 2006-湿地の保全再生と賢明な利活用-報告書, 滋賀県水政課, 大津市: 350-357.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

水野敏明（2006年6月11日）生物多様性へのリスクガバナンス-環境と防災の視点から. 2006年日本公共政策学会10周年記念大会, 日本公共政策学会, 明治大学（東京都千代田区）, [口頭発表].

水野敏明（2007年2月16日）琵琶湖流域におけるブルーギルの生息リスク評価. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

鈴木規慈・原田泰志・前畑政善・水野敏明（2007年3月11日）滋賀県におけるカワバタモロコの生息地の現状. 第44回 魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会, 大阪工業大学（大阪府旭区）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究『魚が確認できない』データに基づく魚類が脅威にさらされている地域の特定と要因の解明」
(研究代表者：水野敏明)，総括・地理情報システム (GIS) による空間解析と多変量統計解析 (2006 年度～)。
琵琶湖博物館総合研究「水田における水域ネットワークの構造と生物群集の関係性に関する研究」(研究代表者：前
畑政善)，共同研究員 (2006 年度)。
総合地球環境学研究所「東アジアの内海の新石器化と現代化：景観の形成史」(プロジェクトリーダー：内山純蔵)，
共同研究員 (2007 年度～)。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006 年 4 月 17 日，滋賀県立大学生，フィールド調査実習の国際的な視点からの意義の解説。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2006 年 6 月 24 日，投網教室，琵琶湖博物館子ども体験教室実行委員会，琵琶湖博物館 わくわく探検隊 ～投網
教室～，琵琶湖博物館，投網の投げ方の指導員。
2006 年 8 月 12 日，来栖地区の芹川自然観察会，多賀町立博物館・琵琶湖博物館・WWF・ブリヂストンびわ湖生命の
水プロジェクト，来栖地区の芹川（滋賀県多賀町），魚類調査指導員（前畑政善氏・金尾滋史氏共同）。
2006 年 9 月 10 日，針江大川自然観察会，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館観察会「カバタを見にいこう」，針江浜・針
江小池地区（滋賀県高島市），魚類調査指導員（秋山廣光氏共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2006 年 4 月 15 日，魚類を中心とする自然観察会，琵琶湖博物館うおの会・(財) ハートランド財団・水と緑の市民
環境会議，近江八幡お魚合同調査（第 37 回琵琶湖博物館うおの会定例調査），白鳥川（滋賀県近江八幡市），
魚類調査指導・講師。
2006 年 4 月 22 日，上級調査員養成講座，彦根市環境保全指導員連絡会議，彦根市環境保全指導員連絡会議総会，
ひこね燦パレス（滋賀県彦根市），講師。
2006 年 5 月 14 日，お魚の自然観察会，琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会・高島市環境エネルギー課，「お魚ふやし
隊」平成 18 年度自然観察会②，新旭町針江（滋賀県高島市），魚類調査指導員。
2006 年 5 月 28 日，お魚の自然観察会，琵琶湖博物館うおの会，第 38 回琵琶湖博物館うおの会定例調査，高島市（滋
賀県高島市），魚類調査員。
2006 年 5 月 28 日，お魚の自然観察会，琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会・高島市環境エネルギー課，「お魚ふやし
隊」平成 18 年度自然観察会③，新旭町針江（滋賀県高島市），魚類調査指導員。
2006 年 6 月 25 日，三重県伊賀市周辺の河川と水路に生息する魚類の自然観察会，琵琶湖博物館うおの会，第 39 回
琵琶湖博物館うおの会定例調査，伊賀市（三重県伊賀市），魚類調査員。
2006 年 6 月 28 日，七郷小学校 5 年生による赤川の生きもの調査，農林水産省近畿農政局新湖北農業水利事業所，
田んぼの生きもの調査，赤川（滋賀県伊香郡高月町），魚類調査指導員。
2006 年 7 月 13 日，[人と自然の共存]生態系と調和した水環境，淡海生涯カレッジ大津校・長良公民館，テーマ：
環境人になろうーびわ湖及びその集水域の環境から身近な自然・文化及び生活について考えてみませんか。
～問題発見講座 3 回目，水環境科学館（滋賀県草津市），講師。
2006 年 7 月 15 日～8 月 27 日，企画展「太田川の自然・環境・ひと」，多賀自然と文化の館・WWF・ブリヂストン

びわ湖生命の水プロジェクト, 多賀自然と文化の館夏の企画展, 多賀町 (滋賀県多賀町), コーディネーター.

2006 年 7 月 22 日, 太田川自然観察会, 多賀自然と文化の館・WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト, 多賀自然と文化の館夏の企画展, 太田川 (滋賀県多賀町), 魚類調査指導員.

2006 年 8 月 2 日, 犬上川の生き物観察会, 快適環境づくりをすすめる会, 川の生き物観察会, 犬上川 (滋賀県彦根市), 魚類調査指導員.

2006 年 8 月 3 日, 経田川自然観察会, 滋賀県小中学校教育研究会環境教育部会, 滋賀県環境教育部会夏季研修会, 経田川 (滋賀県東近江市), 魚類調査指導員・講師.

2006 年 8 月 6 日, 東近江お魚調査隊河辺いきものの森南口付近調査, 東近江市生活環境部生活環境課, 東近江市地域学事業「お魚調査」①, 建部北町 (滋賀県東近江市), コーディネーター・魚類調査指導員.

2006 年 8 月 6 日, ラムサール条約の啓発とさかなの展示, (財) ハートランド推進財団・琵琶湖お魚探検隊, 第 21 回八幡てんびん祭り, 近江八幡市 (滋賀県近江八幡市), 展示補助.

2006 年 8 月 28 日, 東近江お魚調査隊蛇砂川調査, 東近江市生活環境部生活環境課, 東近江市地域学事業「お魚調査」②, 大森町市辺町 (滋賀県東近江市), コーディネーター・魚類調査指導員.

2006 年 9 月 23 日, 東近江お魚調査隊中野大川・清水川調査, 東近江市生活環境部生活環境課, 東近江市地域学事業「お魚調査」③, 小脇町・清水町 (滋賀県東近江市), コーディネーター.

2006 年 10 月 14 日, 東近江お魚調査隊布引川調査, 東近江市生活環境部生活環境課, 東近江市地域学事業「お魚調査」④, 柴原南町・布施町 (滋賀県東近江市), コーディネーター・魚類調査指導員.

2006 年 10 月 15 日, 針江大川川くんだり大会, 針江生水の郷委員会・琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会・針江区, 高島市お魚ふやし隊, 新旭町針江浜 (滋賀県高島市), 魚類調査指導員.

2006 年 10 月 21 日, 琵琶湖お魚ネットワーク・WWF ブリヂストンプロジェクトの活動成果発表, グラウンドワーク東海・近畿・北陸ブロック会議・滋賀県・(財) 日本グラウンドワーク協会・甲良町・水土里ネット滋賀, グラウンドワークフォーラム in しが, 甲良町公民館 (滋賀県甲良町), パネル発表者.

2006 年 10 月 22 日, 身近な水環境～子どもの頃の感動をもう一度～, 彦根市・環境フォーラム湖東, 湖東地域環境シンポジウム・彦根市市民環境フォーラム基調講演, 滋賀県立大学 (滋賀県彦根市), 講師.

2006 年 10 月 22 日, 子どもの頃の感動をもう一度～描こう夢のお魚マップ～, 湖東地域振興局・環境フォーラム湖東, 湖東地域環境シンポジウム・ワークショップ, 滋賀県立大学 (滋賀県彦根市), コーディネーター・講師.

2006 年 10 月 29 日, おさかなさがし, 針江生水の郷委員会, 針江生水の郷「おさかなさがした～い」, 針江大川 (滋賀県高島市), 魚類調査指導員.

2006 年 11 月 19 日, 東近江お魚調査隊黙黙川射光寺川調査, 東近江市生活環境部生活環境課, 東近江市地域学事業「お魚調査」⑥, 能登川地域 (滋賀県東近江市), コーディネーター・魚類調査指導員.

2006 年 11 月 26 日, お魚の自然観察会, 琵琶湖博物館うおの会, 第 42 回琵琶湖博物館うおの会定例調査, 草津市の湖岸・水路 (滋賀県草津市), 魚類調査員.

2006 年 11 月 26 日, 琵琶湖お魚ネットワーク上級調査員講座, 琵琶湖博物館うおの会, 第 42 回琵琶湖博物館うおの会定例調査, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), 講師.

2006 年 12 月 3 日, 平成 18 年度 第 5 回環境・ほっと・カフェ, 滋賀県環境学習支援センター、しが協働部活プロジェクト, 平成 18 年度 滋賀県県民環境学習のつどい, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), コーディネーター.

2006 年 12 月 17 日, お魚の自然観察会, 琵琶湖博物館うおの会, 第 43 回琵琶湖博物館うおの会定例調査, 烏丸半島 (滋賀県草津市), 魚類調査員.

2007 年 1 月 21 日, 琵琶湖流域におけるブルーギルの生息リスク評価, 琵琶湖を戻す会, 第二回「外来魚情報交換会」, 草津市市民交流プラザ (滋賀県草津市), 発表者.

2007 年 2 月 4 日, 東近江の水環境とまちづくり, 東近江市生活環境課, 東近江地域学フォーラム「わがまち東近江の水辺と魚たち」, 東近江市立八日市図書館 (滋賀県東近江市), 講師.

2007 年 2 月 25 日, 琵琶湖お魚ネットワーク成果報告, 琵琶湖お魚ネットワーク・WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト・琵琶湖博物館子ども体験教室実行委員会 (文部科学省子どもの居場所事業), 第 3 回琵琶湖

お魚ネットワーク交流会ありがとう REPORT, コーディネーター・報告者.

メディアへの協力

2006 年 8 月 17 日, 産経新聞, ブルーギルは浅瀬嫌い, ブルーギルの研究成果の解説, (2006 年 7 月取材) .

2007 年 2 月 20 日, 山陰中央新報・四国新聞・愛媛新聞・高知新聞など全国 15 社以上 (共同通信発信), 琵琶湖流域におけるブルーギルの生息環境について, ブルーギルの季節移動性の解説 (2007 年 2 月 6 日取材).

2007 年 2 月 21 日～3 月 19 日, 毎日, 日経, 中日, 河北新報, 朝日, 読売など, WWF 製作淡海に生きる DVD の作成について (2007 年 2 月 20 日滋賀県庁記者会見発表) .

2007 年 2 月 23 日, 毎日新聞記念特集別刷 (全国版), 琵琶湖お魚ネットワーク, 琵琶湖お魚ネットワークの解説, (2007 年 2 月 7 日取材) .

2007 年 2 月 25 日, 毎日新聞 (滋賀版), お魚ネットワークきょう交流会, 琵琶湖お魚ネットワークの解説, (2007 年 2 月 7 日取材) .

2007 年 2 月 26 日, 中日新聞, 外来種非常に多い琵琶湖お魚ネットワークが草津で交流会, 琵琶湖お魚ネットワークの成果についての解説, (2007 年 2 月 25 日取材) .

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義 (3 回) .

総合・共同研究における成果一覧

- Fujita, Y. & Nakahara, H. (2006) Variations in the microalgal structure in paddy soil in Osaka, Japan: comparison between surface and subsurface soils. *Limnology*, 7: 83-91.
- 亀田佳代子. (2006) 陸上生態系と水域生態系をつなぐもの-海鳥類の物質輸送と人間とのかかわり-. 山岸哲監修, 保全鳥類学, 京都大学学術出版会, 京都: 167-189.
- Kameda, K., Koba, K., Hobara, S., Osono, T. and Terai, M. (2006) Pattern of natural ^{15}N abundance in lakeside forest ecosystem affected by cormorant-derived nitrogen. *Hydrobiologia*, 567 : 69-86.
- 亀田佳代子・保原達・大園享司・木庭啓介・石田朗・八尋克郎. (2006) カワウによる水域から陸域への物質輸送と環境変化の影響. 国際湿地再生シンポジウム 2006-湿地の保全再生と賢明な利活用-報告書, : 358-365.
- Kobayasi, N., Ohtsuka, T. & Saigusa, M. (2006) Case studies on the seasonal changes of diatom community in paddy fields. *Journal of Integrated Field Science*, 3 : 95-101.
- Nakano, S., Takeshita, A., Ohtsuka, T. & Nakai, D. (2006) Vertical profiles of current velocity and dissolved oxygen saturation in biofilms on artificial and natural substrates. *Limnology*, 7 : 213-218.
- Ohtsuka, T., Kudoh, S., Imura, S. & Ohtani, S. (2006) Diatoms composing benthic microbial mats in freshwater lakes of Skarvsnes ice-free area, East Antarctica. *Polar Bioscience*, 20 : 113-130.
- Osono, T., Hobara, S., Koba, K. and Kameda, K. (2006) Reduction of fungal growth and lignin decomposition in needle litter by avian excreta. *Soil Biology and Biochemistry*, 38: 1623-1630.
- Takahashi, T., Kameda, K., Kawamura, M. and Nakajima T. (2006) Food habits of great cormorant *Phalacrocorax carbo hanedae* at Lake Biwa, Japan, with special reference to ayu *Plecoglossus altivelis altivelis*. *FISHERIES SCIENCE*, 72: 477-484.
- 山川千代美・此松昌彦・八尋克郎・里口保文・石田志朗 (2007) 伊吹山南麓に分布する中部更新統寺林層の植物化石および昆虫化石に基づく古環境復元. 第四紀研究, 46 (1) : 1-18.

2006 年度の研究活動をふりかえって

今年度は琵琶湖博物館の中長期計画の第 2 段階の最初の年であり、今後は琵琶湖博物館ならではの学際的あるいは地域的な研究をなお一層推進していくことを目標として掲げている。

研究・調査活動においては、総合研究 3 件、共同研究 9 件、申請専門研究 3 件、専門研究 29 件を行った。開館以来の総合研究や共同研究などの件数は減少傾向にあったが、今年度はひとまず 3 件の総合研究を開始することができた。

県費以外の外部の助成による研究あるいは研究の分担者として、17 人の学芸職員による 38 件が行われた。今後も外部からの資金も活用しながら研究を活発化するとともに館外の方々との共同研究によって研究能力を高める活動を継続する必要がある。

成果の発信については、学術論文 33 件、専門分野の著作 82 件、そして一般向けの著作として新聞への原稿も含め 165 件が行われた。今後は数だけを問題とするのではなく、琵琶湖博物館の中長期計画に照らし合わせた学際的あるいは地域を対象としながらも国際的な関心を呼ぶような研究をひとつでも増やすことを目標としたい。

その他、館内事業としては、例年は 1 回しか行っていない研究発表会を 4 回開催した。この 4 回の発表会のうち、1～3 回目では研究部の 3 つの領域におけるこの 10 年間の研究成果を中心に発表を行った。また、4 回目には中長期方針に沿って琵琶湖地域の研究を行っている個人や団体に集まっていたきアトリウムでのポスター発表を中心に研究の発表交流を行った。発表は 38 件あり充実したものとなった。

特別研究員については、5 名の外部研究員が琵琶湖博物館の施設を利用して研究を行い、またセミナーで発表を行った。その他、4 名の外部研究者が施設利用手続きの後、生態進化実験室、共同利用研究室などの施設を利用した。外部の研究者との共同研究を活発化し、互いに議論をする中で研究能力が向上していくことを考えると今後も施設利用者が増加する傾向が望まれる。

この他、琵琶湖博物館開館 10 周年を記念して、開館以来 10 年間の研究部の活動などを「琵琶湖博物館 研究部 10 年の歩み」にまとめて出版した。この冊子が、これまでの活動を総括し、今後の研究部の進む方針の足がかりとなること期待したい。

研究部長 高橋啓一

琵琶湖博物館業績目録 第 11 号

2006 年度

平成 19 年（2007 年）10 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091

電話 077-568-4811 (代)

Performance Records of the Lake Biwa Museum

No. **11** Fiscal 2006



滋賀県立
琵琶湖博物館

〒525-0001 草津市下物町1091
TEL.077-568-4811代 FAX.077-568-4850

LAKE BIWA MUSEUM
1091 Oroshimo,Kusatsu,
Shiga 525-0001,Japan